群馬県前橋市

熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡

清里前原住宅団地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1991

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は北に赤城山、西に榛名山を望む関東平野の北部を市域とした県都であります。北から南に貫流する利根川の清流は「水と緑と詩の町」を潤し、かっては「糸の町」として養蚕製糸で栄えてきました。今人口28万余を擁し生涯教育都市を目指し、教育文化・商工業の調和のある「豊かで、すばらしい社会を築く、街づくり」を進めています。市では工業団地、住宅団地の造成を通し、福祉、教育、文化、環境等の整備、拡充の施策のひとつとして、清里前原住宅団地造成事業を前橋工業団地造成組合で進めています。この事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、前橋市埋蔵文化財発掘調査団のもとで、発掘調査を実施したものであります。

熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡（清里前原住宅団地造成地）の所在する青梨子町は前橋市中心市街地から西へ６km程にあり、利根川右岸前橋台地に榛名山火山斜面が被り、裾野になるこの地は桑畑の多い緑豊かな農村地帯であります。

周辺地域には古来より国府や国分寺がおかれ、古代上野国の政治・文化の中心地域とされる元総社地区が３km程東南にあります。

発掘調査は住宅団地造成地について実施し、平成元年度調査の「熊野谷Ⅱ遺跡」では平安期の住居跡４軒、平成２年度調査の「熊野谷Ⅲ遺跡」は平安期の住居跡16軒・方形遺構１ヶ所・溝遺構４条・土坑２ヶ所の他、多数の土師器・須恵器など遺物を検出し、記録保存をいたしました。

この調査報告書を刊行するにあたり、前橋工業団地造成組合を始めとする関係機関各方面の多くの方々の御理解と御協力を得たことに対し厚く御礼申し上げます。

平成　３年　３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　遠　藤　次　也

例　　言

Ⅰ　本書は前橋工業団地造成組合の清里前原住宅団地造成工事にさきがけて実施した埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

Ⅱ　熊野谷Ⅱ遺跡　（略称1A－42）

1 発掘調査は前橋工業団地造成組合（管理者清水一郎）の委託を受け、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が実施した。

2 調査担当者　遠藤和夫（前橋市埋蔵文化財発掘調査団　発掘調査係員）
園部守央（　〃　〃　）
井野修一（　〃　〃　）
鈴木雅浩（　〃　〃　）
新保一美（　〃　〃　）

3 調査面積　1,000 m²

4 所在地　前橋市青梨子町字熊野谷地内

5 調査期間　発掘　平成元年6月2日～平成元年6月26日
整理　平成2年8月21日～平成3年3月25日
（整理業務はスナガ環境測設株式会社が実施した。）

Ⅲ　熊野谷Ⅲ遺跡　（略称2A－42）

1 発掘調査は立合者　前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長遠藤次也）の立ち合いのもとに、委託者　前橋工業団地造成組合（管理者清水一郎）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役須永眞弘　前橋市青柳町２１１－１）が実施した。

2 調査担当者　園部守央（前橋市埋蔵文化財発掘調査団　発掘調査係員）
荻野博巳（スナガ環境測設株式会社　調査員）

3 調査面積　4,000 m²

4 所在地　前橋市青梨子町1219-1番地　外　地内

5 調査期間　発掘　平成2年6月1日～平成2年8月21日
整理　平成2年8月21日～平成3年3月25日

6 発掘調査の主な作業分担

調査指揮指導を荻野博巳（熊野谷Ⅲ遺跡調査事務所長）が当り、測量・調査計画を須永眞弘（測量士　第52614号）が行い、測量を板垣宏（測量課長）・勝田貞幸（調査助役）・樺沢高幸（測量主任）・佐々木智恵子・角田朱美が当った。遺構・遺物の写真撮影を荻野博巳・勝

田貞幸が、発掘調査の安全管理・石島正二（総務役）、作業事務・柴崎信江が担当した。

Ⅳ　本書は調査団の指導のもとに、スナガ環境測設株式会社埋蔵文化財調査部（専務取締役兼部長　金子正人）が作成に当り、執筆・荻野博巳、校正・金子正人、編集・須永眞弘、文章清書・須永薫子、測量図書の整理校正・勝田貞幸、遺物の復元・実測・計測を佐々木智恵子・角田朱美、遺構トレース・小林裕美、写真製版・鈴木赳夫、内業事務・須永豊が担当した。

Ⅴ　調査に協力を戴きました前橋工業団地造成組合を始め、地元の方々及び調査並びに整理に際して指導、助言を賜った各方面の方々に深甚なる感謝を申し上げます。

Ⅵ　出土遺物は前橋市教育委員会に保管する。

Ⅶ　調査に参加した方々（いろは順）

石川サワ子	橋本登代美	小野沢はつ江	樺沢美穂	吉田真理子
高橋初代	田中善四郎	辻みつる	中川類子	内山恵美子
山崎勘治	深沢千代	小池英子	佐藤佳子	峰岸あや子
関根初江				

凡　　例

1　遺構名・略称

遺構名と略称は次の通りとした。

土師器住居跡　H　　溝遺構　W　　土　坑　D　　ピット　P

2　実測図の縮尺

位置図S=1/7000　　全体図　S=1/400　　住居跡S=1/60　　溝遺構S=1/60

土坑　S=1/60　　竈　　S=　1/30　　遺物実測図　S=1/1・1/3　・1/5

3　挿入図

国土地理院発行の５万分の１「前橋」を使用した。

4　遺跡の位置の基準

基準点　　国土地理院三角点及水準点を照合済み

A-0 地点　第Ⅸ系　座標値 x=45,596.000m　y=-73,216.000m

水 準 点　BM_1 H=152.000m

　　BM_2 H=151.500m

等 高 線　10 cm

グリッド　4 m 間隔

5　土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版標準土色帖」による。

目　　次

序

例言

凡例

目次

第１章　調査の経緯と概要……1

　1　調査の経緯……1

　2　発掘調査の経過と概要……1

　3　標準堆積土層……4

第２章　位置と環境と周辺遺跡……6

第３章　遺構と遺物……7

　1　熊野谷Ⅱ遺跡（住居跡）……7

　2　熊野谷Ⅲ遺跡……9

　　（１）住居跡……9

　　（２）方形遺構……16

　　（３）溝遺構……16

　　（４）土　坑……18

第４章　まとめ……19

出土遺物観察表　熊野谷Ⅱ遺跡……22

　　熊野谷Ⅲ遺跡……23

遺構実測図　熊野谷Ⅱ遺跡……第５～10図

　　熊野谷Ⅲ遺跡……第11～31図

遺物実測図　熊野谷Ⅱ遺跡……図１～２

　　熊野谷Ⅲ遺跡……図３～６

図　版　熊野谷Ⅱ遺跡……図版１～４

　　熊野谷Ⅲ遺跡……図版５～17

位 置 図（S=1:7000）……第32図

全体平面図（S=1:400）……第32図

第 1 章　調 査 の 経 緯 と 概 要

1 調査の経緯

前橋市は『豊かで、すばらしい社会を築く、街づくり』の施策のひとつとして、工業団地及びこれに附随する住宅団地の造成を通し、福祉、教育、文化、環境等の整備、拡充を目的に昭和35年「前橋工業団地造成組合」を群馬県と組織し、以来、工業団地造成事業を進めていますが、この一環の事業として、昭和63年度清里前原住宅団地造成事業が実施されることになり、これに伴う埋蔵文化財発掘調査業務について、前橋工業団地造成組合（管 理 者 清 水 一 郎）と前橋市教育委員会の協議により、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が昭和63年６月１日～昭和63年11月15日で発掘調査終了、調査整理を平成元年２月28日に完了し「熊野谷遺跡」として報告されている。引き続き平成元年度「熊野谷Ⅱ遺跡」、平成２年度「熊野谷Ⅲ遺跡」の発掘調査を実施したものであります。

2 発掘調査の経過と概要

1 ） 熊 野 谷 Ⅱ 遺 跡

前橋市教育委員会と前橋工業団地造成組合で協議のうえ、面積約 1,000 m² について、発掘調査を実施することになった。平成元年度事業は平成元年６月２日から６月26日を発掘調査期間とし、調査整理期間は平成２年８月21日から平成３年３月25日とする日程で作業に着手した。

（１）遺跡の名称・略称

当遺跡は地区別コードにより清里地区であることから、略称1A－42とし、出土遺物の注記、製作図面の略称として記入した。

（２）作業の状況

発掘作業は表土排除をバックホウ0.7(m³) を使用して作業を進め、引き続きジョレン精査・プラン確認等の作業を進めた。

発 掘 調 査 日 誌 抄

平成元年６月２日　幹線道路部分の重機掘削・排土部分のプラン確認等の開始

５日　グリッド杭測設開始

８日　簡易トイレ設置・機材搬入完了

12日　遺構掘り下げ・竈セクション線引き・発掘前全景・遺物出土状況

セクションの写真撮影・セクション図作成開始

13日　セクション図注記開始

14日　平面図作成開始

17日　遺跡全体図作成

22日　縄文試掘セクション写真撮影

23日　床掘り方開始

26日　調査区全体写真撮影・図面作成作業完了・調査完了

２）熊野谷Ⅲ遺跡

前橋市教育委員会と前橋工業団地造成組合で協議のうえ、面積約 4,000 m² について、発掘調査を実施することになった。調査は平成２年度事業として、平成２年６月１日から平成２年８月20日を発掘調査の期間とし、平成２年８月21日から平成３年３月25日を調査整理の期間とする日程で作業に着手した。

（１）遺跡の名称・略称

当遺跡は地区別コードにより清里地区であることから、略称2A－42とし、出土遺物の注記、製作図面の略称として記入した。

（２）発掘調査区域

調査対象区域は４ｍ単位の緯線（東西の線）と経線（南北の線）を調査グリッドとした。調査グリッドの緯線には北から南へアルファベット（ＡからＹまで文字）を付け、経線には西から東へ算用数字（１・２・３・・・）を付けて表した。４ｍグリッドの呼び方は北・西の交点の文字で呼ぶこととした。

（３）測量杭

グリッド交点杭測量は公共座標から取り付け、水準値は公共水準のＢＭから測設した。

（４）実測原図の用紙と原図の縮尺

実測図の原図はポリエステルシートＡ－２判を用い、温度・湿気・少々の汚れ・破損などに耐えられるようにした。

原図の縮尺

遺跡全体図 S=1:200　　住居跡 S=1:20　　方形遺構 S=1:20

溝遺構 S=1:20　　土　坑 S=1:20　　竈 S=1:10

（5）遺構と遺物の調査

遺構は、使用面と掘り方面について出来る限り両面を調査し遺構埋没状況、遺構構築状況を観察記録した。

遺物は個々に、観察表に記録した。包含層の遺物は、調査グリッド毎に取り上げた。

（6）作業状況

発掘作業は既設木造住宅撤去作業の完了を受けて、平成　2 年　6 月 19 日から　8 月20日の予定で着手し、表土排除はバックホウ0.7(m³) を使用して作業を進め、引き続きジョレン精査・プラン確認の作業を進めた。

発 掘 調 査 日 誌 抄

平成２年６月19日　作業事務所設置・機材等の搬入などの作業に着手

21日　重機にて表土掘削作業の開始・事務所設置・機材搬入完了
ジョレン掛け・プラン確認作業・遺構ナンバーつけ開始

30日　水道設備工事・水準点（ＢＭ）・基準点座標杭設置完了
遺跡全体平面測量(S=1:200) 開始

７月５日　遺構遺物出土状況写真撮影開始・地断の確認（セクションの線引き）・グリッド杭測設開始・重機にてF_A面まで掘削・搬出作業の開始・セクションの写真撮影開始・遺構平面測量(S=1:20)
住居跡平面測量(S=1:20)開始

７月11日　溝跡発掘作業開始

28日　溝跡完掘・出土状況写真撮影

31日　空中写真撮影

８月１日　東側調査区の発掘残土を西側調査完了区に重機・大型ダンプで天地返しを開始

４日　ジョレン掛け・住居跡６軒プラン確認作業・住居跡発掘開始・地断の確認（セクション線引き）・グリッド杭測設開始・遺構平面測量(S=1:20)・住居跡平面測量(S=1:20)開始
出土状況写真撮影

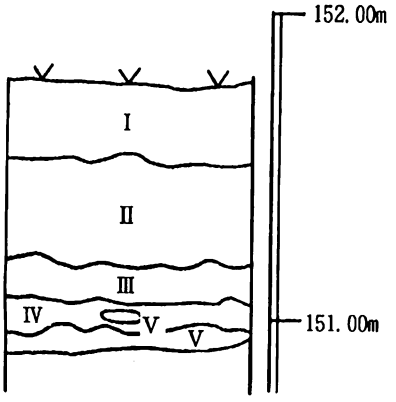
20日　完掘写真完了・空中写真撮影・園部発掘調査係員来跡あり確認す

21日　調査区の埋め戻し・作業事務所・機材等搬出

整理作業	8月21日	遺物の洗浄注記・測量図面の整理作業開始・記録写真の整理・住居跡の原稿執筆作業開始
	29日	記録写真の整理・住居跡の原稿執筆開始・遺物の接合作業開始
	30日	測量図の製版カメラによる縮小作業を行う
	12月6日	住居跡床面積の図上計測を行う
	13日	接合遺物の石膏入れ作業開始
	25日	遺物実測図化作業開始
	26日	遺物実測図の製版カメラによる 1/3縮小作業開始
	28日	住居跡平面図・断面図の製版カメラによる 1/3縮小作業開始
	平成3年1月10日	報告書原稿執筆・編集作業開始
	14日	溝状遺構の原稿執筆作業開始
	21日	遺跡全体図の作成作業開始
	3月8日	遺物写真撮影作業を行う
	24日	報告書原稿執筆・編集作業完了
	25日	報告書原稿印刷

3 標準堆積土層

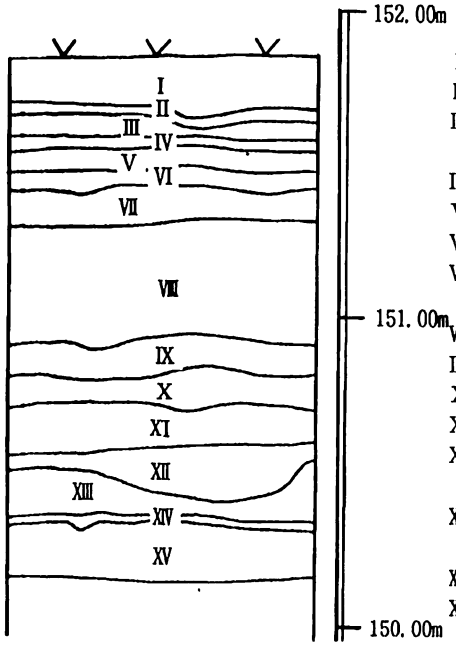
第1図 熊野谷Ⅱ遺跡



Ⅰ層	暗褐色土層	Hr-FP 混入耕作土・As-Bらしき粗砂多量に混じる・しまりは有るが粘性はあまりない
Ⅱ層	暗褐色土層	細砂耕作土・しまり粘性ややあり
Ⅲ層	黒褐色土層	粗砂φ5mm程度の軽石極わずか含む・しまり粘性共にややあり
Ⅳ層	黒褐色土層	細砂φ3mm程度の軽石点在・φ2～3mmの軽石1％含む・しまり粘性ややあり
Ⅴ層	黒色土層	細砂φ2mm～5mmの軽石1％を含む・しまり粘性共にややあり

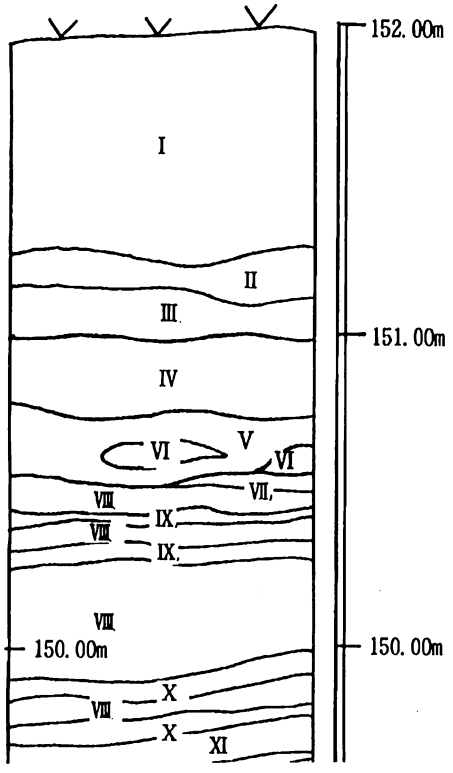
（註） As-浅間山・Hr-榛名山

第 2 図 熊野谷Ⅲ遺跡 A 区

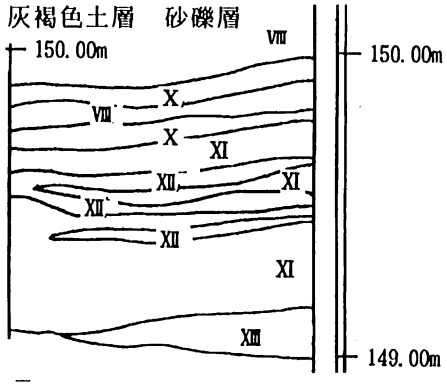


Ⅰ層	褐色土層	耕作土・φ2mm～10mm軽石を含む
Ⅱ層	黄褐色土層	As-B
Ⅲ層	黄褐色土層	As-B•Hr-FA•Hr-FPF1が層状に硬くしまる
Ⅳ層	にぶい褐色層	Hr-FA 層・粘性有り
Ⅴ層	黒色土層	As-Cを含む・粘性はあまりない
Ⅵ層	暗褐色土層	As-Cを多く含む・粘性はない
Ⅶ層	暗赤褐色土層	粘性しまりあり(ロ-ム土)・酸化したAs-Cの粒を含む
Ⅷ層	暗赤褐色土層	粘性しまりが有り(ロ-ム土)
Ⅸ層	褐灰色土層	粗砂を多く含む・溝状を呈す
Ⅹ層	褐灰色土層	粗砂を含む・溝状を呈す
Ⅺ層	灰白色土層	シルト層が溝状を呈す
Ⅻ層	灰褐色土層	粗砂層・細砂層がしまりのある層を成す・溝状を呈す
XIII層	褐灰色土層	細砂層・微砂層がしまりのある層を成す・溝状を呈す
XIV層	灰白色土層	シルト層が溝状を呈す
XV層	褐灰色土層	細砂がしまりのある層を成し溝状を呈す

第 3 図 熊野谷Ⅲ遺跡 B 区



Ⅰ層	盛土	
Ⅱ層	黒褐色土層	粘性しまりがなく•Hr-FPと粗砂を含む
Ⅲ層	黒色土層	粘性しまりややあり・As-Cを含む
Ⅳ層	褐色土層	粘性しまりあり・As-Cを含む
Ⅴ層	褐色土層	細砂・As-Cを含む黒褐色土が混入
Ⅵ層	灰褐色土層	粘土層に礫を含む褐色土が混入
Ⅶ層	黒色土層	粘質土
Ⅷ層	灰褐色土層	粘土層に細砂を含む
Ⅸ層	灰褐色土層	粘土層
Ⅹ層	灰白色土層	粘土層
Ⅺ層	灰色土層	砂層
Ⅻ層	灰色土層	微砂層
XIII層	灰褐色土層	砂礫層

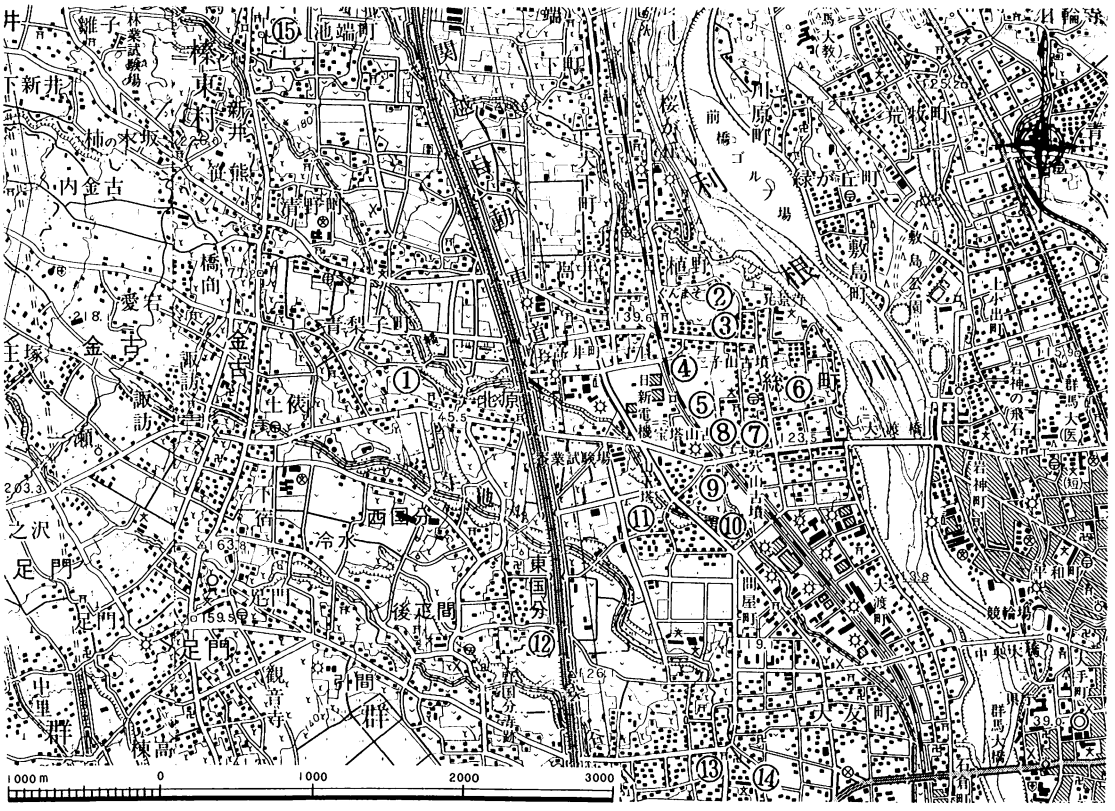


第２章　位置と環境と周辺遺跡

熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡の所在する前橋市青梨子町は前橋市の中心市街地から北西約６Kmにある。主要地方道前橋・箕郷線が200m程南を東西に通り、西に向って1.2Km 程行けば南北に通る主要地方道渋川・高崎線に交差する。また東へ0.5Km 程に関越自動車道が南北に通り、これに平行してこれより東1.0Km 程にＪＲ上越線に当る。上越線の群馬総社駅は当遺跡から約2.5Km にある。榛名山東南麓に広がるなだらかな斜面上に当遺跡がある。榛名火山斜面の火砕岩層が前橋台地を形成する泥流堆積物上に被るように地層を形成している。

この斜面を流下する八幡川と牛池川によって開析され、八幡川右岸台地は断崖となり高低差が大きく、土地が乾燥するため、農作物は畑作によるものが多く、特に養蚕飼育が盛んに行なわれ江戸末期から明治初期には座繰製糸器が考案され、養蚕飼育方法などが改良されるなど農民の生業は養蚕中心の地域でもある。

第４図　周辺遺跡の位置図 S=1:50,000



①熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡　②若宮遺跡　③稲荷山古墳　④二子山古墳　⑤愛宕山古墳
⑥遠見山古墳　⑦蛇穴山古墳　⑧宝塔山古墳　⑨村東遺跡　⑩昌楽寺廻向遺跡
⑪山王廃寺跡　⑫国分寺中間地域遺跡　⑬国府推定地域　⑭寺田遺跡　⑮清里陣場遺跡

第３章　遺構と遺物

１　熊野谷Ⅱ遺跡

調査は土師器住居跡４軒を確認した。

１号住居跡（第５図、図版１）

調査区中央部東寄りのＰ－23・24からＱ－23・24グリッドに位置する。覆土は粘性をあまり帯びず細砂を含む黒褐色土・鈍い赤褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.2m・短軸（東西方向）2.3mの隅丸方形を呈す。主軸方向はN-8°-Eを測る。確認面から18～20cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。床は、ほぼ平坦で面積は6.14m²を測る。

竈は東壁の南寄りに位置し壁外に張り出して構築され、主軸方向（θ）=N-115°-Eを測る。竈の覆土は、粘性を帯びず焼土粒・細砂を含む褐色土・黒褐色土が堆積している。

竈の寸法は最大幅(a)=53cm・全長(b)=50cm・炊き口部幅(h)=45cmを測る。燃焼部は床面より７cm程掘り込まれている。

遺物は土師器坏、須恵器坏片などの他、縄文土器の小片を検出した。

２号住居跡（第６図、図版１）

調査区中央部北寄りのＮ－22からＯ－21・22グリッドに位置する。覆土は粘性をあまり帯びずHr-FP・Ｃ軽石をわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）2.9m・短軸（東西方向）2.2mの隅丸方形を呈す。主軸方向はN-14°-E を測る。確認面から21～24cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。床は、ほぼ平坦で面積は5.12m²を測る。ピット、壁溝は確認されなかった。

竈は東壁の南寄りに位置し壁外に張り出して構築され、主軸方向（θ）=N-113°-Eを測る。

覆土は細砂を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。炊き口付近に竈の構築材と思われる粘土塊が見られる。

竈の寸法は全長(b)=60cmを測る。燃焼部は床面より７cm程掘り込まれている。

遺物は土師器甕、須恵器埦、土師質埦などの他、刀子、鉄鏃を検出した。

３号住居跡（第７図、図版２）

調査区中央部のＰ－22・23グリッドに位置する。覆土はＣ軽石をわずか含む暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）2.9m・短軸（東西方向）2.4mの隅丸方形を呈す。主軸方向はN-6°-Eを測る。確認面から３～４cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。床は、やや凹凸がある。面積は6.48m²を測る。

ピット、壁溝は確認されなかった。

竈は東壁のやや南寄りに位置し壁外に張り出して構築され、主軸方向（θ）=N-102°-Eを測る。覆土は焼土、炭化物を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は最大幅(a)=60cm・全長(b)=44cm・炊き口部幅(h)=55cmを測る。燃焼部は床面より９cm程掘り込まれている。

遺物はわずか土師器片、須恵器片などを検出した。

４号住居跡（第８・９・10図、図版２）

調査区南部のＲ－21・22からＳ－21・22グリッドに位置する。覆土は二次堆積のＢ軽石とＣ軽石・焼土・炭化物を含む暗褐色土・黒褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）4.8m・短軸（東西方向）4.0mの隅丸方形を呈す。主軸方向はN-2°-Eを測る。確認面から45～50cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。

床はほぼ平坦である。面積は13.95m² を測る。壁溝は北西隅から東方向へ長1.0m程・南方向へ長1.5m程・幅14～20cm・床面から深４～８cmを測る。

ピットは床面から３ヶ所確認した。

（註）深：確認面からの深さ

ピット等の名称	形状寸法cm				所在・その他
	形状	長径	短径	深	
Ｐ－１	楕円	44	32	21	東壁竈の左側
Ｐ－２	楕円	62	54	22	南西コーナー
Ｐ－３	楕円	100	80	20	西壁際中央

上記の他に、厚さ10cm程の貼り床下（掘り方）から径25cm（円形）・深25cmのピット４ヶ所や床下土坑と思われる楕円状の長径70cm・短径50cm・深23cmのもの、楕円で長径110cm・短径88cm・深27cmのもの、楕円で長径70cm・短径60cm・深20cmのものが確認されている。

竈は東壁の中央やや南よりに位置し、住居跡内に竈の袖が構築され、高さ30cm、厚み８～13cm程の袖石など竈構築材５個を検出している。燃焼部は良く焼け、残存状況もよい。

主軸方向（θ）=N-92°-E を測る。覆土は焼土粒を含む暗褐色土・黒褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=160cm ・炊き口部幅(h)=46cm・煙道部立ち上がり角度（σ）=20° を測る。炊き口から燃焼部にかけて床面より５cm程掘り込まれている。

遺物は須恵器坏・塊、土師質塊・羽釜などの破片の他、貨幣、石斧を検出した。

2 熊野谷Ⅲ遺跡

調査は土師器住居跡16軒（重複遺構１軒・竈が確認できないもの３軒・覆土が攪乱されプランだけのもの１軒・溝遺構と重複し一部不明のもの２軒、計７軒を含む。）・方形遺構１ヶ所・溝遺構４条・土坑２ヶ所を確認した。

（１）住居跡

１号住居跡（第11図、図版６）

調査区北西部のＢ－４グリッドに位置する。地表面から35cm程排土した確認面にある。覆土はＣ軽石を含む暗褐色土が堆積している。住居跡（Ｈ－１）の北側一部が調査区域外にあり、西側1/3程は、調査区西域を南北に走る１号溝（Ｗ－１）と重複して確認した。重複の新旧関係はＷ－１によって住居跡が切られていることから当住居跡が旧い遺構である。

住居跡の形状は東西方向の実測値2.0mで以西はＷ－１と重複する。南北方向の実測値2.7mで以北は調査区域外にあり不明、確認した部分から推定して隅丸方形を呈するものと思われる。確認面から10～16cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。床面は平坦だが大半が攪乱されている。計測できる面積は5.46m²である。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁に位置する。主軸方向（θ）=N-88°-E を測る。覆土は焼土ブロック・灰などを含む褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=190cm ・炊き口部幅(h)=90cmを測る。

遺物は須恵器坏・盤・蓋片・埦片など数点を検出した。

２号住居跡（第12図、図版６）

調査区北西部のＤ－２・３グリッドに位置する。地表面から40cm程排土した確認面にある。覆土はＣ軽石を含む暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）2.7m・短軸（東西方向）2.6mを測り、隅丸方形を呈す。確認面から６cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。床面は、ほぼ平坦で面積6.08m²を測る。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は南壁にあったものと思われるが１号土坑（Ｄ－１）と重複して不明である。土坑際の床面や土坑の側面・底付近からわずか焼土を確認している。新旧関係は竈をＤ－１が取り込んで構築

したと考えられ、当住居跡が旧いものと思われる。

遺物は床面から土師器の小破片数点を検出した。

3 号 住 居 跡（第13図、図版６）

調査区北西部のＣ－４からＤ－４グリッドに位置する。地表面から38cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・Ｃ軽石をわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。当住居跡の西側大半が１号溝（Ｗ－１）と重複して確認した。重複の新旧関係はＷ－１によって住居跡が掘り切られたと考えられ、この場所の溝部分から出土遺物がない等から住居跡が旧いと考えられる。

住居跡の形状は南北方向4.6mを測り、東西方向の実測値1.4mで以西はＷ－１に重複している。住居跡の残り状況から隅丸方形を呈するものと思われる。

床面は確認面から30cm程掘り込んで達する。やや凹凸がある。床面積は6.13m²を測る。壁は直に立ち上がる。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は確認できなかった。

遺物は須恵器蓋・高台付埦・壺・大甕、土師器甕片・坏片など多数検出している。

4 号 住 居 跡（第14・15図、図版６・７）

調査区中央西寄りのＨ－５からＩ－５グリッドに位置する。地表面から54cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・Ｃ軽石を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。当住居跡の西側大半が１号溝（Ｗ－１）と重複して確認した。重複の新旧関係はＷ－１によって住居跡が掘り切られたもので当住居跡が旧いと考えられる。

住居跡の形状は南北方向3.6mを測り、東西方向の実測値2.0mで以西はＷ－１に重複している。住居跡の残り状況から隅丸方形を呈するものと思われる。

床面は確認面から30cm程掘り込んで達する。比較的平坦で、面積は9.57m²を測る。壁は直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

ピットは東壁際の竈南から楕円状の長径54cm・短径45cm・深48cmを確認した。

遺物は土師器甕・坏、須恵器甕・埦など多数検出している。出土遺物も少なく、焼土も確認できなっかた。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央に位置し、全体に壁外に張り出して構築され、炊き口付近の床を６cm程高くしている。竈の主軸方向（θ）=N-88°-E を測る。覆土は締まりのある褐色土・暗褐色土が堆積している。竈の寸法は全長(b)=70cm・煙道部長(f)=34cm・炊き口部幅(h)=40cm・煙道部立ち上がり角度（σ）=20° を測る。燃焼部は床面より５cm程掘り込まれている。

遺物は須恵器蓋・甕片・埦片、土師器甕片などを検出した。

5 号 住 居 跡 （第16・17図、図版７）

調査区南側中央付近のＯ－７・８グリッドに位置する。地表面から113cm 程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・Ｃ軽石をわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.7m・短軸（東西方向）2.8mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-4°-Eを測る。.

床面は確認面から20cm程掘り込んで達する。床面は平坦で面積は9.09m²を測る。壁は直に立ち上がる。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し、やや両袖が内側に張り出している。主軸方向（θ）= N-100°-Eを測る。覆土は焼土粒・炭化物を含む暗褐色土が堆積している。竈の両袖から燃焼部内にかけて構築材と思われる径12～20cm程の石が数個出土している。

竈の寸法は全長(b)=85cm・炊き口部幅(h)=35cmを測る。炊き口部から燃焼部にかけて床面より12cm程掘り下げられている。

遺物は竈から須恵器坏、床面から土師質羽釜・高台付埦、須恵器高台付埦など多数検出した。

6 号 住 居 跡 （第18図、図版７）

調査区南側中央付近のＰ－７からＱ－７グリッドに位置する。地表面から97cm程排土した確認面にある。覆土は粘性を帯びてわずかHr-FP・Ｃ軽石を含む暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.5m・短軸（東西方向）3.0mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-18°-E を測る。

床面は確認面から30cm程掘り込んで達する。床面はほぼ平坦で良く締まっている。面積は9.07m²を測る。壁は直に立ち上がる。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し壁外に構築している。主軸方向（θ）= N-112°-E を測る。覆土は焼土粒・Ｃ軽石をわずか含む暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=90cm・炊き口部幅(h)=74cm・煙道部立ち上がり角度（σ）=40° を測る。炊き口部は床面より８cm程掘り下げられている。

遺物は須恵器高台付埦・甕片・埦片、土師器片などを検出した。

7 号 住 居 跡 （第19図、図版８）

調査区南側中央付近のＰ－８からＱ－８グリッドに位置する。地表面から 100cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・Ｃ軽石を含む暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（東西方向）3.5m・短軸（南北方向）2.4mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向は N-105°-E を測る。

床面は確認面から28cm程掘り込んで達する。床面は平坦で良く締まり、面積は7.17m²を測る。

壁は直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

ピットは北東コーナー壁際から円状の径48cm・深24cmを確認した。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し壁外に構築している。主軸方向（θ)=N-176°-Wを測る。覆土は焼土粒・C軽石をわずか含む暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=90cm・炊き口部幅(h)=45cm・煙道部立ち上がり角度（σ)=45° を測る。炊き口部は床面より10cm程掘り下げられている。

遺物は土師質坏・甕片、須恵器甕片・羽釜片などを検出した。

8 号 住 居 跡（第20・21図、図版８）

調査区南側やや東寄りのＰ－12からＱ－12グリッドに位置する。地表面から 100cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・C軽石を含む暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（東西方向）2.8m・短軸（南北方向）2.1mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-12°-E を測る。

床面は確認面から20～30cm程掘り込んで達する。床面はほぼ平坦で面積は4.78m²を測る。壁は直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

ピットは北東コーナー壁際から円状・直径約40cm・深約16cmを確認した。

土坑は住居跡中央から円状・直径約60cm・深約19cmを確認した。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し壁外に構築され、右の袖石・燃焼部の支脚石と思われる石を検出した。主軸方向（θ)=N-98°-W を測る。覆土は炭化物・焼土粒・わずかHr-FP を含む暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=68cm・炊き口部幅(h)=28cmを測る。

遺物は土師質羽釜・坏、土師器甕・坏片・埦片、須恵器甕片・坏片などを検出した。

9 号 住 居 跡（第22図、図版８・９）

調査区南側やや東寄りのＯ－12・13からＰ－12・13グリッドに位置する。地表面から90cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・C軽石を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（東西方向）3.7m・短軸（南北方向）2.6mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-13°-E を測る。

床面は確認面から25～30cm程掘り込んで達する。床面はほぼ平坦で締まっている。面積は8.17m²を測る。壁は直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

ピット１（Ｐ－１）は北東コーナー壁際から円状・直径約60cm・深約20cm

ピット２（Ｐ－２）は南東コーナー壁際から円状・直径約58cm・深約26cm

の２ヶ所を確認した。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し、竈全体が壁外に張り出して構築している。主軸方向（θ)=

N-103°-Eを測る。覆土は炭化物・焼土粒・わずかHr-FP を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=70cm・炊き口部幅(h)=50cmを測る。

遺物は須恵器坏・甕片・埦片、土師質高台付埦、土師器坏・甕片・埦片などを検出した。

10号 住 居 跡 (第23図、図版9)

調査区南東隅のQ－15・16からR－15・16グリッドに位置する。地表面から80cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・C軽石を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。当住居跡は11号住居跡の大半を覆う状態で重複している。新旧関係は住居跡の残り具合などから当遺構が新しいと思われる。

住居跡の形状は長軸（東西方向）3.4m・短軸（南北方向）2.9mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向は N-103°-E を測る。

床面は確認面から22cm程掘り込んで達する。床面は硬く締まっている。面積は9.16m²を測る。壁は直に立ち上がる。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し、竈全体が壁外に張り出して構築している。主軸方向（θ)=N-108°-Eを測る。覆土は細砂・焼土粒を含む褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=70cm・炊き口部幅(h)=35cmを測る。

遺物は土師器甕片・坏片、須恵器甕片・埦片などを検出した。

11号 住 居 跡 (第23図、図版9)

調査区南東隅のQ－15・16からR－15・16グリッドに位置する。地表面から80cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・C軽石を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。10号住居跡が大半を覆う状態で重複している。新旧関係は住居跡の残り具合などから当遺構が旧いと思われる。

住居跡の形状は長軸（南北方向）2.8m・短軸（東西方向）2.5mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-14°-E を測る。

床面は確認面から22cm程掘り込んで達する。床面は硬く締まっている。面積は6.87m²を測る。壁は直に立ち上がる。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し、竈全体が壁外に張り出して構築している。主軸方向（θ)=N-113°-Eを測る。覆土は細砂・焼土粒を含む褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=92cm・炊き口部幅(h)=25cmを測る。炊き口部は床面より5cm程掘り下げられている。また両袖石やその補強材の粘土などを検出した。

遺物は土師器坏・甕片、須恵器埦片・坏片、土師質坏片などを検出した。

12号 住 居 跡 (第24・25図、図版9)

調査区南東隅のP－15からQ－15グリッドに位置する。地表面から70cm程排土した確認面にあ

る。覆土は粘性を帯び締まりのある褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.4m・短軸（東西方向）2.5mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-16°-E を測る。

床面は確認面から25～33cm程掘り込んで達する。床面はほぼ平坦で面積は6.98m²を測る。壁はやや直に立ち上がる。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央に位置し、両袖がやや住居跡内側に張り出して構築している。主軸方向（θ）=N-92°-E を測る。覆土は細砂を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。燃焼部に支脚石の穴跡と考えられる楕円状の掘り込み長径25cm・短径18cm・深６cmを確認した。

竈の寸法は全長(b)=60cm・炊き口部幅(h)=40cm・煙道部立ち上がり角度（σ）=45° を測る。

遺物は須恵器高台付皿・甕片・塊片、土師質高台付塊、土師器甕片・坏片・塊片などを検出した。

１３号 住 居 跡 （第26図、図版10）

調査区南東隅のＰ－16・17からＱ－16・17グリッドに位置する。地表面から70cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・Ｃ軽石をわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.2m・短軸（東西方向）2.5mを測り、隅丸長方形を呈し、主軸方向はN-26°-E を測る。

床面は確認面から30cm程掘り込んで達する。やや凹みがあるが硬く締まっている。面積は6.94m²を測る。壁はやや直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

下記の土坑３ヶ所を確認した。

（註）深：確認面からの深さ

土坑の名称	形状寸法			所在・その他
	形状	径	深	
Ｄ－１	円	約60cm	約15cm	北東コーナー壁際
Ｄ－２	円	約56cm	約16cm	南東コーナー壁際
Ｄ－３	円	約70cm	約20cm	中央やや西壁寄り

竈は東壁中央に位置し、壁外に構築している。主軸方向（θ）= N-115°-E を測る。覆土は細砂・焼土粒を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。右側袖石や燃焼部から煙道部にかけて掘り込みがあり焼土を確認した。

竈の寸法は全長(b)=85cm・炊き口部幅(h)=42cmを測る。

遺物は土師器甕片・坏片・塊片、須恵器甕片・塊片など数多くを検出した。

１４号 住 居 跡 （第27図、図版10）

調査区東やや中央寄りの Ｎ－17からＯ－17グリッドに位置する。地表面から50cm程排土した確

認面にある。覆土はHr-FP・C軽石をわずか含み粘性を帯び締まった褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.6m・短軸（東西方向）2.8mを測り、隅丸長方形を呈し、主軸方向はN-10°-E を測る。

床面は確認面から23～30cm程掘り込んで達する。床面はやや凹みがあり、竈付近に焼土分布ががあり硬く締まっている。面積は8.70m²を測る。壁はやや直に立ち上がる。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し、壁外に張り出して構築している。主軸方向（θ)=N-95°-E を測る。覆土は焼土粒・Hr-FP をわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=70cm・炊き口部幅(h)=50cmを測る。
炊き口部から燃焼部にかけて緩やかに床面より10cm程下がっている。

遺物は土師器坏・甕片などを検出した。

15号 住 居 跡（第28図、図版10）

調査区南東やや隅寄りのR－13・14グリッドに位置する。遺構の南は半分程が調査区域外にある。地表面から90cm程排土した確認面にある。覆土は粘性を帯びて締まり、Hr-FP・C軽石をわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡は東西方向2.5m・南北方向1.3m以南は調査区域外で不明である。形状は北西・北東コーナーが隅丸を呈している。住居跡の主軸は不明である。

床面は確認面から25cm程掘り込んで達し、平らで良く締まっている。面積2.39m²を実測した。壁は、おおむね直に立ち上がっている。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は確認されなかった。

遺物は土師器埦片・甕片、須恵器甕片・羽釜片などを検出した。

16号 住 居 跡（第29図、図版11）

調査区北側中央やや東寄りのG－14からH－14に位置する。覆土は電柱工事その他で攪乱を受け、住居跡のプランが漸く確認できた遺構である。

住居跡の範囲は長軸（東西方向）2.9m・短軸（南北方向）2.8mを測り、隅丸長方形を呈するものと思われる。主軸方向は N-100°-E を測る。床面・壁溝の状況は確認できなかった。

土坑は住居跡の東南コーナーから円状・直径約60cm・深約19cm・1ヶ所を確認した。竈の推定位置（攪乱を受けて、正確には不明）の南側であることから貯蔵穴と考えられる。

竈は東壁に位置したと考えられるが攪乱を受けて不明である。覆土に焼土・灰・粘土ブロックなどが確認できた。

遺物は出土していない。

（２）方形遺構

方　形　遺　構（第30図）

調査区中央のＪ－８・９グリッドに位置する。地表面から45cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・Ｃ軽石を含む黒褐色土で堆積している。

遺構の形状は長軸（南北方向）2.7m・短軸（東西方向）2.4mを測り、隅丸長方形を呈し、確認面から30cm程掘り込んで床面に達する。床面は平坦である。面積は6.0m² を測る。壁はやや直に立ち上がる。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈・焼土は確認されなかった。

遺物などは出土しなかった。

（３）溝遺構

１　号　溝（第31・32図、図版11）

調査区北西域のＢ－３・４グリッドから南西域のＰ－４グリッドに亘って位置する。調査区以北から連ながる当１号溝（W-1）の確認面は、Ｂ－３グリッドで地表面から約30cmを測り、南下してＰ－４グリッドで地表面から50cm程排土して確認した。覆土はＢ軽石・Hr-FP・礫を含む褐色土が堆積している。

Ｗ－１溝と重複する遺構

（註）確認深：重複遺構の地表面から排土して確認した深さ

重複場所（グリッド）	遺構の名称	確認深	重複の状況	新旧関係
Ｂ－４	１号住居跡	約35cm	住居跡西壁部をW-1が切除	W-1が新
Ｃ－４・Ｄ－４	３号住居跡	約38cm	住居跡西壁部をW-1が切除	W-1が新
Ｈ－５・Ｉ－５	４号住居跡	約54cm	住居跡西壁部をW-1が切除	W-1が新
Ｋ－５・Ｌ－５	３号溝（W-3）	約50cm	W-3堆積土層をW-1が切除	W-1が新
Ｌ－４・５	２号溝（W-2）	30～35cm	W-2堆積土層をW-1が切除	W-1が新

W-1遺構の延長は約57m を測る。

溝の規模はＢ－３・４グリッド（北側調査区域境）で上幅58cm・底幅40cm・深15cm（底高H=151.200m）・方向は N-170°-E を測り、断面形は梯形を呈す。Ｈ－４グリッド北東隅（調査区中

央）で上幅 100cm・深41cm（底高H=150.940m）を測り、断面形は底部が弧を画き全体に三角形を呈す。L－5グリッド（調査区中央やや南寄り）で上幅187cm ・深60cm（底高H=150.545m）を測り、方向はここからやや西に向きを変えて N-170°-W を測り、断面形は全体に三角形を呈す。P－4グリッド（調査区南境）で上幅240cm・深74cm（底高H=150.155m）を測り、断面形は全体に三角形を呈す。W-1の溝底勾配は北から南へ i ＝18.3‰≒ 1/55 を示す。

遺物は須恵器坏・蓋・甕片・塊片が多く、土師器甕片なども検出している。

2 号 溝 （第31・32図、図版12）

調査区西南域を東西にL－0からL－4グリッドに掛けて位置する。地表面から30～35cmを排土して確認した。覆土はHr-FP・C軽石・砂を含む褐色土が堆積している。W-1の西側にあり、L－4グリッドでW-1と重複している。新旧関係は土層断面から当溝がやや旧くW-1との流水時期にずれがあると思われる。

当溝遺構（W-2）の延長は約17m を測る。溝の規模はA－A′ （西側調査区境L－0グリッド）で上幅220cm ・底幅70cm・深38cm（底高H=150.950m）・方向はN-80°-E を測り、断面形は梯形を呈す。B－B′ （L－2グリッド中央から南寄り）上幅 150cm・底幅50cm・深70cm（底高H=150.770m）を測り、断面形は矩形底部に上幅80cm・底幅50cm・深10cmの梯形断面を取り付けた二重断面を確認する。L－4グリッドでW-1と重複が堆積土層から窺える。W-1と重複する手前の底高はH=150.755mを測る。

W-2の溝底勾配は西から東へ i ＝11.5‰≒1/90を示す。W-2の流下方向がW-1の流路となった可能性が考えられる。

遺物は須恵器高台付塊・甕片などを検出している。

3 号 溝 （第31・32図、図版12）

調査区中央やや西のK－10からL－5グリッドにかけて位置する。地表面から50cm程を排土して確認した。覆土はHr-FP を含む褐色土が堆積している。W-1溝の東側にあり、K－5グリッド付近でW-1と重複している。新旧関係は土層断面から当溝がやや旧くW-1との流水時期にずれがあると思われる。

当溝遺構（W-3）の延長は約21m を測る。L－5グリッド付近でW-1と重複している。

溝の規模はW-3の上幅 100cm～80cm・底幅45cm・深31cm（底高H=150.810m）・方向は N-85°-E を測り、断面形は梯形を呈す。A－A′ （K－7グリッド南縁）で上幅110cm・底幅40cm・深31cm（底高H=150.850m ）・方向はN-75°-E とやや北に向いて測り、断面形は梯形を呈す。

B－B′ （K－9グリッド中央東寄り）で上幅90cm・底幅60cm・深20cm（底高H=150.800m）・方向はN-75°-E を測る。

W-3の溝底勾配は西から東へ i ＝2.4 ‰≒1/417 を示し、溝勾配が緩やかなため流れの方向が

確定できない。

遺物は土師器坏、須恵器蓋片などを検出している。

4 号 溝 (第31・32図、図版12)

調査区南東隅のＰ－16からＳ－16グリッドにかけて位置する。地表面から75cm程を排土して確認した。覆土は細砂を含む褐色土が堆積している。

当溝遺構（W-4）の延長は約10m を測る。溝の方向はＰ－16グリッド南縁中央から南へE-85°-E を測る。溝の規模はＰ－16グリッドで上幅65cm・底幅50cm・深13cm（底高H=150.295m）を測り、断面形は梯形を呈す。Ａ－Ａ′（調査区南境のＳ－16グリッド）で上幅100cm・底幅50cm・深35cm（底高H=150.150m）を測り、断面形は梯形を呈す。

溝底勾配は北から南へｉ＝14.5‰≒1/69と急勾配を示す。下流側の南方面は調査外であり既に調査済みの熊野谷遺跡調査報告書との照合でもはっきりとしない。

遺物は土師器甕片・坏片、須恵器片などの他縄文前期諸磯式縄文土器片一点を検出している。

(4) 土　　坑

1 号 土 坑 (第12図、図版11)

調査区北西部のＤ－２・３からＥ－２・３グリッドに位置する。地表面から40cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・Hr-FA・Ｃ軽石を所々に含む黄褐色土・暗赤褐色土が堆積している。

当土坑（Ｄ-1）は２号住居跡（Ｈ-2）の南壁側部と重複して確認した。重複の新旧関係はＤ-1によってＨ-2の竈跡が壊されたと考えられる部分があり、また竈の焼土が残っていると思われる部分もあるなど新旧関係は判然としないが地断から当遺構が新しいと思われる。

形状は東西方向に長径 375cm・短径70cm・深20cmを測り、楕円状である。中程に竈跡と思われる掘り込み深12cm程の凹みを確認している。

遺物は土師器坏など他２号住居跡の竈の構築材と思われる石を検出している。

2 号 土 坑 (第30図、図版11)

調査区中央部東南寄りのＯ－12グリッド上に位置する。地表面から80cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・Ｃ軽石を含む褐色土が堆積している。

形状は南北方向に長径200cm ・短径92cm・深35cmを測り、楕円形である。

遺物は平坦な底部から人頭大の石（長径25cm・短径20cm）・玉石（長径40cm・短径20cm）の２個と須恵器坏、土師質土器・坏片などを検出している。

第４章　まとめ

熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡は榛名山相馬ケ原扇状地の端部の八幡川・牛池川に挟まれた位置にあり、北西部が高く、東南部が低い全体的になだらかな地形をしている。周辺は畑を中心の農業地帯である。

近年は住宅地の環境にマッチした田園風景が喜ばれ住宅地化に利用されている。

この調査では、平安時代の遺構が確認されたもので、熊野谷Ⅱ遺跡からは住居跡４軒、熊野谷Ⅲ遺跡からは住居跡16軒（一部不明・範囲のみ含む）、方形遺構１ヶ所、溝遺構４条、土坑２ヶ所を確認した。

１　熊野谷Ⅱ遺跡について

熊野谷Ⅱ住居跡は調査区の東側に位置し、住居跡４軒を確認した。１・２・３号住居跡の形状は隅丸長方形を呈し、竈は東壁中央やや南寄りに作られている。４号住居跡は隅丸長方形で竈は東壁中央やや南寄りで、竈の両袖が住居内に作られている。床面にはピット・壁溝の一部などが見られた。また粘性のある黒褐色土で貼り床も施されてあり、土坑も確認されている。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、灰釉陶器のほかに鉄製品（刀子）、鉄鏃など、年代的には９世紀後半から10世紀後半までの遺物が検出された。

遺物の特徴により住居跡を分類すると以下のように区分される。

時　期	住　居　跡
９世紀中	
９世紀後半	１号住居跡
９世紀後半～10世紀前半	
10世紀前半	２号住居跡
10世紀前半～後半	４号住居跡
10世紀後半	

３号住居跡からは特定できる遺物が検出できず区分できなかった。

２　熊野谷Ⅲ遺跡について

住居跡は、北西隅の標高151.300mから東南方向標高150.200mの傾斜を持つ、台地の北西隅と南東側に作られている。特に南東寄りに多く作られている。住居跡の形状は、隅丸の方形・長方形

で竈を東壁側に持ち、南壁側竈のものもわずか見られた。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、灰釉陶器など年代は9世紀中頃から10世紀後半にかけての遺物が検出されている。

重複住居は、1・3・4・10・11号住居跡に見られ、1・3・4号住居跡は1号溝と重複し、新旧関係は溝によって住居跡が切られていることから住居跡が旧いと思われる。10号住居跡と11号住居跡の重複の新旧関係は、はっきり特定できない。遺物も10号住居跡からは破片のみで、11号住居跡からは10世紀前半代の特徴を持つ遺物がわずか検出されている。

遺物の特徴により住居跡を分類すると以下のように区分される。

時　期	住　居　跡
9世紀中	1・14号住居跡
9世紀後半	11号住居跡
9世紀後半～10世紀前半	3号住居跡
10世紀前半	7号住居跡
10世紀前半～後半	9号住居跡
10世紀後半	4・5・6・8・12号住居跡

13号住居跡は一部破片の特徴により9世紀中～後半の時期と思われる。

2・10・15・16号住居跡からは特定できる遺物が検出できず区分できなかった。

3 方形遺構

規模は長軸2.7m・短軸2.4mを測り、Hr-FP・Hr-FA・C軽石を含む面で確認したもので、覆土は黒褐色土で堆積している。遺物の出土はなく、時期は不明である。

4 土坑

1・2号土坑を確認した。1号土坑は2号住居跡と重複し、2号住居跡竈部分を1号土坑が切っていると思われるため、新旧関係は住居跡が旧いと思われる。

1号土坑からは、9世紀前半代の遺物が検出されている。2号土坑からは、10世紀後半代の遺物が検出されている。

5 溝遺構

4条の溝を検出した。1号溝は1・3・4号住居跡及び2・3号溝と重複関係にある。1号溝によって地層が切られて確認したもので新旧関係は1号溝が新しいと考えられる。4号溝は、南

東隅から確認された。

1・2・3号溝は、9世紀中～10世紀前半代の遺物が検出されている。4号溝は、流れ込みによる縄文土器片の他、平安期の遺物片を数点検出した。

おわりに

本遺跡は、平安時代の遺構・遺物がまとまって検出され、付近には縄文時代の遺跡もあるなど、この緑豊かで緩やかな傾斜地には、古くからの集落の発達と人々の生活の一面が垣間みえるように思えます。

調査にあたり関係各機関の方々の御指導に深甚なる感謝を申し上げるものであります。

参考文献

清里・陣場遺跡 1981（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
中尾（遺物編）1984「中尾遺跡」群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
下東西遺跡 1987 群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
芳賀東部団地遺跡 1988 前橋市教育委員会
熊野谷遺跡 1989 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

熊野谷Ⅱ遺跡 出 土 遺 物 観 察 表

註：法量　①口径②底径③高台径④器高⑤長⑥幅⑦厚はcm、⑧重をgで表し、( )は推定値を示す。

NO	出土場所	種　類	法　量	胎土焼成	色　調	器形・成形・整形の特徴	遺存備考	図版
1	H-1ｶﾏﾄﾞ 一括	土師器坏	①(12.0)　④ 3.1	普通・酸化	褐	底部は平底、体部は緩やかに彎曲し口縁部で括れる。口縁部横ナデ、体部指押え。	¼残	3
2	H-1-1	縄文土器			褐灰	口縁部。沈線＋刺突文。後期の物と思われる。	小片	3
3	H-2-1	須恵器高台付埦	①(14.6)　④ 5.3	普通・還元	灰	高台は僅かに外傾し厚い。体部は僅かに丸味を持って立ち上がり口縁部で外反する。底部回転糸切り後雑な付高台。	口～体部¾残	3
4	H-2-2	土師質高台付埦	① 13.4　③ 6.6　④ 5.3	普通・酸化	鈍い褐	底部は付高台。体部は内外面ロクロ整形、胴部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き、黒色。	口縁部一部欠損	3
5	H-2-3	刀子	⑤(15.2)　⑥ 1.1　⑦ 0.5　⑧ 15.83			茎と刃部両端は欠損、茎部分に木質痕付着。		3
6	H-2-4	刀子	⑤ 7.8　⑧ 5.23			茎部分で断面形は三角形を呈す。		3
7	H-2-5	鉄鏃	⑤ 14.8　⑧ 43.71			鏃身部の片側の腸抉部欠損。茎の先端欠損。篦被部　3.0cm　鏃身部　⑤6.5 ⑦0.2　茎部　⑤5.3 ⑦0.5	刃～柄	3
8	H-2-6	土師器甕	①(20.0)	普通・酸化	赤褐	口縁部は「コ」の字状を呈し、外面意識的な横ナデ。胴部横ヘラ削り、内面全面ナデ。	口～胴部⅓残	3
9	H-4-1	土師質高台付埦	①(15.0)	普通・酸化	鈍い橙	底部は付高台。体部は中位で彎曲し、口縁部で小さく外反する。外面ロクロ痕、底部切り離し不明、付高台痕。	底部～体部½残	3
10	H-4-2	須恵器坏	①(11.4)　② 5.2　④ 3.4	普通・酸化	灰	底部は平底、体部は彎曲気味。体部ロクロ整形、底部回転糸切り後未調整。	口～体部⅔残	3
11	H-4-3	須恵器灰釉埦	①(13.8)　③ 6.8　④ 4.5	密・還元	灰白	高台部は側面稜をなし、体部は緩やかに彎曲して立ち上がる。体部は緩やかに彎曲し、ロクロ整形、底部回転糸切り後付高台ナデ。漬掛けによる施釉。	口縁部½残	4
12	H-4-4	土師質羽釜	①(17.4)	普通・酸化	橙	最大径を鍔に持ち、口縁部は内傾し短い鍔は上向き。口縁部の外面に顕著な指押え。内外面ナデ。	口～胴⅓残	4
13	H-4-5	須恵器羽釜	①(19.0)	普通・還元	灰黄褐	胴部は筒状を呈し、口縁部は内傾する。鍔は断面三角形を呈し、胴部に二条の沈線が見られる。内外面ナデ。	口縁部¼残	4
14	H-4-6	貨幣	⑧ 3.34			元祐通寶。鋳造地名　北宋、鋳造年号1086～1093		4
15	H-4-7	石鏃	⑤(2.6)　⑥ 2.0		青灰	先端部一部欠損。⑦ 0.4　⑧ 2.55		4
16	1A-42 一括-1	須恵器高台付埦	①(13.0)　③(6.5)　④(4.0)	普通・還元	灰	底部は付高台、体部は彎曲して立ち上がり口縁部で外反する。ロクロ整形、底部回転糸切り。	½残	4
17	1A-42 一括-2	土師質高台付埦	①11.6　③7.8	普通・酸化	鈍い橙	底部は断面台形状の顕著な貼付高台、体部は内外面ロクロ整形。	底部～体部⅔残	4
18	1A-42 一括-3	刀子	⑤ (5.2)　⑥ 1.4　⑦ 0.4　⑧ 9.14			両端部は欠損。刀子の一部と考えられる。		3
19	1A-42 一括-4	土師質高台付埦	③ 8.5	普通・酸化	褐	底部は外傾して開き、高台部は高くしっかりしている。ロクロ整形、底部回転糸切り後付高台ナデ。	口～体部欠損	4
20	1A-42 一括-5	土師器甕	① 20.2	普通・酸化	明褐	口縁部は「コ」の字状を呈し、指頭圧痕、外面胴部横方向ヘラ削り、内面横ナデ。	胴部欠損	4
21	1A-42 一括-6	土師器甕	③ 4.3	普通・酸化	明褐	底部は小さく、平底。底部縦方向ヘラ削り、内面ナデ、ヘラ痕有り。土質と製法から1A-42一括-5と同一固体と考えられる。	底部のみ	4

熊野谷Ⅲ遺跡 出 土 遺 物 観 察 表

N O 1

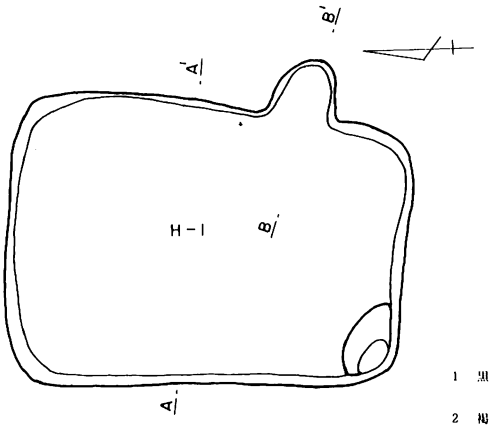
註：法量　①口径②底径③高台径④器高⑤長さ⑥幅⑦厚はcm、⑧重をgで表し、( )は推定値を示す。

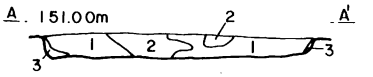
NO	出土場所	種　類	法　量	胎土焼成	色　調	器形・成形・整形の特徴	遺存備考	図版
1	H-1-1	須恵器坏	①(13.4)　②(8.3) ④ 4.0	密・還元	灰	底部は僅かに上底気味。体部は直線的に外傾し、内外面ロクロ整形。底部回転糸切り。	½残	13
2	H-1-2	須恵器盤	①(15.2)　③(10.4) ④ 3.2	普通・還元	灰白	高台部は細く開き、体部は直線的に外反し、内外面ロクロ整形。底部回転ナデ。外面自然釉。	½弱残	13
3	H-3-1	須恵器蓋	①(19.8)　④ 3.8 摘径 2.8cm	普通・還元	灰白	天井部は平坦、肩部より緩く彎曲し外傾する。端部は垂直。摘は宝珠形をなす。内外面回転ナデ、貼付摘。	¼残	13
4	H-3-2	須恵器高台付埦	①(11.6)　③(6.7) ④ 4.7	密・還元	青灰	高台部は外傾し体部は緩やかに彎曲する。ロクロ整形、付高台外面釉。	⅓残	13
5	H-3-3	須恵器壺	胴部最大径 (22.0)	密・還元	青灰	体部は上位で彎曲する。内外面ロクロ整形。	頸～胴部	13
6	H-3-4	須恵器大甕	②18.8 残存高 28.0cm	粗・還元	灰白	上底気味の平底から大きく内彎し体部へ立ち上がる。体部は表面のはがれにより平行叩き目文が部分的にしか見られない内面底部～体部下半ナデ（軟質須恵器の甕）	胴～底部残	13
7	H-4-1	須恵器蓋	摘径 4.2cm	密・還元	灰	天井部は平坦で、摘みの中央部が窪み、貼付。ロクロ整形、外面自然釉。	蓋の一部	13
8	H-5ｶﾏﾄﾞ1	須恵器坏	①(13.8)　③ 6.6 ④ 4.2	密・還元	灰白	高台部は側面稜をなし、体部緩やかに彎曲して立ち上がる。底部回転糸切り後付高台。施釉。	口縁部¾残	14
9	H-5-1	土師質羽釜	①(19.3) 残存高 17.4cm	普通・酸化	灰褐	口縁部は内傾し鍔は水平に張り出す断面三角形。口縁～胴部内外面ナデ。　胴部最大径 (21.3) cm	口～胴¾残	13
10	H-5-2	須恵器高台付埦	①(13.6)　③(7.4) ④ 4.3	密・還元	灰	高台部は側面稜をなし、体部緩やかに彎曲して立ち上がる。底部回転糸切り後付高台、施釉。	½強残	14
11	H-5-3	土師質高台付埦	① 15.6　③ 8.6 ④ 6.4	粗・酸化	黄橙	高台部は高く、「ハ」の字状に開き、断面梯形。体部は外反しながら口縁部に至る。内外面ロクロ整形、底部回転ナデ、付高台ナデ。	完形	14
12	H-5-4	須恵器高台付埦	① 12.7　③ 6.4 ④ 4.8	普通・還元	灰	底部は付高台、体部は直線的に外反し歪んだ口縁部に至る。体部内外面ナデ、底部回転糸切り後付高台ナデ。	完形	14
13	H-5-5	土師質高台付埦	① 12.8　③ 5.6 ④ 5.4	粗・還元	外面鈍黄橙内面青灰	高台部は僅かに外傾し厚い。体部は直線的に立ち上がり、口縁部で外反する。内外面ロクロ整形、底部回転糸切り雑な付高台。	完形	14
14	H-5-6	土師質羽釜	① 21.9　②(6.9) ④ 26.5	普通・酸化	褐	底部は小さい。口縁部は内傾し鍔は水平に張り出す。口縁部胴部とも上位内面ナデ、胴下半部ヘラ削り。胴部最大径 23.4cm	⅔残	14
15	H-6-1	須恵器高台付埦	①(17.2)　③(8.7) ④ 5.2	密・還元	灰	高台部は側面稜をなし、体部は緩やかに彎曲して立ち上がる。底部回転糸切り後付高台、施釉、重ね焼痕。	口～体部¼残	14
16	H-7-1	土師質坏	①(12.2)　④ 3.3	普通・酸化	赤褐	体部は彎曲気味で器肉は厚い。口縁部内面ナデ、体部外面ヘラ削り。	口～体部⅓残	14
17	H-8-1	土師質羽釜	①(18.4)　④(13.7) 胴部最大径 (23.4)	普通・酸化	鈍い黄褐	口縁部は短く内傾し上端で直立する。鍔は上向きに張り出し、胴部は緩やかに内彎する。　内外面横ナデ。	口～胴部⅔残	15
18	H-8-2	土師質羽釜	①(19.2)	普通・酸化	鈍い褐	胴部は内彎し、口縁部は短く外反する、鍔は上向きに張り出す。内外面横ナデ、鍔貼付。	口～胴部½残	15
19	H-8-3	土師質坏	①(13.4)　②(6.0) ④ 3.5	密・酸化	褐	底部は平底、体部は緩やかに外傾して開く。口縁部は内面横ナデ、体部底部ともヘラ削り。	½弱残	15
20	H-8-4	土師器甕	①(12.0)　②(6.0) ④(6.7)	普通・酸化	鈍い橙	口縁部は短く外反する。体部は内彎し、底部は器肉が厚い。口縁部横ナデ、胴部縦横ヘラ削り。	½残	15

N O 2

註：法量　①口径②底径③高台径④器高⑤長さ⑥幅⑦厚はcm、⑧重をgで表し、( )は推定値を示す。

NO	出土場所	種　類	法　量	胎土焼成	色　調	器形・成形・整形の特徴	遺存備考	図版
21	H-9-1	須恵器坏	①(13.6)　③ 6.5 ④ 3.4	粗・還元	青灰	体部は大きく外反し、内外面横位ナデ、底部回転糸切り未調整。	⅔残	15
22	H-9-2	土師質高台付埦	③ 7.3	普通・酸化	鈍い褐	高台部は直立する。体部は内外面ナデ、底部回転糸切り後付高台。	口～体部欠損	15
23	H-9-3	土師質埦	①(18.6) 残存高 5.7cm	密・酸化	褐	体部は器肉が厚く丸味を持つ。ロクロ整形、内面黒色、外面ナデ。	口～体部½残	15
24	H-9-4	土師器坏	①(11.9)　② 7.5 ④ 3.3	普通・酸化	明褐	底部は平底。体部は緩やかに彎曲する。内外面雑な横ナデ。	体部¾残	15
25	H-11-1	土師器坏	①(12.2)　②(6.8) ④ 3.9	普通・酸化	鈍い橙	底部は不安定な平底、体部は緩やかに内彎する。口縁部と体部は内面ナデ、体部外面指押え。	底部口縁一部欠損	16
26	H-12-1	須恵器高台付皿	①(14.0)　③ 6.4 ④ 3.5	密・還元	灰白	高台部は側面稜をなし、体部は緩やかに彎曲して口縁部で小さく外反する。体部ロクロ整形、底部回転糸切り後ナデ、付高台。外面自然釉。	体部¼残	16
27	H-12-2	土師質高台付埦	①(14.4)　③(7.4) ④ 5.3	粗・還元	浅黄	体部は僅かに丸味を持って立ち上がり、口縁部で外反する。ロクロ整形、底部回転糸切り後付高台。	½残	16
28	H-14-1	土師器坏	①(12.3)　④(3.3)	普通・酸化	鈍い赤褐	体部は内彎し、口縁部で直線的に立つ、口縁部内外面横ナデ、底部ヘラ削り。	½残	16
29	D-1-1	土師器坏	①(13.2)　④ 3.7	普通・酸化	赤褐	底部は丸底、体部は内彎して立ち上がり、口縁部で短く内傾する。口縁部は内外面横ナデ、体部指押え、底部ヘラ削り。	⅔残	16
30	D-2-1	須恵器坏	①(12.2)　② 6.8 ④ 3.8	普通・還元	灰白一部黒	底部は若干上底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部で外反する。ロクロ整形、体部内外面ナデ、底部は粗いナデ。	口縁部⅔残	16
31	D-2-2	須恵器坏	① 12.5　② 6.9 ④ 3.5	普通・還元	暗灰	底部は上底、体部は直線的に立ち、口縁部で外反する。ロクロ整形、体部内外面ナデ、底部は粗いナデ。	完形	16
32	W-1-1	須恵器坏	①(14.6)　②(9.6) ④ 4.2	密・還元	灰	底部は上底気味で、体部は外反する。底部回転糸切り未調整、自然釉。	½弱残	16
33	W-1-2	須恵器蓋	摘径 2.0cm	普通・還元	紫灰	天井部中央に小型環状の摘貼付、天井部は平坦をなす。内外面回転ナデ。蓋中央部の摘みのみ。		17
34	W-1一括	須恵器坏	①(12.8)　④ 3.2	普通・還元	灰	底部は平底。体部は直線的に外反する。内外面ナデ調整、底部回転ナデ。	⅓弱残	17
35	W-2-1	須恵器高台付埦	① 11.8　③(6.8) ④ 5.1	密・還元	青灰	高台部は直立し、体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。体部内外面ナデ、底部回転ヘラ切り後付高台。	口縁底部一部欠損	17
36	W-3-1	土師器坏	①(13.4)　④ 4.6	粗・酸化	鈍い褐	体部は内彎して立ち上がり、口縁部で短く内傾する。体部外面一部剥離、内面ナデ。	½残	17
37	W-4一括	縄文土器				渦巻紋。前期諸磯式土器様式、縄文土器大観 第9様式（C式新段階）集合沈線文系統、結節浮線文。	小片	17





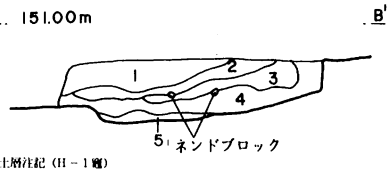
土層注記（H－1）

1　黒褐色土層　細砂　締まりがあり、粘性がややある。1～3mmのC・Pを含み、10～25mmのF・Pが少量存在する。

2　鈍い赤褐色土層　細砂　締まりがあり、20～40mmの硬い粘土ブロックを5％、1～5mmのC・Pを2％を含む。全体に粘土の崩れた物が混じる。他の層より赤味を帯びており、竈遺構物か？

3　黒褐色土層　細砂　締まりがあり、粘性がややある。軽石は殆ど含まず。

0　1/60　2m



土層注記（H－1竈）

1　黒褐色土層　細砂　締まりがややあり。粘性は殆どなし。1～5mmのC・Pを3％、5～10mmの粘土ブロックを1％を含む。

2　褐色土層　細砂　締まりがややあり、やや軟らかい。1～3mmのC・Pを2％を含む。全体に焼土が散る。

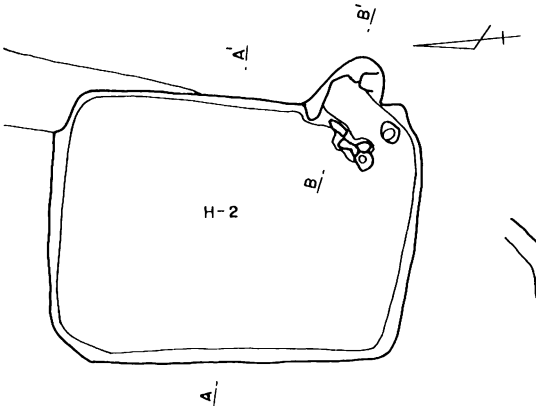
3　灰褐色土層　細砂　2層、4層より軟らかい。締まりがややある。1mmのC・Pを2％を含む。

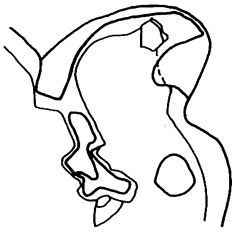
4　黒褐色土層　細砂　締まりがややあり、やや軟らかい。1mmの焼土粒と更に細かな焼土が全体に散る。1～5mmのC・Pを1％を含む。

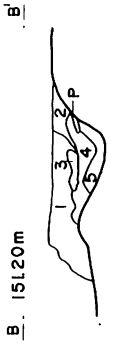
5　黒色土層　微砂層　炭化物の粉と、灰が混じる。上面が竈使用面と考えられる。

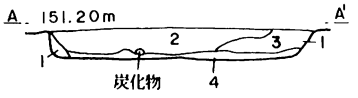
0　1/30　1m

第 5 図　　1号住居跡・竈実測図









土層注記（H－2）

1　褐色土層　細砂 1mm程度の軽石（C・P）を1％を含むが、2層、3層と比べて含有量が少ない。締まりは余りなく、粘性もない。

2　暗褐色土層　細砂 1～2mm程度の軽石（C・P）を7％、5～10mm程度の軽石（F・P）を1％をそれぞれ含む。2層の底部には、炭化物（塊）が見られる。締まり、粘性共に余りない。

3　暗褐色土層　細砂 1～2mm程度の軽石（C・P）を5％、10mm以上の軽石（F・P）を1％程含む。2層と比較するとやや黒味を帯びている。締まりがややあり、粘性は余りない。

4　褐色土層　細砂　軽石は余り見られず、2～3mm程度の凝灰ブロックが点在する。締まり、粘性共にややあり。

土層注記（H－2竈）

1　暗褐色土層　細砂 1mm程度のC・Pを1％程含み、焼土粒が若干散在する。締まりがややあり、粘性はなし。

2　暗褐色土層　細砂 1mm程度の軽石（C・P）を3％程含む。締まりがややあり、粘性はなし。

3　鈍い褐色土層　微砂　非常に締まりのある粘土ブロック。竈構成物の崩落の一部分と思われる。粘性あり。

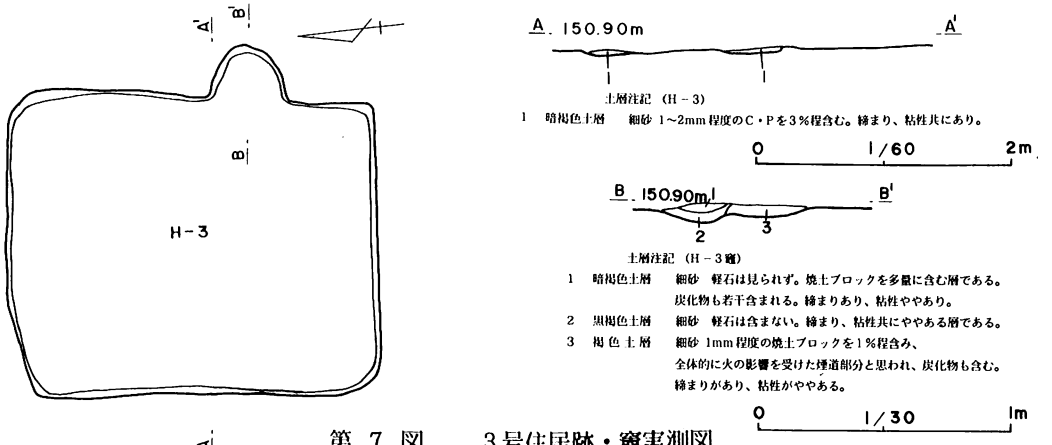
4　褐色土層　細砂 1mm程度の軽石（C・P）を1％と1mmの焼土粒を5％含む。締まり、粘性共にややあり。

5　黒褐色土層　細砂　焼土を若干含み、締まり、粘性共にある。

0　1/60　2m

第 6 図　　2号住居跡・竈実測図

0　1/30　1m



土層注記（H－3）

1　暗褐色土層　細砂　1～2mm程度のC・Pを3％程含む。締まり、粘性共にあり。

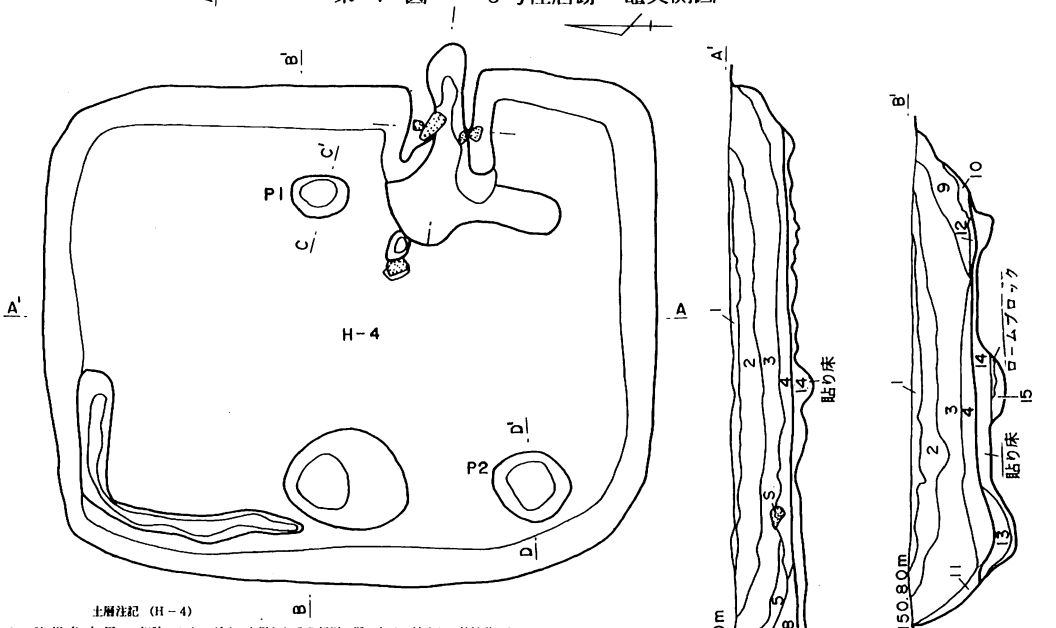
土層注記（H－3竈）

1　暗褐色土層　細砂　軽石は見られず。焼土ブロックを多量に含む層である。
炭化物も若干含まれる。締まりあり、粘性ややあり。

2　黒褐色土層　細砂　軽石は含まない。締まり、粘性共にややある層である。

3　褐色土層　細砂　1mm程度の焼土ブロックを1％程含み、
全体的に火の影響を受けた煙道部分と思われ、炭化物も含む。
締まりがあり、粘性がややある。

第 7 図　3号住居跡・竈実測図



土層注記（H－4）

1　暗褐色土層　細砂　セカンダリーと思われるB軽石の層である。締まり、粘性共に無し。

2　黒褐色土層　細砂　2～5mm程度の軽石（C・P）を10％程含み、
若干焼土粒（1mm）も点在する。締まりがあり、粘性がややがある。

3　暗褐色土層　細砂　2～5mm程度の軽石（C・P）を5％と、
極大のF・Pも含み、流れ込みと思われる炭化物や焼土粒も散在する。
締まり、粘性共にややあり。

4　褐色土層　細砂　1～2mm程度の軽石（C・P）を3％程含み、
ロームブロック、焼土粒も含む。締まりがあり、粘性がややある。

5　鈍い黄褐色土層　細砂　1～2mm程度の軽石（C・P）を3％、2cm程のロームブロックも含まれ、
住居構築の際の土砂の流れ込みと思われる。締まり、粘性共にあり。

6　黒褐色土層　細砂　2～3mm程の軽石（C・P）を7％ほど含む。
流れ込みの層と考えられる。締まりがあり、粘性がややある。

7　黄褐色土層　微砂　5層と同じく住居構築の際、掘り込んだ土砂（ローム粒）
の流れ込みと思われる。締まり、粘性あり。

8　暗褐色土層　細砂　炭化物は若干見られるが、軽石は含まれない。締まり、粘性共にややあり。

9　黒褐色土層　細砂　粘性と締まりが共にややある。1～2mm程度の軽石（C・P）を5％程含む。

10　褐色土層　細砂　下部にローム粒が含まれるが、軽石は見られない。
締まりはあるが、粘性は余りない。

11　黒褐色土層　細砂　軽石は含まれない。締まり、粘性共にややあり。

12　褐色土層　細砂　1～2mm程度の焼土粒を3％含む。締まり、粘性共にややある層である。

13　黒褐色土層　細砂　1～2cmのロームブロック1％を含み、上部に焼土粒も含む。
締まり、粘性共にややあり。

14　黒褐色土層　締まり、粘性があり、非常に硬い。（貼り床）

15　黒褐色土層　締まり、粘性共にややあり。焼土粒が若干混じる。

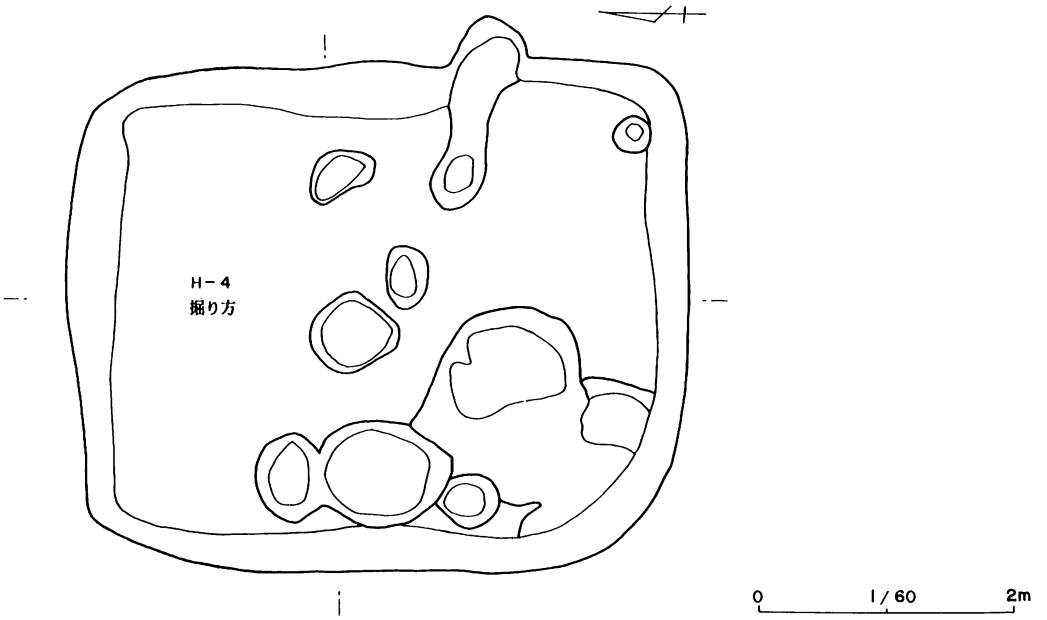
土層注記（H－4　pit 1）

1　褐色土層　細砂　1mm程の焼土粒を3％程含み、
ローム粒も若干混じる。締まり、粘性共にややあり。

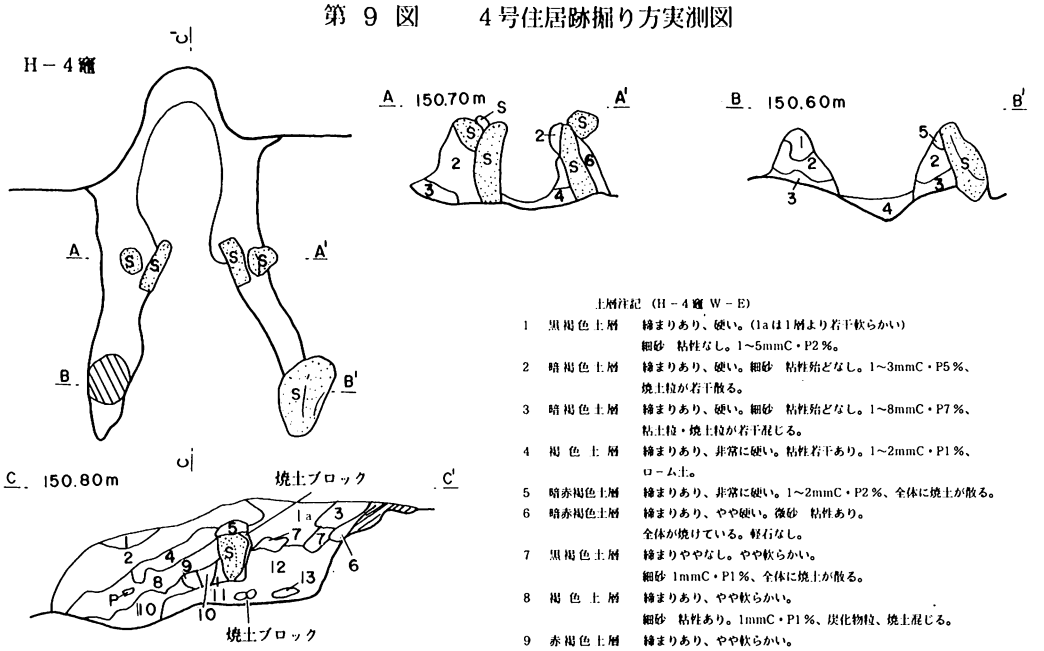
土層注記（H－4　pit 2）

1　暗褐色土層　細砂　軽石は含まず、極大のローム粒を含む。
炭化物も含まれる。締り粘性共にややあり。

第 8 図　4号住居跡実測図



第 9 図　　4号住居跡掘り方実測図



土層注記（H－4竈 N－S）

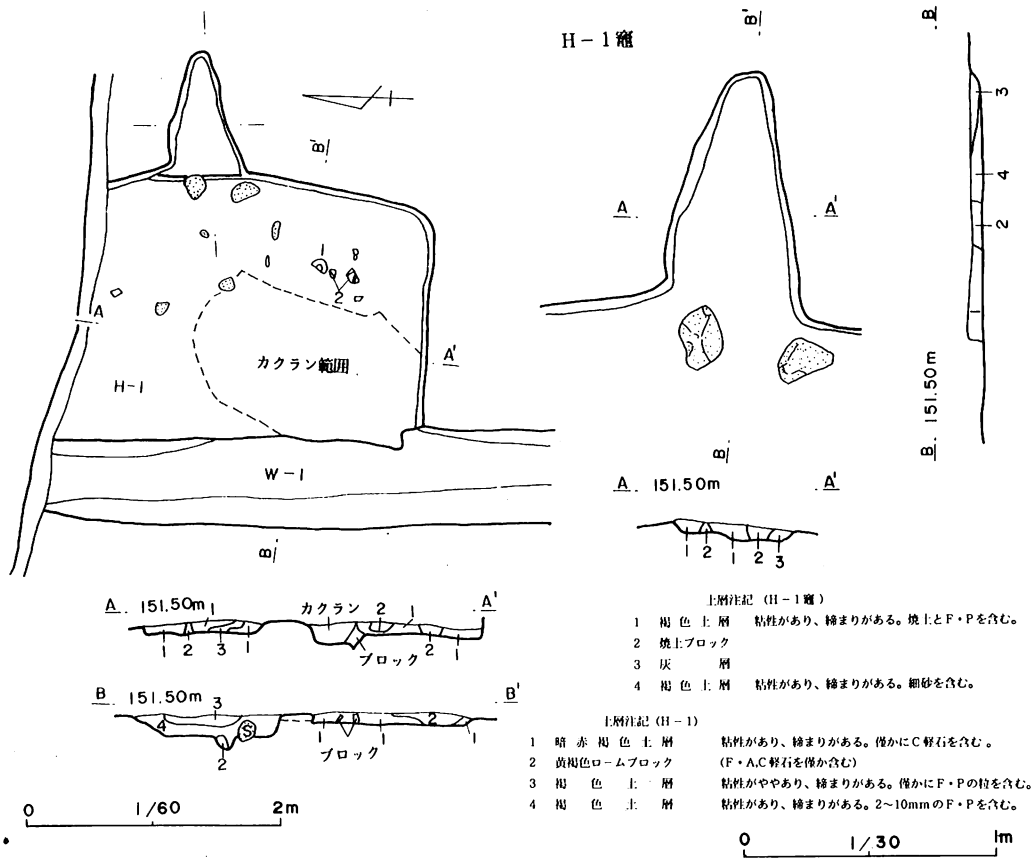
1　明赤褐色土層　細砂　竈燃焼部分で、全体的に赤味を帯びている。
　　軽石（C・P）を7％程含む。締まりあり、粘性なし。
2　赤褐色土層　細砂 1mm程度の軽石（C・P）を3％程含み、
　　1層と同じく竈燃焼部分の層である。
　　締まりが非常にあり、粘性もややある。
3　暗褐色土層　細砂 1～2mm程度の軽石（C・P）を3％含む。
　　締まり、粘性共にややある。
4　褐色土層　細砂　灰層である。ロームブロックも若干含まれる。
　　締まりややあり、粘性なし。
5　褐色土層　非常に硬い。締まりあり。ロームに1mmのC・Pを1％程含む。
　　焼けていない。
6　褐色土層　締りがあるが、軟らかい。1mmのC・Pを1％未満含む。
　　1～10mmの焼土ブロックを若干含む。

土層注記（H－4竈 W－E）

1　黒褐色土層　締まりあり、硬い。（1aは1層より若干軟らかい）
　　細砂　粘性なし。1～5mmC・P2％。
2　暗褐色土層　締まりあり、硬い。細砂　粘性殆どなし。1～3mmC・P5％、
　　焼土粒が若干散る。
3　暗褐色土層　締まりあり、硬い。細砂　粘性殆どなし。1～8mmC・P7％、
　　粘土粒・焼土粒が若干混じる。
4　褐色土層　締まりあり、非常に硬い。粘性若干あり。1～2mmC・P1％、
　　ローム土。
5　暗赤褐色土層　締まりあり、非常に硬い。1～2mmC・P2％、全体に焼土が散る。
6　暗赤褐色土層　締まりあり、やや硬い。微砂　粘性あり。
　　全体が焼けている。軽石なし。
7　黒褐色土層　締まりややなし。やや軟らかい。
　　細砂 1mmC・P1％、全体に焼土が散る。
8　褐色土層　締まりあり、やや軟らかい。
　　細砂　粘性あり。1mmC・P1％、炭化物粒、焼土混じる。
9　赤褐色土層　締まりあり、やや軟らかい。
　　微砂　粘性非常にあり。全体焼けている。
10　暗褐色土層　締まりあり、やや軟らかい。
　　細砂　粘性あり。焼土粒が全体に混じる。
11　黒褐色土層　締まりがあるが、軟らかい。
　　細砂　粘性あり。混入物なし。
12　暗褐色土層　締まりがあるが、軟らかい。
　　細砂　粘性ややあり。1mmC・P1～2％、焼土粒若干散る。
13　暗褐色土層　締まりがややあるが、軟らかい。
　　細砂　粘性ややあり。20％焼土。

第 10 図　　4号住居跡竈実測図

0　1/30　1m



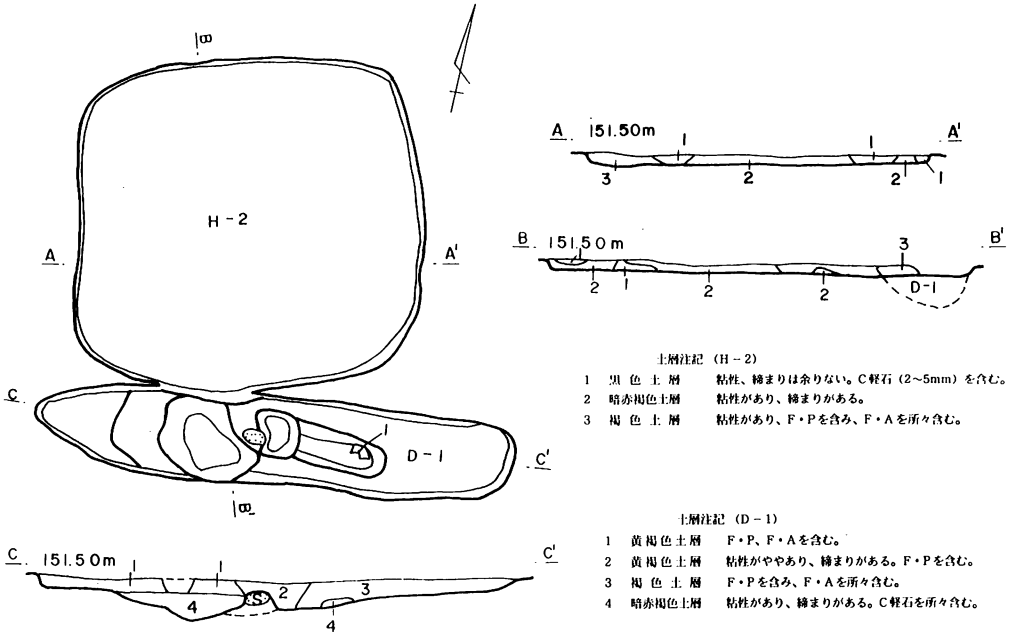
土層注記（H－1竈）

1　褐色土層　粘性があり、締まりがある。焼土とF・Pを含む。
2　焼土ブロック
3　灰　層
4　褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂を含む。

土層注記（H－1）

1　暗赤褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かにC軽石を含む。
2　黄褐色ロームブロック　（F・A,C軽石を僅か含む）
3　褐色土層　粘性がややあり、締まりがある。僅かにF・Pの粒を含む。
4　褐色土層　粘性があり、締まりがある。2～10mmのF・Pを含む。

第 11 図　　1号住居跡・竈実測図



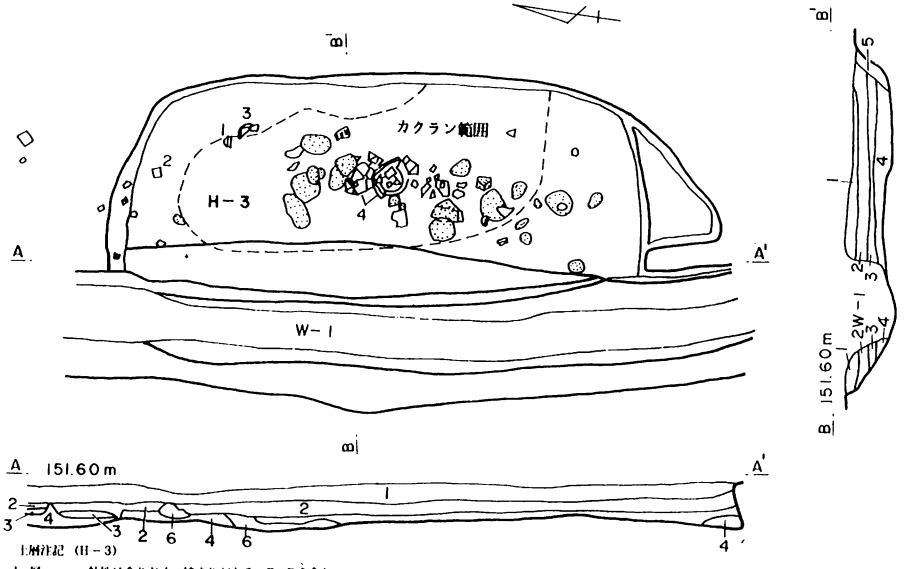
土層注記（H－2）

1　黒色土層　粘性、締まりは余りない。C軽石（2～5mm）を含む。
2　暗赤褐色土層　粘性があり、締まりがある。
3　褐色土層　粘性があり、F・Pを含み、F・Aを所々含む。

土層注記（D－1）

1　黄褐色土層　F・P、F・Aを含む。
2　黄褐色土層　粘性がややあり、締まりがある。F・Pを含む。
3　褐色土層　F・Pを含み、F・Aを所々含む。
4　暗赤褐色土層　粘性があり、締まりがある。C軽石を所々含む。

第 12 図　　2号住居跡・1号土坑実測図

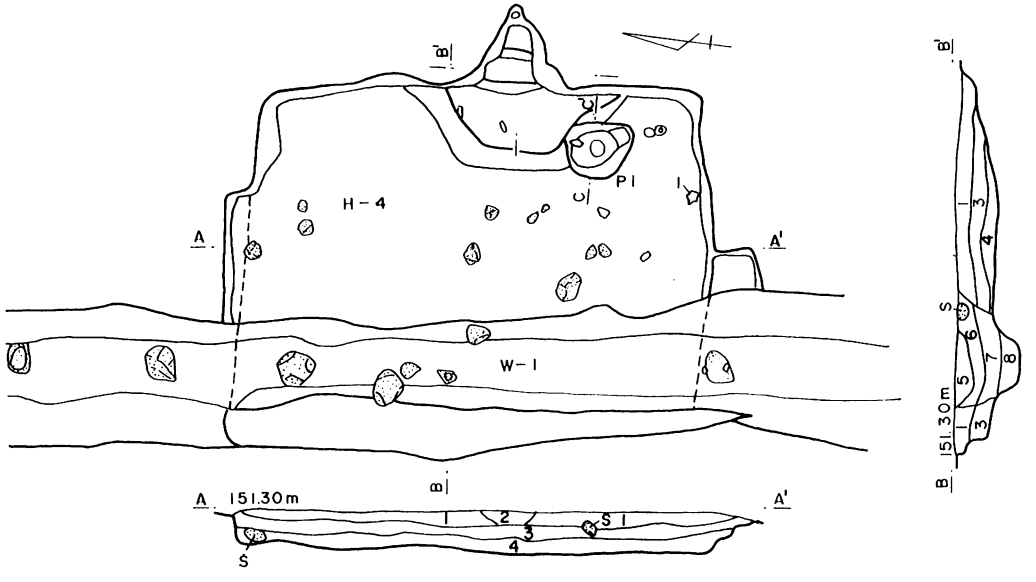


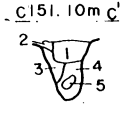
土層注記（H－3）

1	褐色土層	粘性は余りなく、締まりがある。F・Pを含む。
2	褐色土層	粘性があり、締まりがある。F・PとC軽石を含む。
3	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。F・P,C軽石と僅かに炭化物を含む。
4	暗赤褐色土層	粘性があり、締まりがある。僅かにC軽石粒を含む。
5	黄褐色土層	粘性はなく、締まりがややある。F・P（2～10mm）を含む。
6	黄褐色土層	小礫と細砂を含む

0　1/60　2m

第 13 図　　3号住居跡実測図





土層注記（H－4 pit 1）

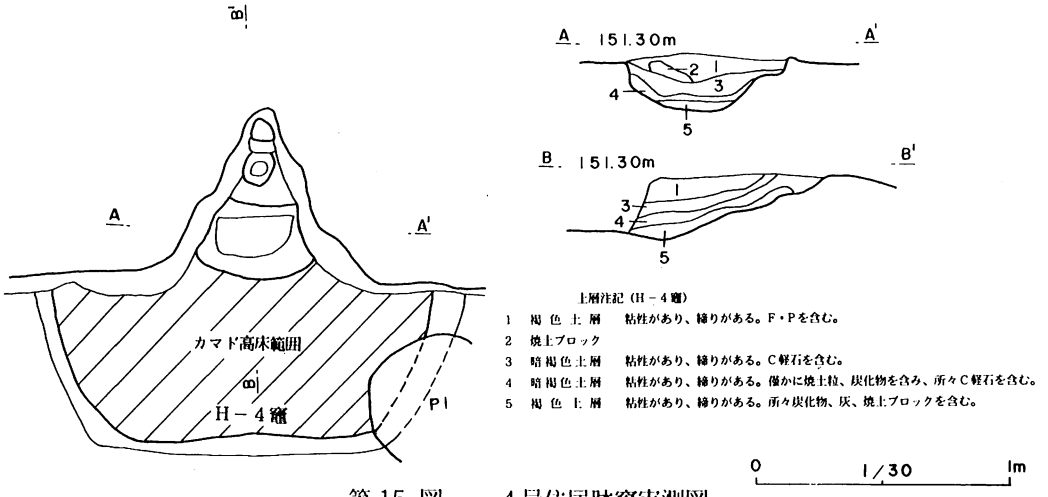
1	暗褐色土層	やや粘性と締まりがある。細砂を含む。
2	褐色土層	粘性は余りなく、締まりがある。細砂とC軽石粒を含む。
3	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。細砂と僅かにC軽石粒を含む。
4	暗褐色土層	粘性は余りない。細砂とC軽石粒を含む。
5	褐色土層	細砂を含む。

土層注記（H－4）

1	褐色土層	粘性があり、締まりがある。F・P（2～10mm）とF・Aを含む。
2	暗褐色土層	F・Pを含む。
3	褐色土層	やや粘性と締まりがある。F・PとC軽石を含む。
4	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。F・PとC軽石を含み、所々炭化物を含む。
5	B軽石層	（二次堆積）
6	暗褐色土層	F・Pを含む。
7	暗褐色土層	粘性、締まりは余りない。F・Pと礫を含む。
8	暗褐色土層	細砂と礫を含み、F・Pを含まない。

0　1/60　2m

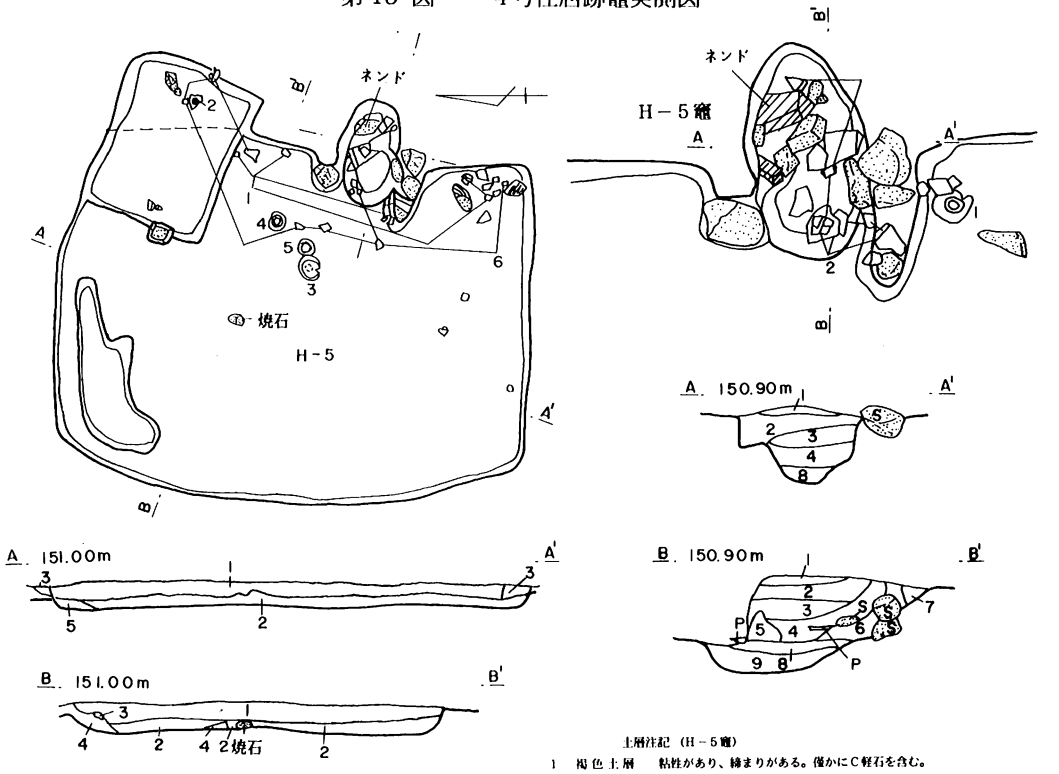
第 14 図　　4号住居跡実測図



土層注記（H－4竈）

1　褐色土層　粘性があり、締りがある。F・Pを含む。
2　焼土ブロック
3　暗褐色土層　粘性があり、締りがある。C軽石を含む。
4　暗褐色土層　粘性があり、締りがある。僅かに焼土粒、炭化物を含み、所々C軽石を含む。
5　褐色土層　粘性があり、締りがある。所々炭化物、灰、焼土ブロックを含む。

第15図　4号住居跡竈実測図



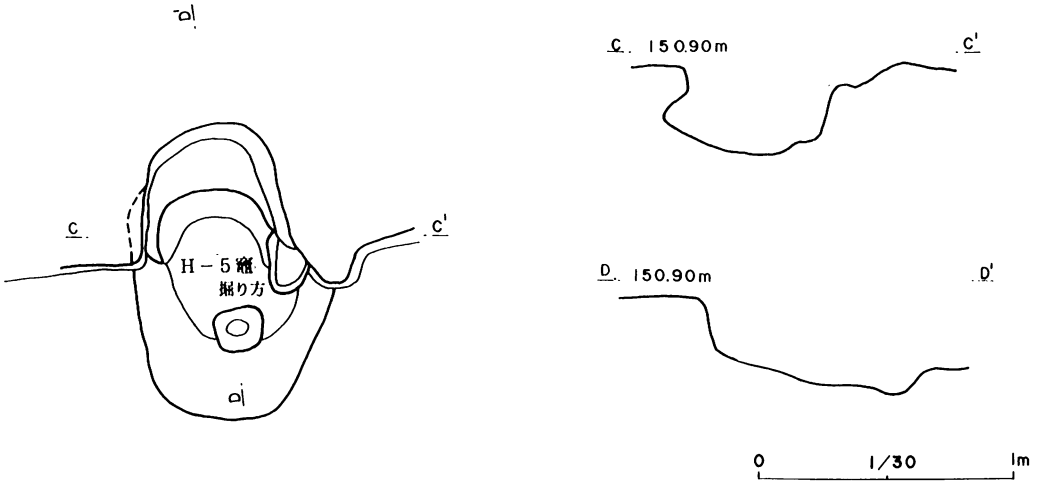
土層注記（H－5）

1　褐色土層　やや粘性と締まりがある。F・Pと僅かにF・Aも含む。
2　暗褐色土層　やや粘性と締まりがある。F・PとC軽石を含む。
3　黄褐色ブロック　やや粘性と締まりがある。
4　暗赤褐色土層　（地山）
5　黒色土層　C軽石を多く含む。

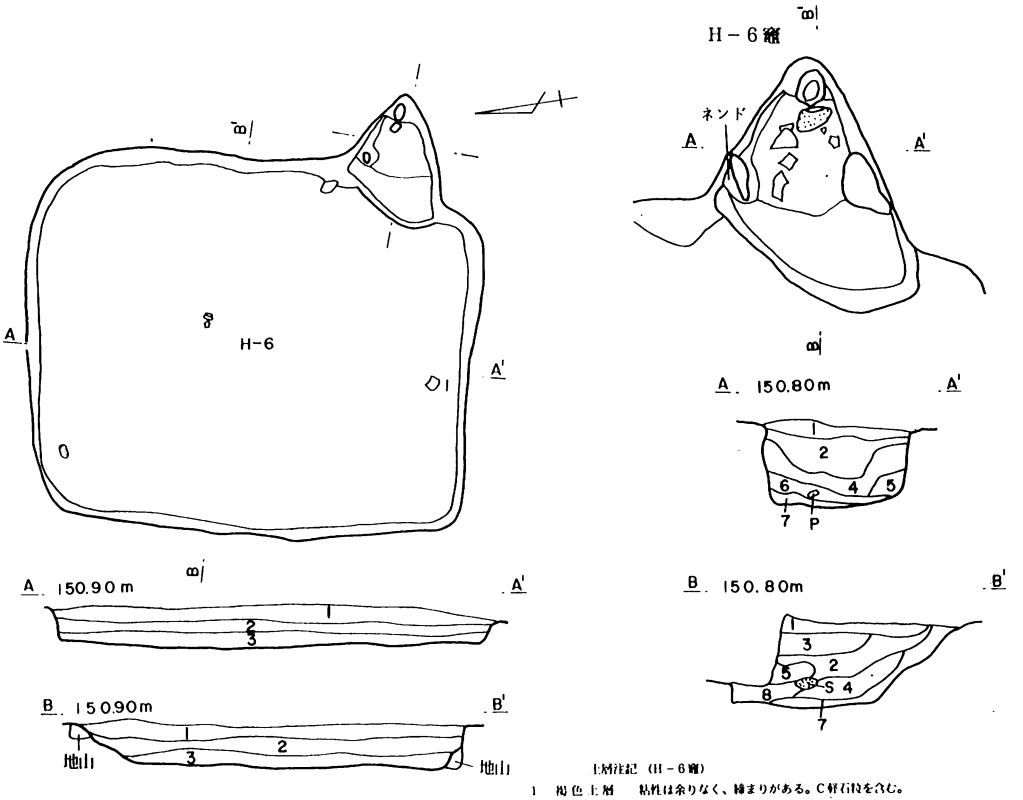
土層注記（H－5竈）

1　褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かにC軽石を含む。
2　暗褐色土層　粘性はなく、締まりがややある。C軽石を含み、F・Pも僅かに含む。
3　褐色土層　粘性は余りなく、締まりがある。焼土、炭化物と僅かにC軽石を含む。
4　暗褐色土層　粘性は余りなく、締まりがある。焼土粒を含む。
5　粘土ブロック（焼けている）
6　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かに焼土粒を含む。
7　焼土ブロック
8　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。焼土、炭化物、灰を含む。
9　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。焼土粒と炭化物を含む。

第16図　5号住居跡・竈実測図



第 17 図　　5号住居跡竈エレベーション実測図



主層注記（H－6）

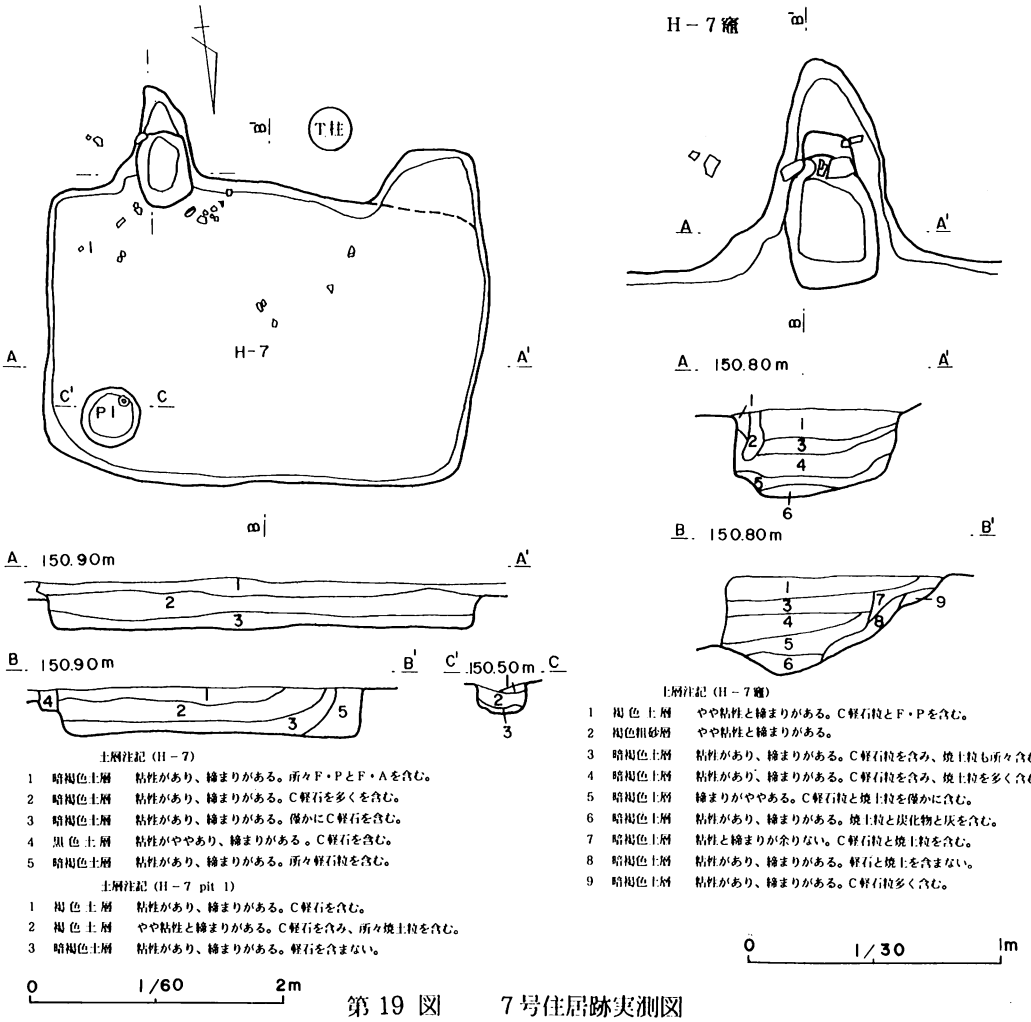
1　暗褐色土層　　やや粘性と締まりがある。F・PとC軽石を含む。
2　暗褐色土層　　粘性があり、締まりがある。C軽石を多く含み、僅かにF・Pを含む。
3　暗褐色土層　　粘性があり、締まりがある。僅かにC軽石を含む。

主層注記（H－6竈）

1　褐色土層　　粘性は余りなく、締まりがある。C軽石粒を含む。
2　暗褐色土層　　粘性があり、締まりがある。C軽石粒と僅かに焼土粒を含む。
3　暗褐色土層　　やや粘性と締まりがある。C軽石粒と僅かに焼土粒を含む。
4　暗褐色土層　　粘性があり、締まりがある。C軽石粒と焼土ブロックを含む。
5　焼土ブロック
6　暗褐色土層　　やや粘性と締まりがある。C軽石粒を余り含まない。
7　暗褐色土層　　炭化物、灰、焼土を含む。
8　褐色土層　　粘性、締まりが余りない。C軽石粒と僅かに炭化物、焼土粒を含む。

0　1/60　2m　　0　1/30　1m

第 18 図　　6号住居跡・竈実測図



土層注記（H－7竈）

1　褐色土層　やや粘性と締まりがある。C軽石粒とF・Pを含む。
2　褐色粗砂層　やや粘性と締まりがある。
3　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。C軽石粒を含み、焼土粒も所々含む。
4　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。C軽石粒を含み、焼土粒を多く含む。
5　暗褐色土層　締まりがややある。C軽石粒と焼土粒を僅かに含む。
6　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。焼土粒と炭化物と灰を含む。
7　暗褐色土層　粘性と締まりが余りない。C軽石粒と焼土粒を含む。
8　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。軽石と焼土を含まない。
9　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。C軽石粒多く含む。

土層注記（H－7）

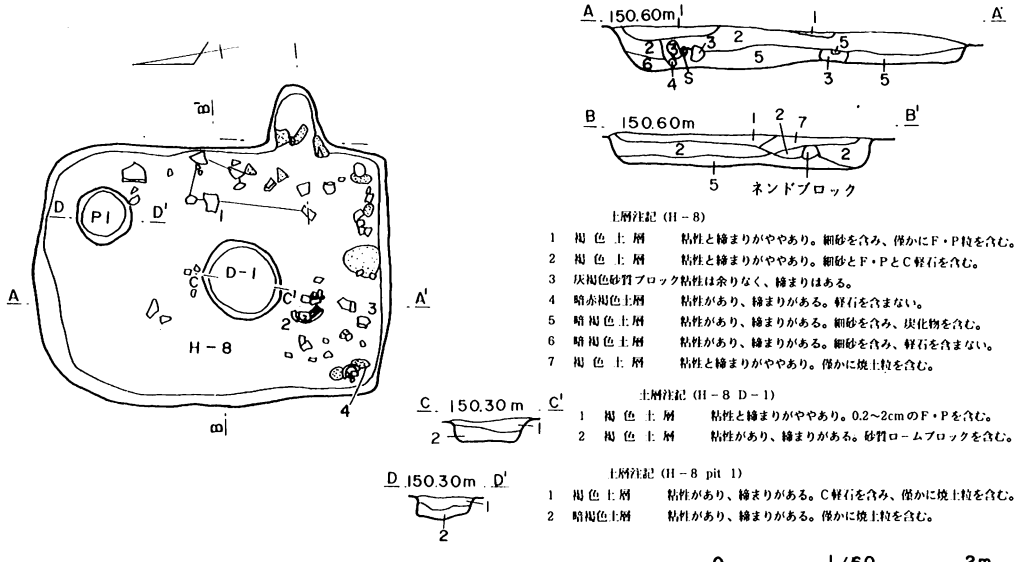
1　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。所々F・PとF・Aを含む。
2　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。C軽石を多くを含む。
3　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かにC軽石を含む。
4　黒色土層　粘性がややあり、締まりがある。C軽石を含む。
5　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。所々軽石粒を含む。

土層注記（H－7 pit 1）

1　褐色土層　粘性があり、締まりがある。C軽石を含む。
2　褐色土層　やや粘性と締まりがある。C軽石を含み、所々焼土粒を含む。
3　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。軽石を含まない。

0　1/60　2m　　0　1/30　1m

第 19 図　　7号住居跡実測図



土層注記（H－8）

1　褐色土層　粘性と締まりがややあり。細砂を含み、僅かにF・P粒を含む。
2　褐色土層　粘性と締まりがややあり。細砂とF・PとC軽石を含む。
3　灰褐色砂質ブロック粘性は余りなく、締まりはある。
4　暗赤褐色土層　粘性があり、締まりがある。軽石を含まない。
5　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂を含み、炭化物を含む。
6　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂を含み、軽石を含まない。
7　褐色土層　粘性と締まりがややあり。僅かに焼土粒を含む。

土層注記（H－8 D－1）

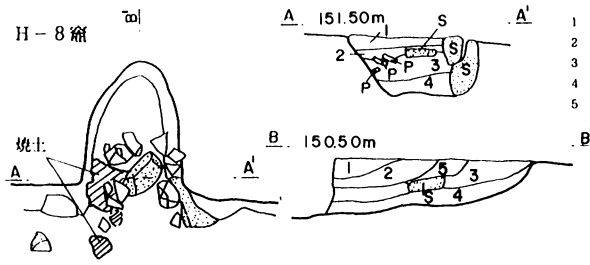
1　褐色土層　粘性と締まりがややあり。0.2～2cmのF・Pを含む。
2　褐色土層　粘性があり、締まりがある。砂質ロームブロックを含む。

土層注記（H－8 pit 1）

1　褐色土層　粘性があり、締まりがある。C軽石を含み、僅かに焼土粒を含む。
2　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かに焼土粒を含む。

0　1/60　2m

第 20 図　　8号住居跡 実測図

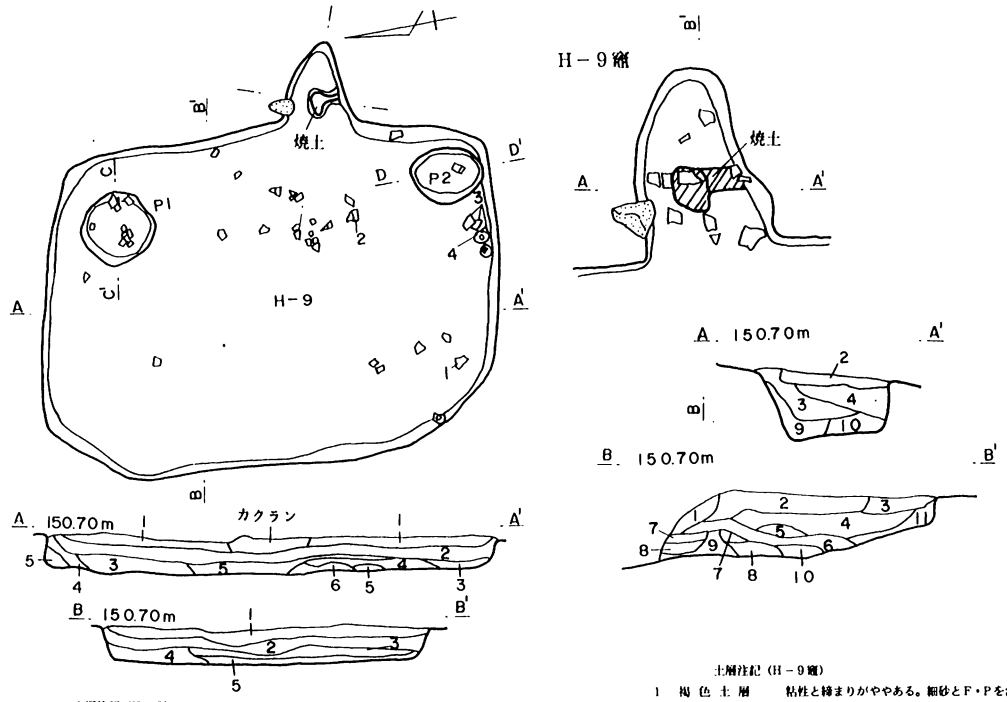


土層注記（H－8竈）

1	褐色土層	粘性と締まりが余りない。細砂とF・P粒を含む。
2	暗褐色土層	粘性はなく、締まりがある。細砂、炭化物とF・P粒を含む。
3	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。炭化物を多く含み、僅かに焼土を含む。
4	暗褐色土層	粘性と締まりが余りない。焼土粒を多く含む。
5	褐色土層	細砂を含む。

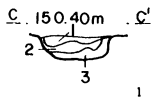
0　1/30　1m

第 21 図　　8号住居跡竈実測図



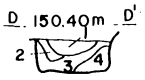
土層注記（H－9）

1	褐色土層	粘性はなく、締まりがある。僅かにF・P粒を含む。
2	褐色土層	粘性はなく、締まりがある。細砂を含み、僅かに焼土とF・Pを含む。
3	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。細砂と焼土を含む。
4	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。炭化物を多く含み、僅かに焼土を含む
5	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。細砂を含み、僅かにC軽石を含む。
6	褐色土層	粘性があり、締まりがある。細砂を含み、僅かにF・Pと炭化物を含む。



土層注記（H－9 pit 1）

1	褐色土層	粘性と締まりがややある。F・P、焼土、炭化物を含む。
2	褐色土層	粘性と締まりがややある。F・Pとローム粒を含む。
3	黄褐色土層	粘性があり、締まりがある。



土層注記（H－9 pit 2）

1	褐色土層	粘性があり、締まりがある。F・Pと僅かに炭化物を含む。
2	褐色土層	粘性があり、締まりがある。焼土粒を含む。
3	黒褐色土層	粘性があり、締まりがある。軽石を含まない。
4	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。僅かに焼土とローム粒を含む。

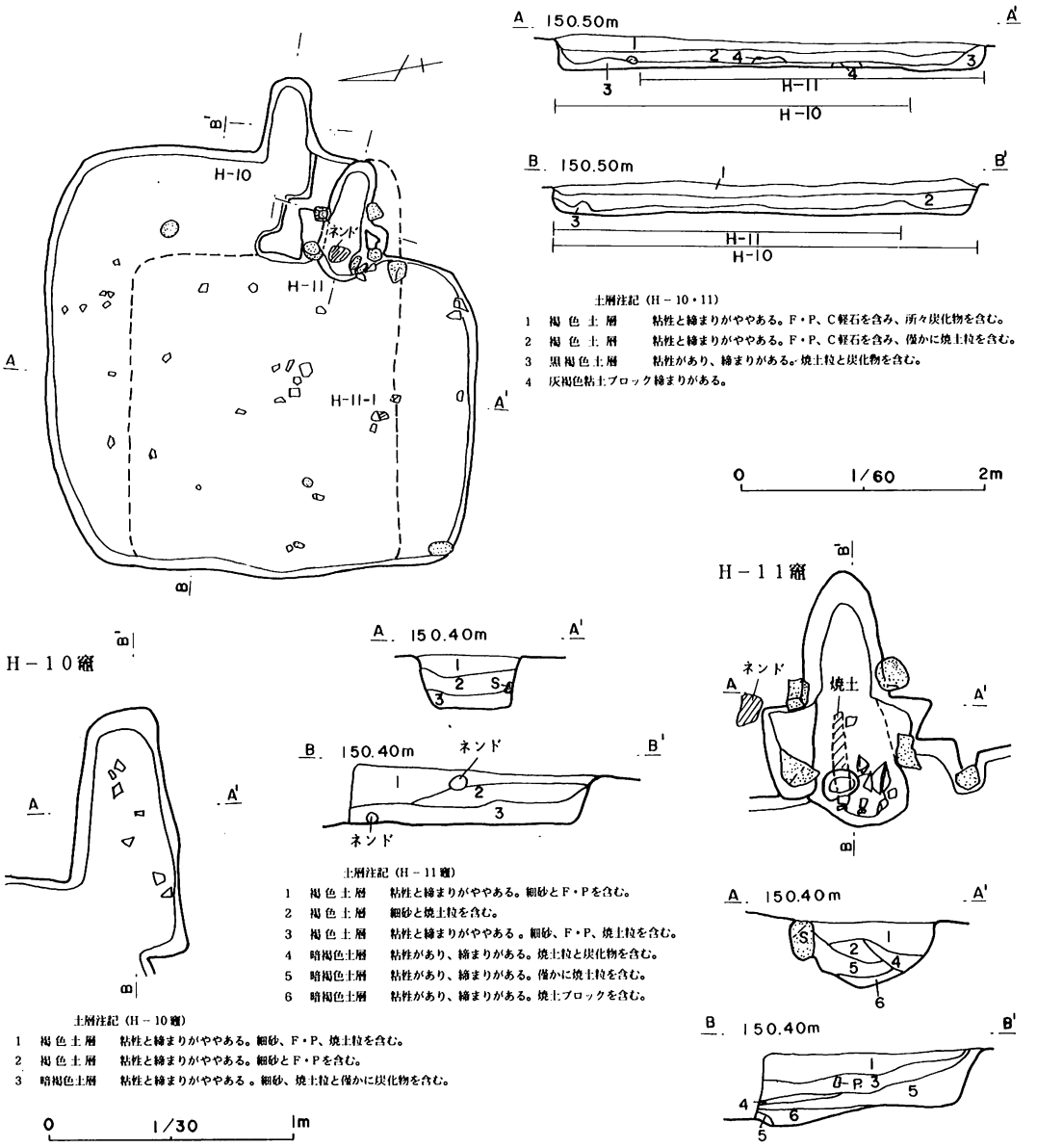
土層注記（H－9竈）

1	褐色土層	粘性と締まりがややある。細砂とF・Pを含む。
2	褐色土層	粘性と締まりがややある。F・P、C軽石を含む。
3	褐色土層	粘性と締まりがややある。細砂とC軽石を含む。
4	黒褐色土層	粘性があり、締まりがある。 C軽石を含み、僅かに2～3cmのF・Pを含む。
5	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。 C軽石粒と僅かに焼土と炭化物も含む。
6	暗赤褐色土層	粘性があり、締まりがある。軽石を含まない。
7	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。 細砂を含み、焼土ブロックを含む。
8	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。細砂を含み、 僅かに焼土粒も含む。軽石は含まない。
9	暗褐色土層	粘性があり、締まりがある。 細砂を含み、僅かに焼土粒を含む。
10	焼土ブロック	
11	褐色土層	粘性と締まりがなく、細砂を含む。

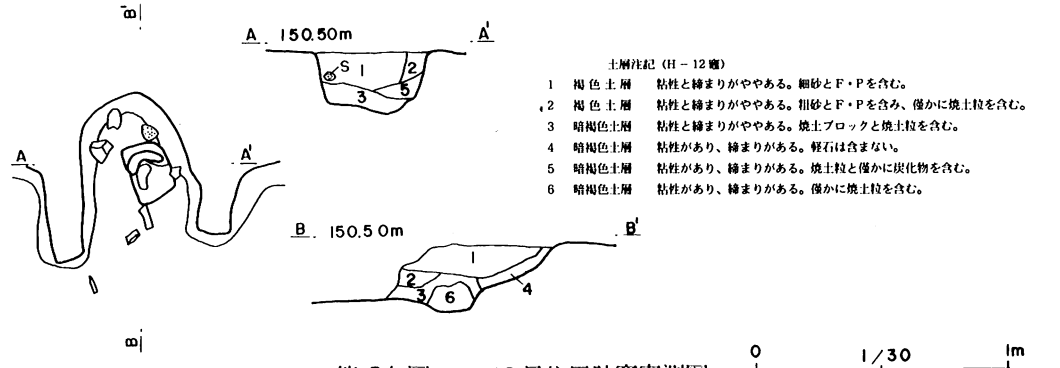
0　1/60　2m

第 22 図　　9号住居跡・竈実測図

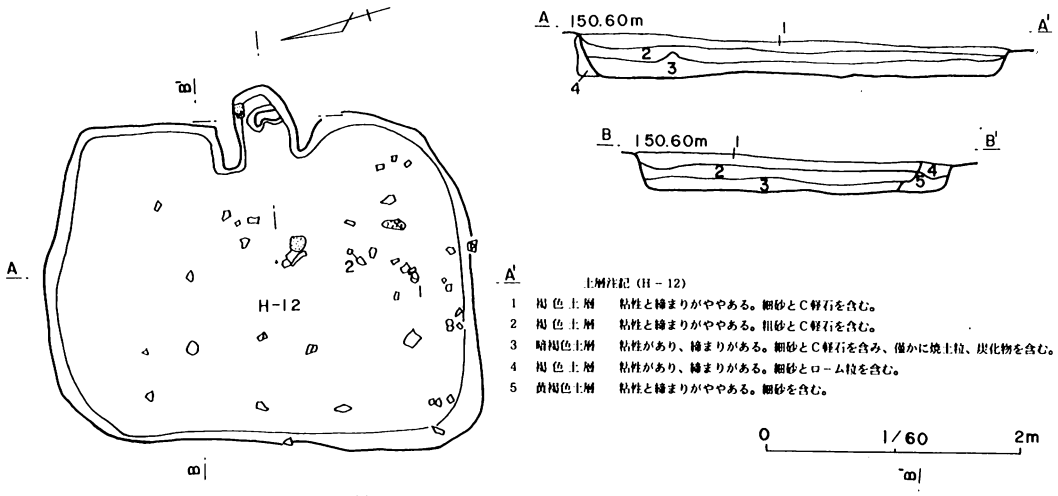
0　1/30　1m



第 23 図　　10号・11号住居跡・竈実測図



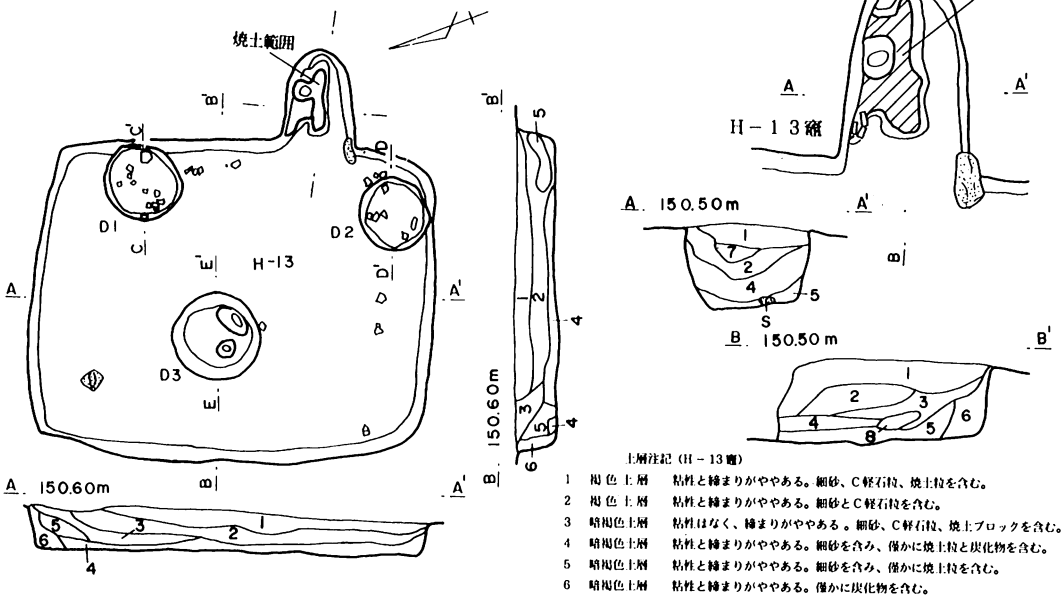
第 24 図　　12号住居跡竈実測図



土層注記（H－12）

1　褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂とC軽石を含む。
2　褐色土層　粘性と締まりがややある。粗砂とC軽石を含む。
3　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂とC軽石を含み、僅かに焼土粒、炭化物を含む。
4　褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂とローム粒を含む。
5　黄褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂を含む。

第 25 図　12号住居跡実測図



土層注記（H－13）

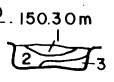
1　褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂を含み、僅かにC軽石粒を含む。
2　褐色土層　粘性がややあり、締まりがある。細砂を含み、僅かにF・P、ローム粒、焼土粒を含む。
3　褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂を含み、ローム粒を多く含む。
4　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂を含み、僅かに焼土粒と炭化物を含む。
5　褐色土層　粘性があり、締まりがややある。細砂を含み、所々黒色土とロームブロックを含む。
6　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂を含み、僅かにF・Pを含む。

土層注記（H－13竈）

1　褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂、C軽石粒、焼土粒を含む。
2　褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂とC軽石粒を含む。
3　暗褐色土層　粘性はなく、締まりがややある。細砂、C軽石粒、焼土ブロックを含む。
4　暗褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂を含み、僅かに焼土粒と炭化物を含む。
5　暗褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂を含み、僅かに焼土粒を含む。
6　暗褐色土層　粘性と締まりがややある。僅かに炭化物を含む。
7　褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂を含み、僅かにC軽石粒を含む。
8　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。焼土を含まない。

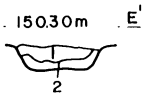
土層注記（H－13 D－1）

1　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かにC軽石と焼土粒を含み、細砂も含む。
2　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。焼土粒を多く含み、細砂も含む。
3　褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かに焼土粒を含む。



土層注記（H－13 D－2）

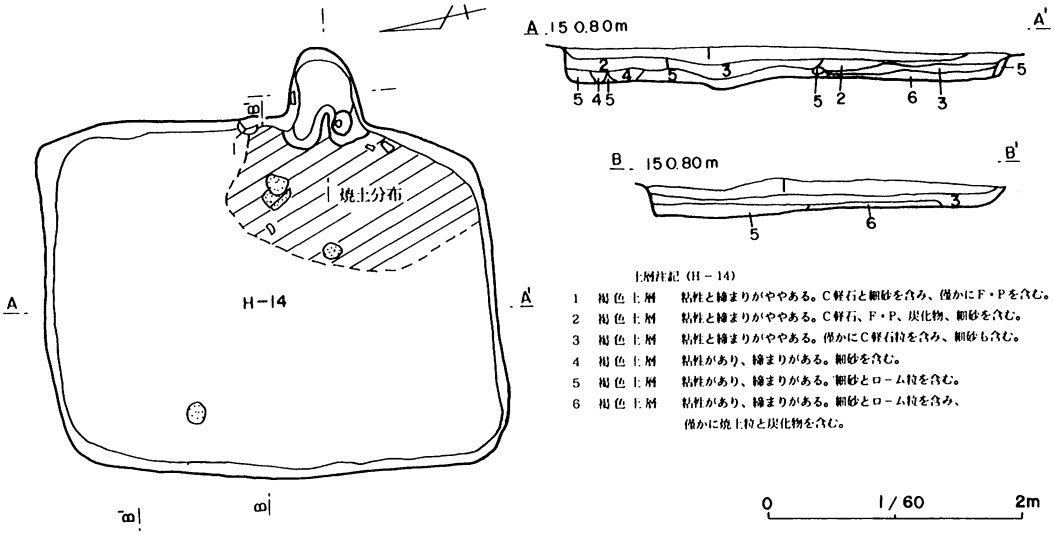
1　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かにC軽石を含み、細砂も含む。
2　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。焼土粒を多く含み、細砂も含む。
3　褐色土層　粘性があり、締まりがある。軽石を含まない。



土層注記（H－13 D－3）

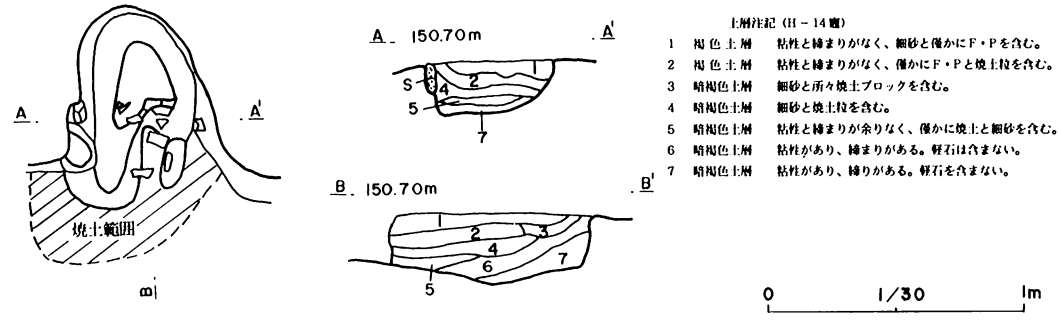
1　褐色土層　粘性がなく、細砂を含む。
2　暗褐色土層　粘性と締まりがややある。僅かに焼土粒と炭化物を含む。

第 26 図　13号住居跡・竈実測図



土層注記（H－14）

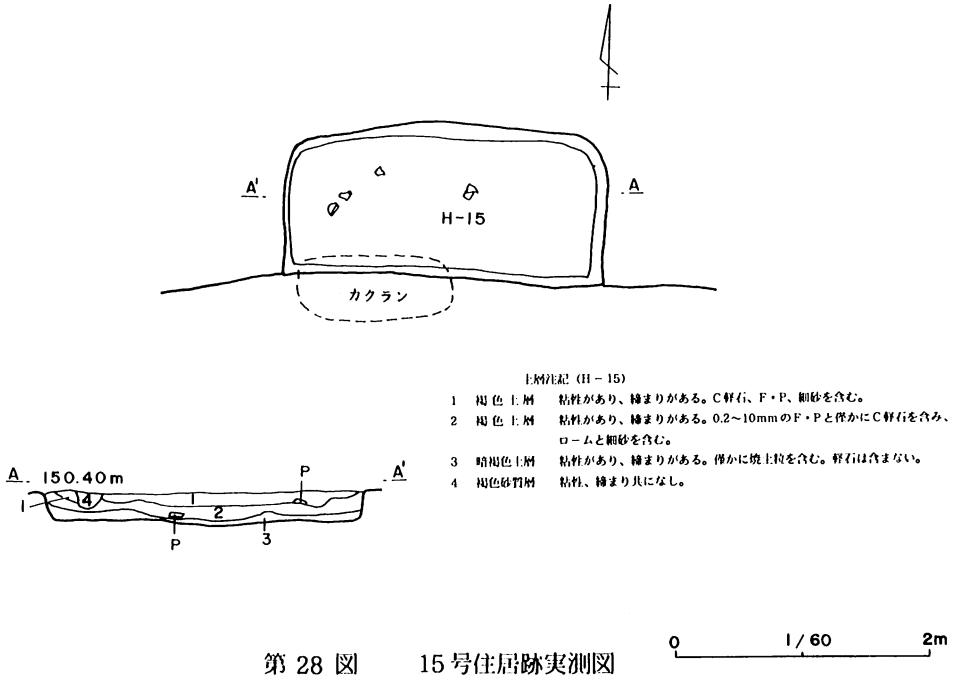
1　褐色土層　粘性と締まりがややある。C軽石と細砂を含み、僅かにF・Pを含む。
2　褐色土層　粘性と締まりがややある。C軽石、F・P、炭化物、細砂を含む。
3　褐色土層　粘性と締まりがややある。僅かにC軽石粒を含み、細砂も含む。
4　褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂を含む。
5　褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂とローム粒を含む。
6　褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂とローム粒を含み、僅かに焼土粒と炭化物を含む。



土層注記（H－14竈）

1　褐色土層　粘性と締まりがなく、細砂と僅かにF・Pを含む。
2　褐色土層　粘性と締まりがなく、僅かにF・Pと焼土粒を含む。
3　暗褐色土層　細砂と所々焼土ブロックを含む。
4　暗褐色土層　細砂と焼土粒を含む。
5　暗褐色土層　粘性と締まりが余りなく、僅かに焼土と細砂を含む。
6　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。軽石は含まない。
7　暗褐色土層　粘性があり、締りがある。軽石を含まない。

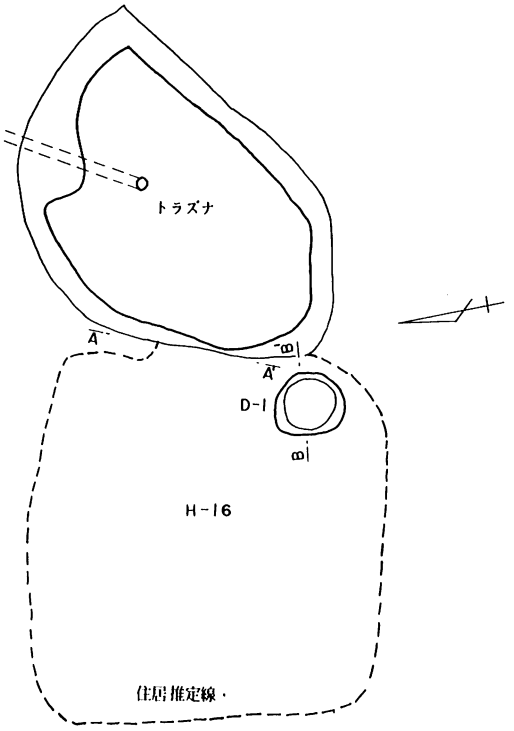
第 27 図　　14号住居跡・竈実測図

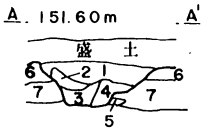


土層注記（H－15）

1　褐色土層　粘性があり、締まりがある。C軽石、F・P、細砂を含む。
2　褐色土層　粘性があり、締まりがある。0.2～10mmのF・Pと僅かにC軽石を含み、ロームと細砂を含む。
3　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かに焼土粒を含む。軽石は含まない。
4　褐色砂質層　粘性、締まり共になし。

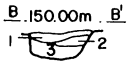
第 28 図　　15号住居跡実測図





土層注記（H－16）

1　褐色土層　粘性は余りなく、締まりがある。F・P、焼土粒、炭化物、細砂を含む。
2　褐色土層　粘性があり、締まりがある。焼土ブロック、F・P、炭化物、細砂を含む。
3　暗褐色土層　粘性は余りなく、締まりがある。焼土ブロック、灰、炭化物を含む。
4　暗褐色土層　焼土ブロックと粘土ブロックを含む。
5　灰褐色粘土ブロック　締まりがある。
6　黒色土層　粘性があり、締まりがある。僅かにC軽石を含む。
7　暗褐色土層　粘性があり、締まりがややある。C軽石、細砂と僅かに焼土粒を含む。

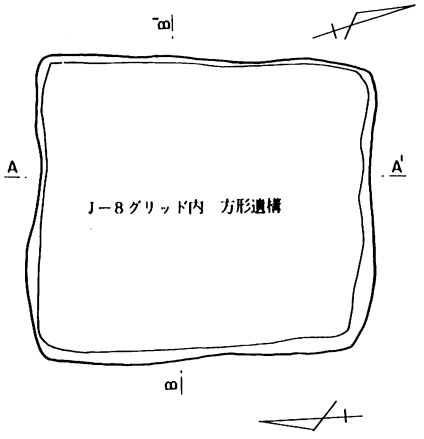


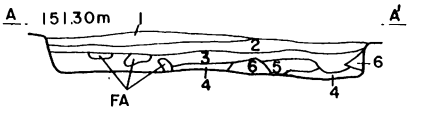
土層注記（H－16　D－1）

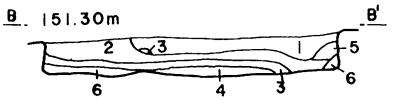
1　褐色土層　粘性はなく、締まりがややある。細砂と僅かにC軽石を含む。
2　褐色土層　粘性と締まりがややある。C軽石、細砂、灰を含む。
3　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。所々軽石と細砂を含む。

0　1/60　2m

第 29 図　　16 号住居跡実測図

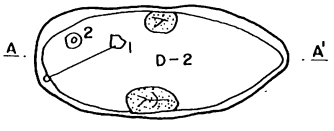


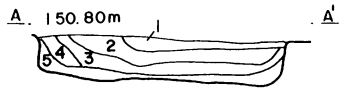




土層注記（J－8グリッド内の方形遺構）

1　褐色土層　粘性と締まりがややある。F・Pを含み、所々F・A も含む。
2　黒褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂とF・Pを含む。
3　黒色土層　粘性がややあり、締まりがある。C軽石を含み、所々F・Pを含む。
4　暗赤褐色土層　粘性があり、締まりがある。C軽石を含む。
5　褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かにF・Pを含む。
6　黒色土層　粘性、締まり共になし。C軽石を多く含む。

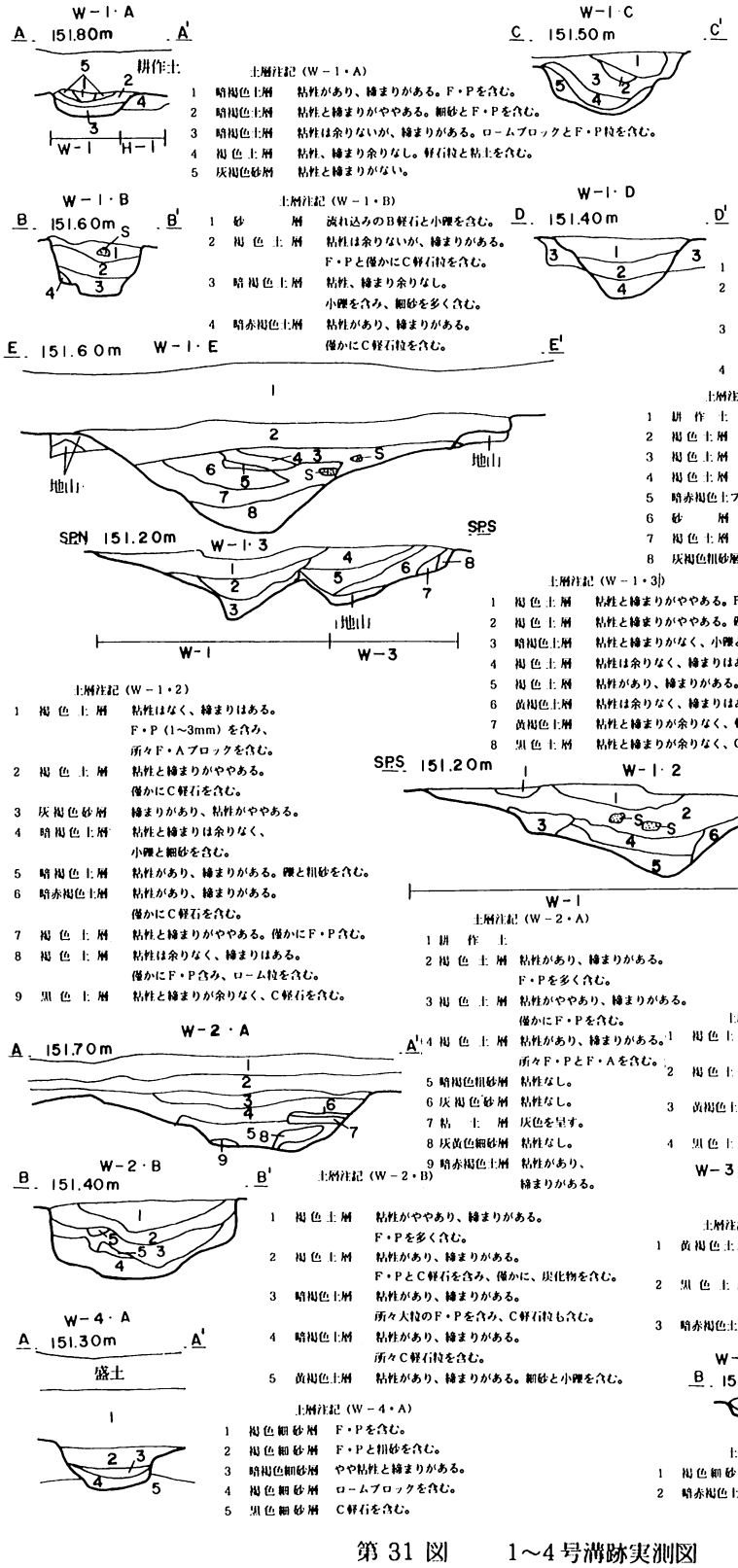




土層注記（D－2）

1　褐色土層　粘性と締まりがなく、細砂とF・Pを含む。
2　褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂を含み、F・P（2mm～1cm）を含む。
3　褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂を含み、F・PとC軽石粒を含む。
4　褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂を含み、F・Pと炭化物を含む。
5　暗赤褐色土層　粘性があり、締まりがある。軽石を含まない。

第 30 図　　方形遺構・2号土坑実測図　　0　1/60　2m



主層注記（W－1・A）

1　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。F・Pを含む。
2　暗褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂とF・Pを含む。
3　暗褐色土層　粘性は余りないが、締まりがある。ロームブロックとF・P粒を含む。
4　褐色土層　粘性、締まり余りなし。軽石粒と粘土を含む。
5　灰褐色砂層　粘性と締まりがない。

主層注記（W－1・B）

1　砂層　流れ込みのB軽石と小礫を含む。
2　褐色土層　粘性は余りないが、締まりがある。F・Pと僅かにC軽石粒を含む。
3　暗褐色土層　粘性、締まり余りなし。小礫を含み、細砂を多く含む。
4　暗赤褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かにC軽石粒を含む。

主層注記（W－1・C）

1　褐色土層　粘性と締まりがややある。F・Pを含む。
2　褐色土層　粘性と締まりがややある。細砂を多く含む。
3　褐色土層　粘性と締まりがややある。礫とF・Pを含む。
4　暗褐色土層　粘性はあるが、締まりはない。細砂を多く含む。
5　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かに軽石を含む。

主層注記（W－1・D）

1　褐色土層　粘性と締まりがなく、F・Pを含む。
2　褐色土層　粘性と締まりがなく、礫と僅かにF・P含む。
3　褐色土層　粘性は余りなく、締まりはある。F・Pと僅かにC軽石を含む。
4　暗褐色土層　粘性と締まりがなく。細砂を多く含む。

主層注記（W－1・E）

1　耕作土
2　褐色土層　粘性がややあり、締まりがある。僅かにF・Pを含む。
3　褐色土層　粗砂とF・P含む。
4　褐色土層　粗砂を含む。
5　暗赤褐色土ブロック（地山）
6　砂層　（B軽石の流れ込みを含む）
7　褐色土層　僅かに礫とF・P含む。
8　灰褐色粗砂層　粘性はなく、締まりがややある。

主層注記（W－1・3）

1　褐色土層　粘性と締まりがややある。F・Pを含む。
2　褐色土層　粘性と締まりがややある。礫と僅かにF・Pを含む。
3　暗褐色土層　粘性と締まりがなく、小礫と砂を含む。
4　褐色土層　粘性は余りなく、締まりはある。F・Pと僅かにC軽石を含む。
5　褐色土層　粘性があり、締まりがある。所々にC軽石を含む。
6　黄褐色土層　粘性は余りなく、締まりはある。C軽石と僅かにF・P含む。
7　黄褐色土層　粘性と締まりが余りなく、軽石を含まない。
8　黒色土層　粘性と締まりが余りなく、C軽石を含む。

主層注記（W－1・2）

1　褐色土層　粘性はなく、締まりはある。F・P（1～3mm）を含み、所々F・Aブロックを含む。
2　褐色土層　粘性と締まりがややある。僅かにC軽石を含む。
3　灰褐色砂層　締まりがあり、粘性がややある。
4　暗褐色土層　粘性と締まりは余りなく、小礫と細砂を含む。
5　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。礫と粗砂を含む。
6　暗赤褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かにC軽石を含む。
7　褐色土層　粘性と締まりがややある。僅かにF・P含む。
8　褐色土層　粘性は余りなく、締まりはある。僅かにF・P含み、ローム粒を含む。
9　黒色土層　粘性と締まりが余りなく、C軽石を含む。

主層注記（W－2・A）

1　耕作土
2　褐色土層　粘性があり、締まりがある。F・Pを多く含む。
3　褐色土層　粘性がややあり、締まりがある。僅かにF・Pを含む。
4　褐色土層　粘性があり、締まりがある。所々F・PとF・Aを含む。
5　暗褐色粗砂層　粘性なし。
6　灰褐色砂層　粘性なし。
7　粘土層　炭色を呈す。
8　灰黄色細砂層　粘性なし。
9　暗赤褐色土層　粘性があり、締まりがある。

主層注記（W－2・B）

1　褐色土層　粘性がややあり、締まりがある。F・Pを多く含む。
2　褐色土層　粘性があり、締まりがある。F・PとC軽石を含み、僅かに、炭化物を含む。
3　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。所々大粒のF・Pを含み、C軽石粒も含む。
4　暗褐色土層　粘性があり、締まりがある。所々C軽石粒を含む。
5　黄褐色土層　粘性があり、締まりがある。細砂と小礫を含む。

主層注記（W－4・A）

1　褐色細砂層　F・Pを含む。
2　褐色細砂層　F・Pと粗砂を含む。
3　暗褐色細砂層　やや粘性と締まりがある。
4　褐色細砂層　ロームブロックを含む。
5　黒色細砂層　C軽石を含む。

主層注記（W－3・A）

1　褐色土層　粘性と締まりがややある。F・P（1～10mm）を含む。
2　褐色土層　粘性があり、締まりがある。F・P粒を含む。
3　黄褐色土層　粘性は余りなく、締まりはある。F・Pと僅かにC軽石を含む。
4　黒色土層　粘性と締まりが余りなく、C軽石を多く含む。

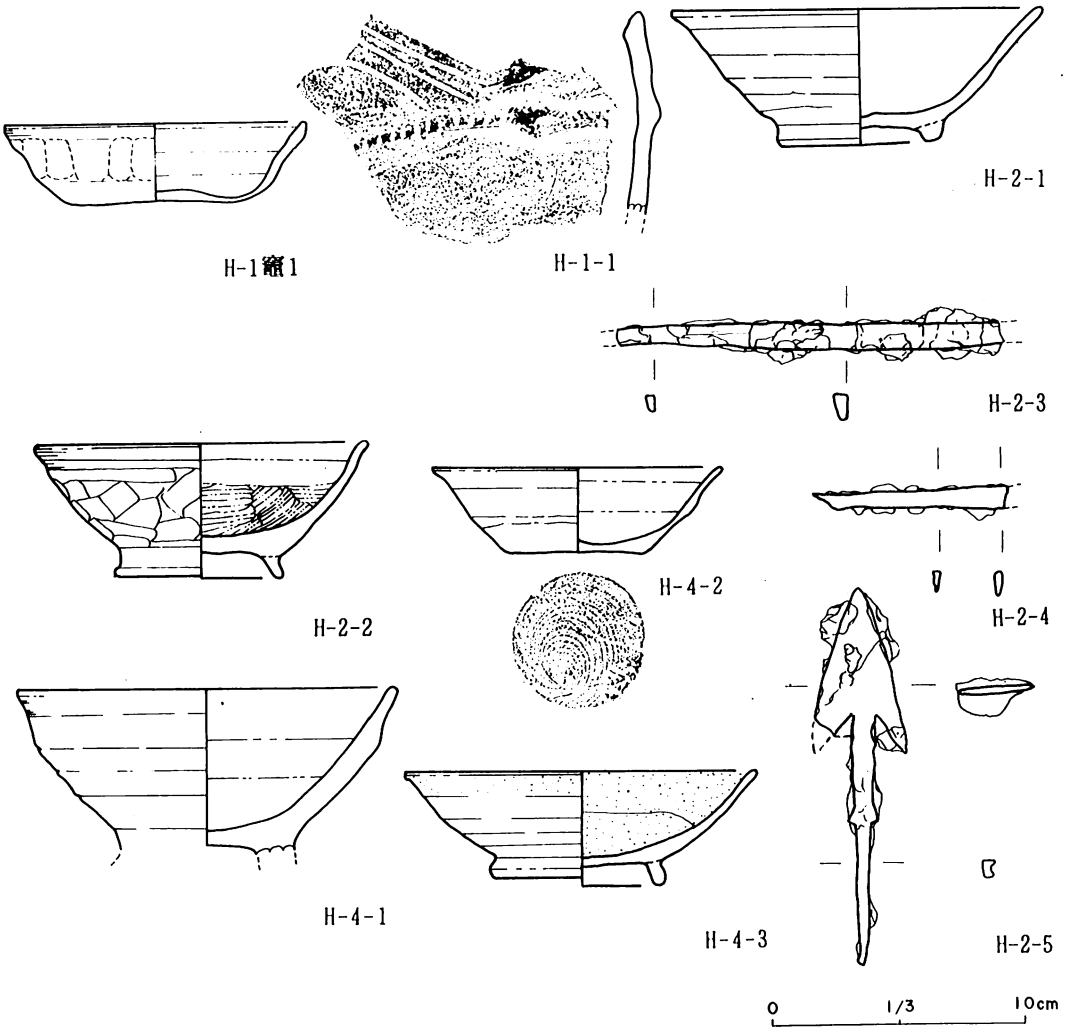
主層注記（W－3・B）

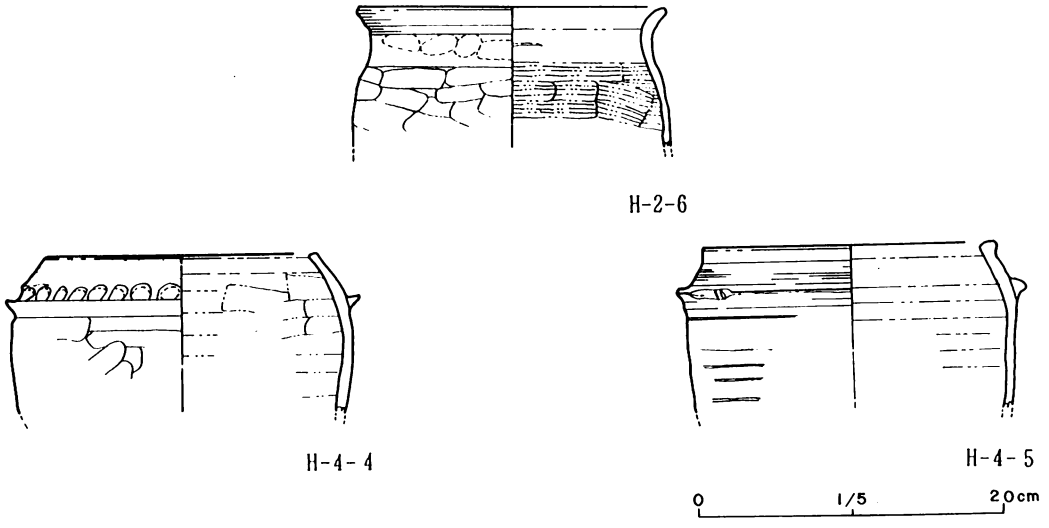
1　黄褐色土層　粘性は余りなく、締まりはある。F・PとC軽石を含む。
2　黒色土層　粘性と締まりが余りなく、C軽石を多く含み、ローム粒も含む。
3　暗赤褐色土層　粘性があり、締まりがある。僅かにC軽石を含む。

主層注記（W－4・B, C）

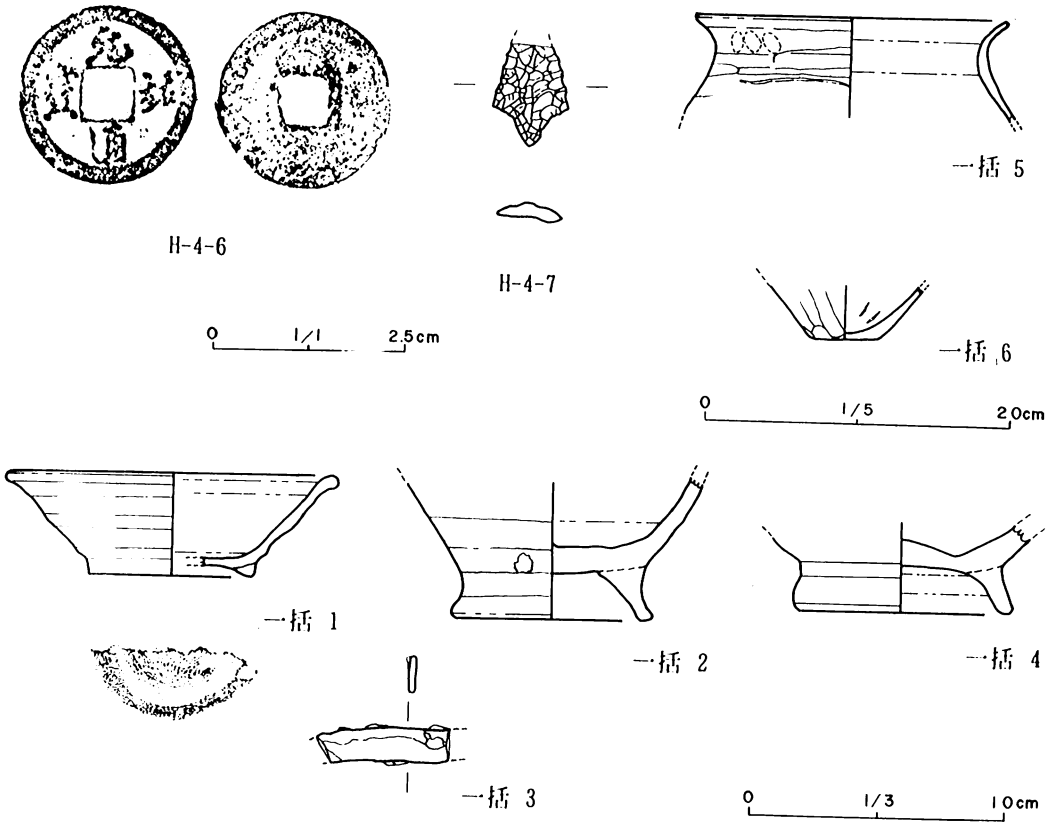
1　褐色細砂層　F・Pを含む。
2　暗赤褐色土層　粘性があり、締まりがある。軽石を含まない。

第 31 図　　1～4号溝跡実測図

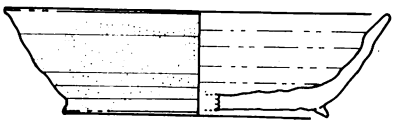

H-1竈1
H-1-1
H-2-1
H-2-3
H-2-2
H-4-2
H-2-4
H-4-1
H-4-3
H-2-5
0
1/3
10cm


H-2-6
H-4-4
H-4-5
0
1/5
20cm

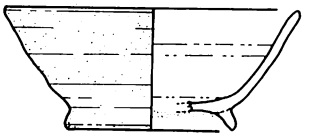
遺物実測図　2



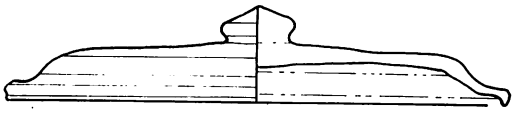
H-1-1



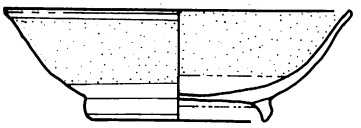
H-1-2



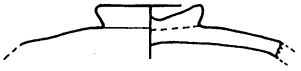
H-3-2



H-3-1

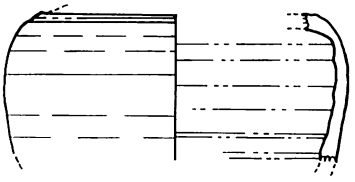


H-5-2

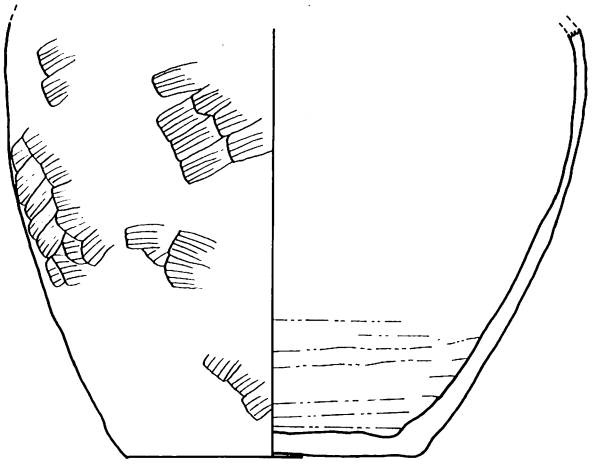


H-4-1

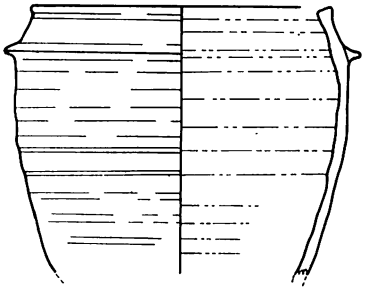
0　1/3　10cm



H-3-3



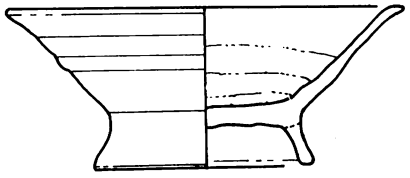
H-3-4



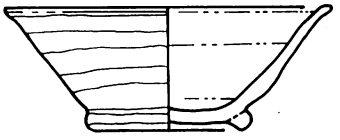
H-5-1

0　1/5　20cm

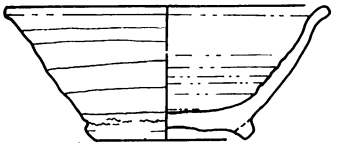
遺物実測図　4



H-5-3

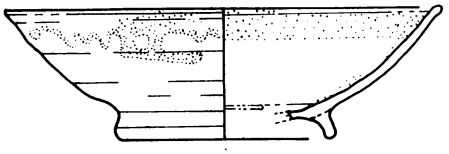


H-5-4

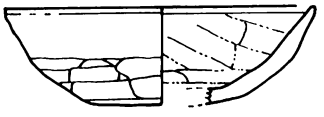


H-5-5

H-5縮1

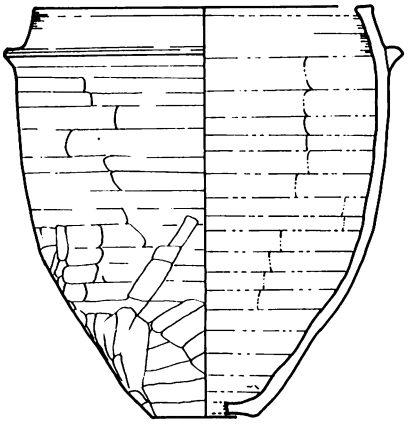


H-6-1

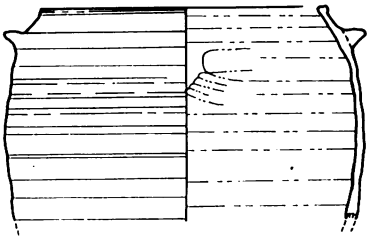


H-7-1

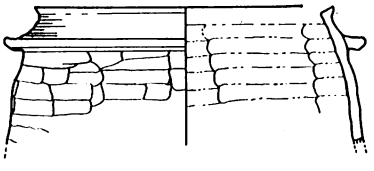
0　1/3　10cm



H-5-6

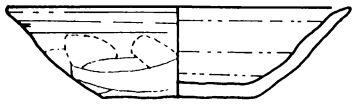


H-8-1

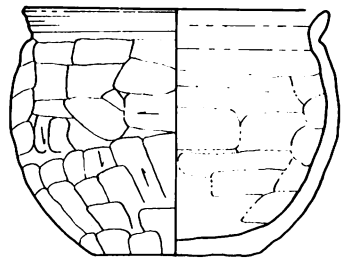


H-8-2

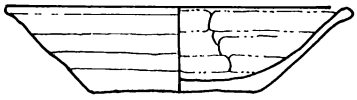
0　1/5　20cm



H-8-3

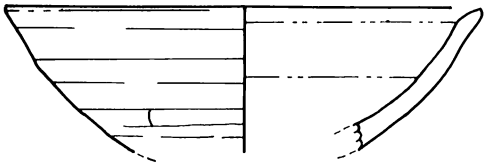


H-8-4

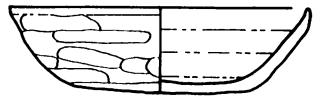


H-9-1

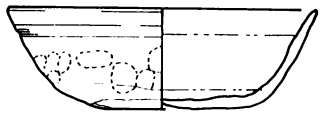
H-9-2



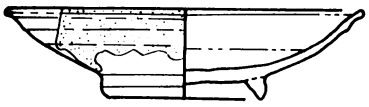
H-9-3



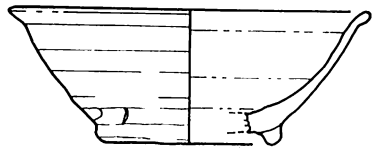
H-9-4



H-11-1



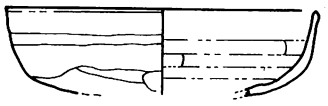
H-12-1



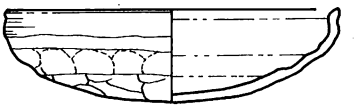
H-12-2

0 1/3 10cm

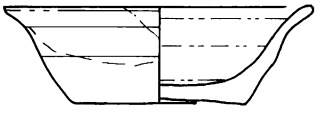
遺物実測図　6



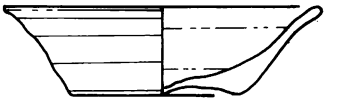
H-14-1



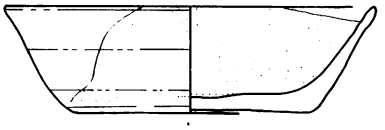
D-1-1



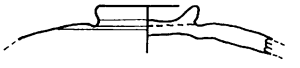
D-2-1



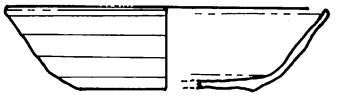
D-2-2



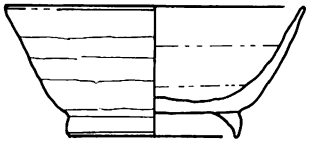
W-1-1



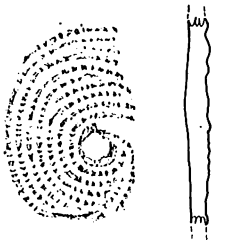
W-1-2



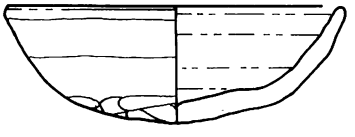
W-1一括



W-2-1



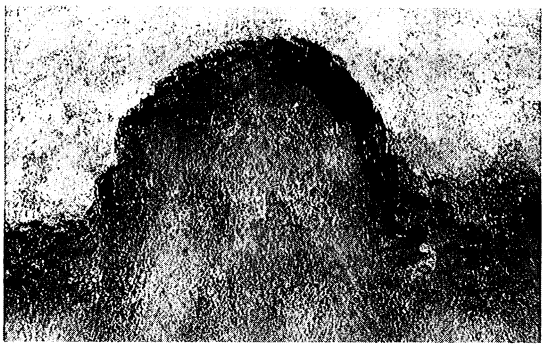
W-4一括



W-3-1

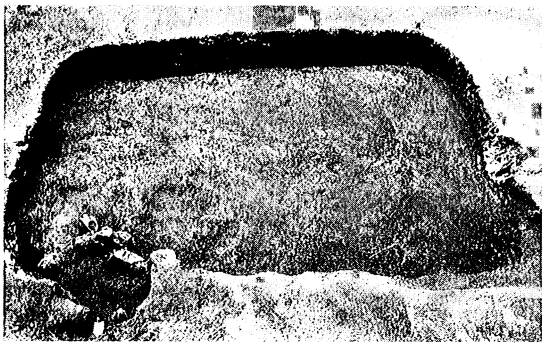
0　1/3　10cm

1号住居跡

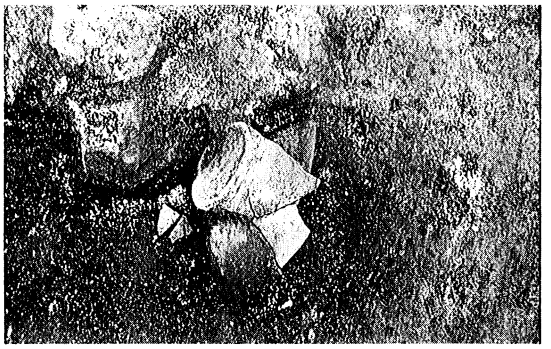


1号住居跡竈

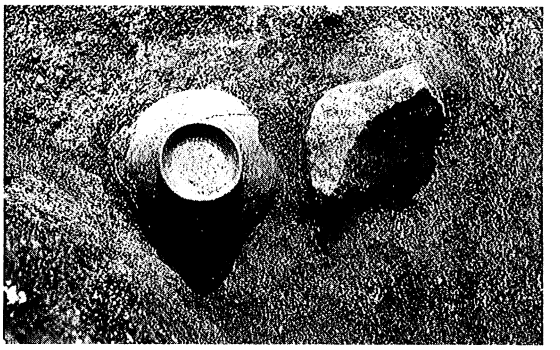
1号住居跡竈セクション



2号住居跡



2号住居跡出土遺物状況

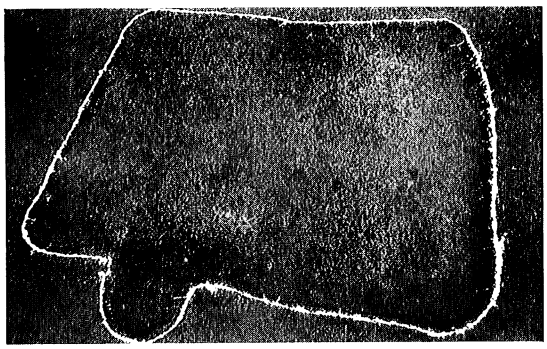


2号住居跡出土遺物状況

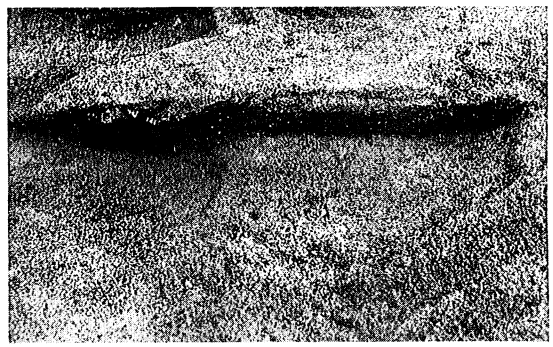
2号住居跡出土遺物状況

2号住居跡竈

図版　2

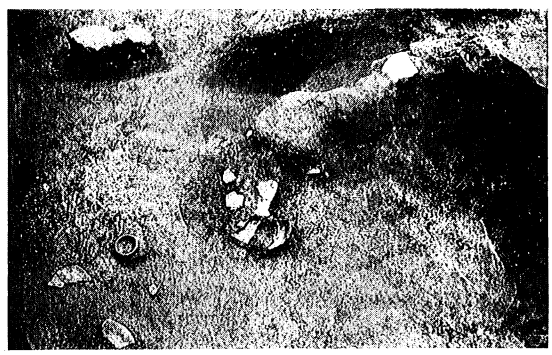


3号住居跡

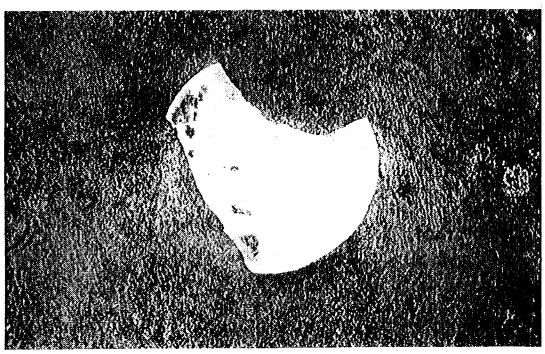


3号住居跡竈セクション

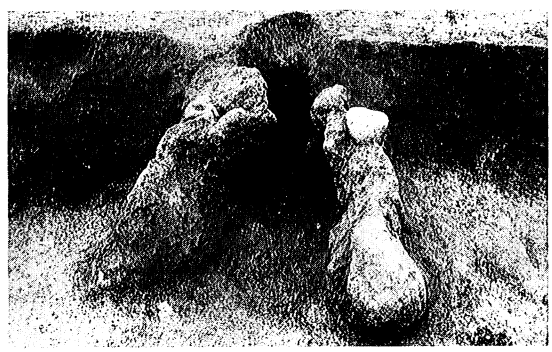
4号住居跡



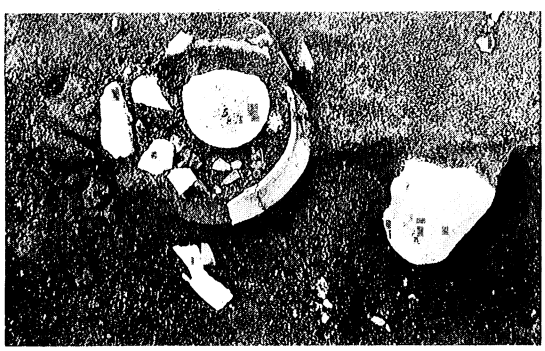
4号住居跡出土遺物状況



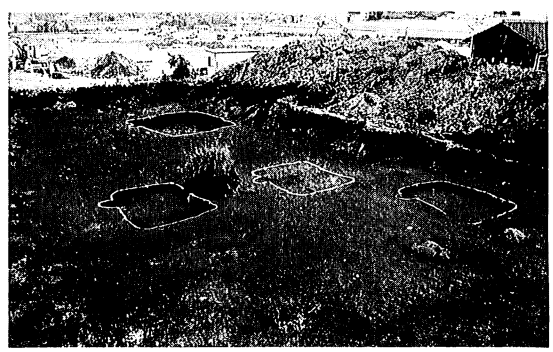
4号住居跡出土遺物状況



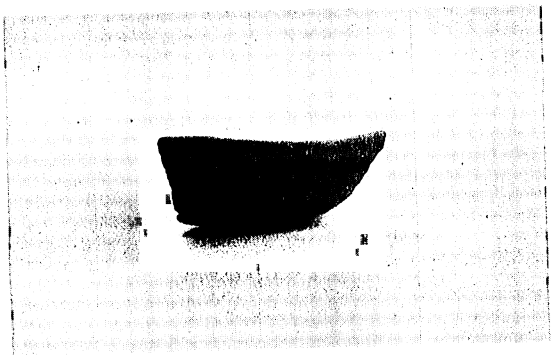
4号住居跡竈



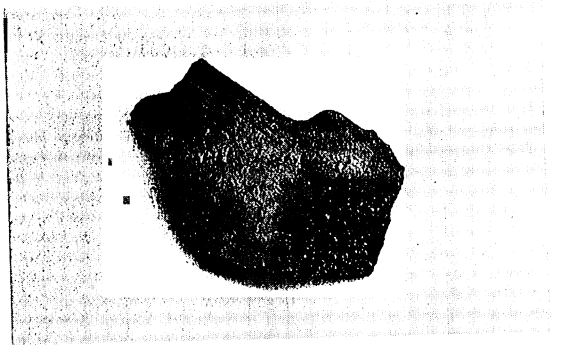
出土遺物状況



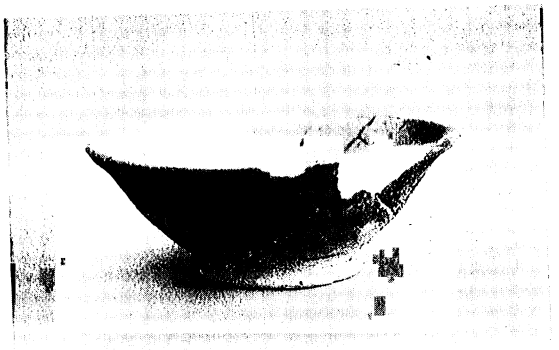
1号～4号住居跡全景



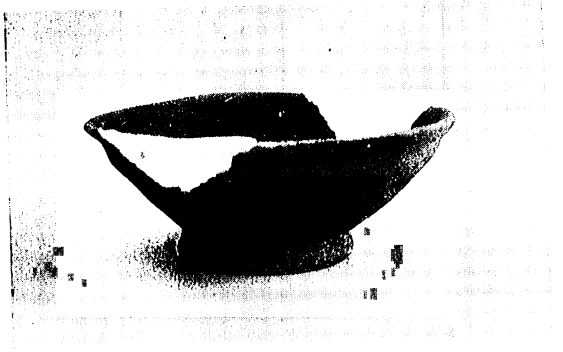
H－1 窯1



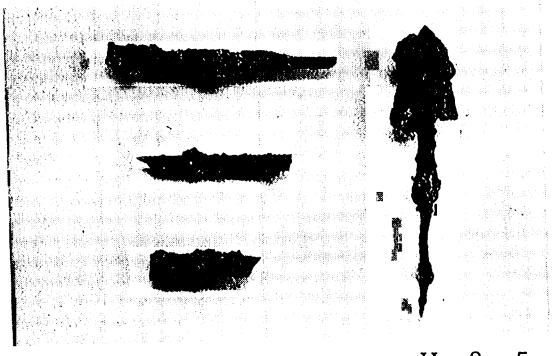
H－1－1



H－2－1

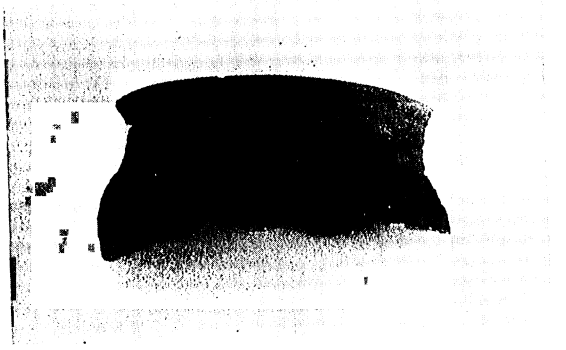


H－2－2

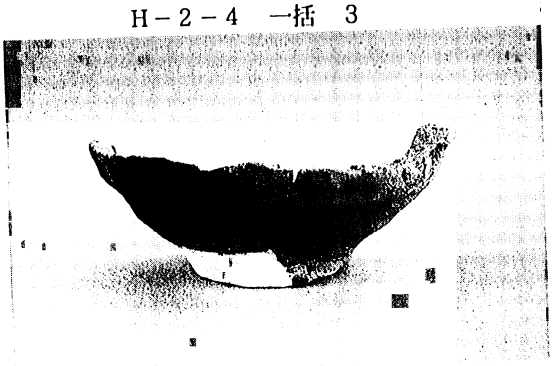


H－2－3　　H－2－5

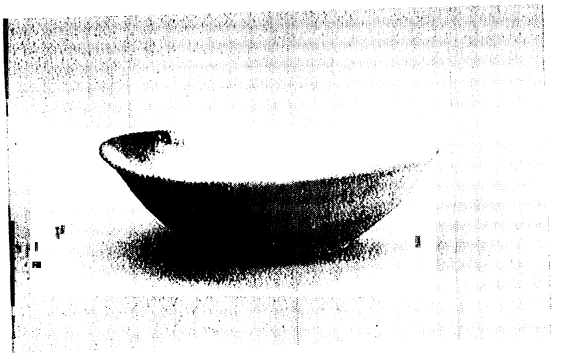
H－2－4　一括　3



H－2－6

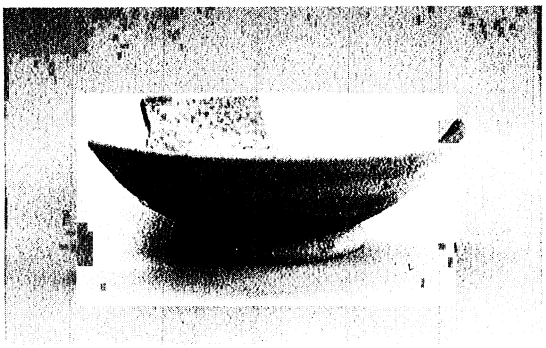


H－4－1

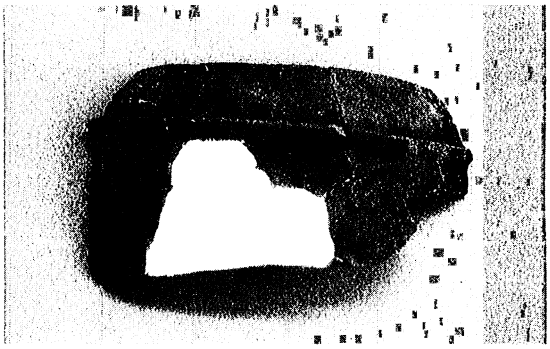


H－4－2

図版　4

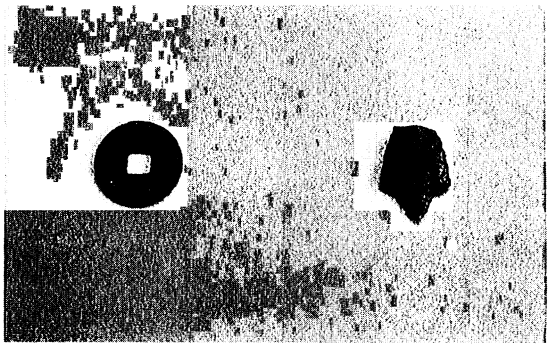


H－4－3

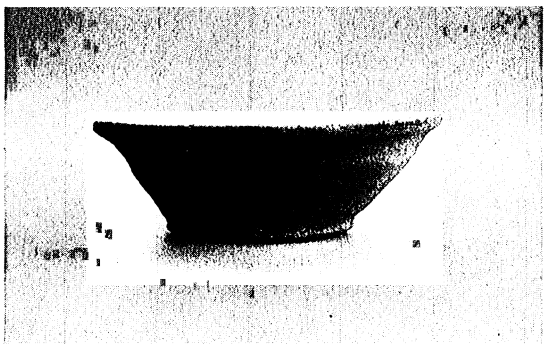


H－4－4

H－4－5

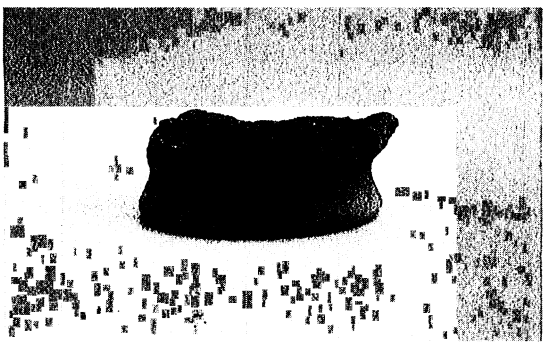


H－4－6　　H－4－7

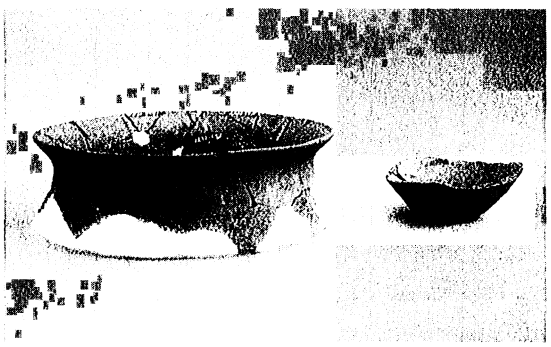


一括　1

一括　2

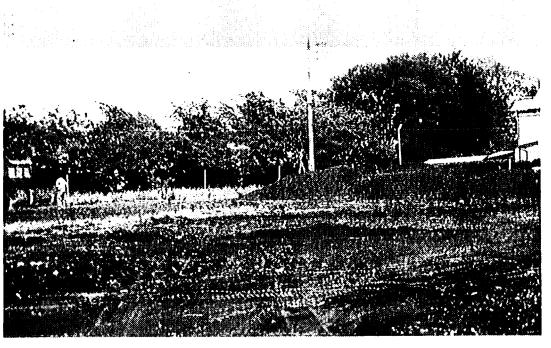


一括　4

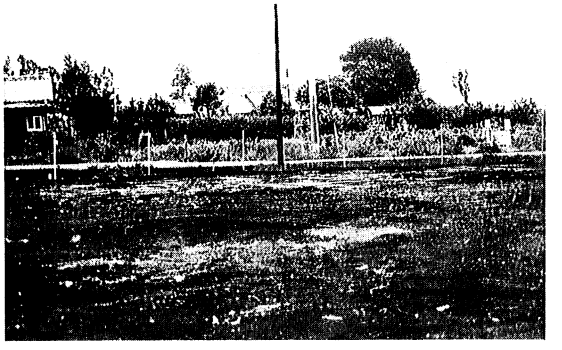


一括　5　　一括　6

調査区全景



調査前現況（南西から望む）



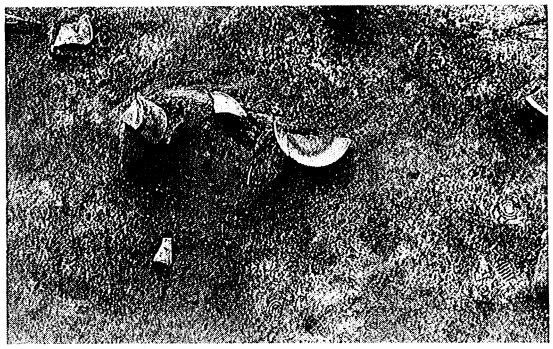
調査前現況（南から望む）

作業風景

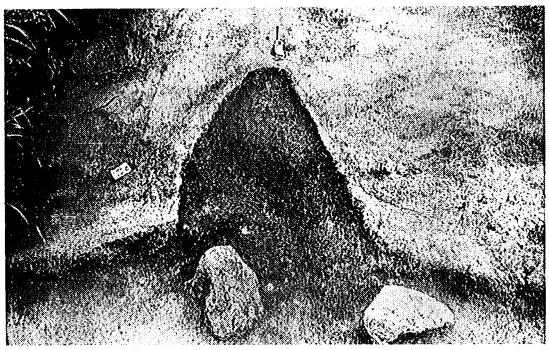
作業風景

図版　6

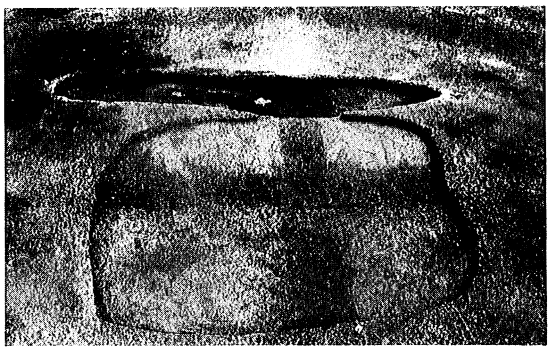
1号住居跡



1号住居跡出土遺物状況

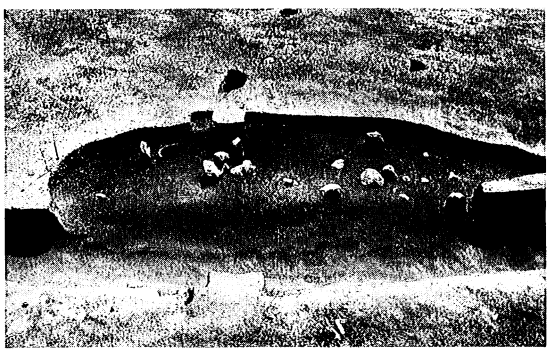


1号住居跡竈



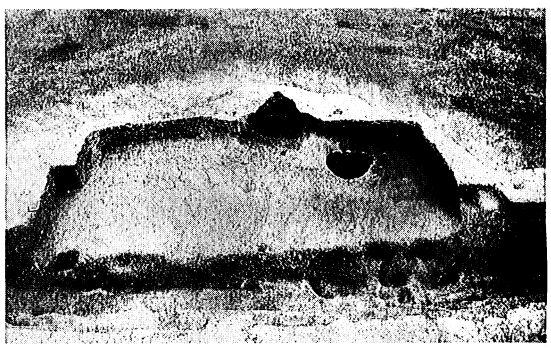
2号住居跡

3号住居跡



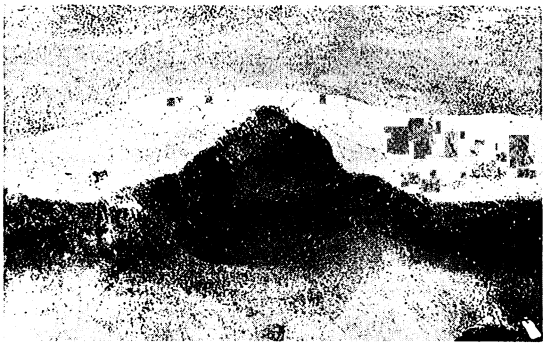
3号住居跡出土遺物状況

3号住居跡出土遺物状況



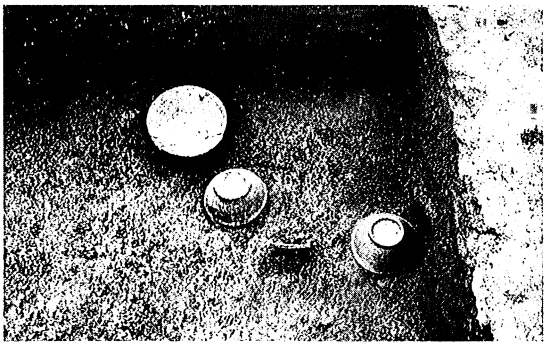
4号住居跡

4号住居跡出土遺物状況



4号住居跡竈

5号住居跡



5号住居跡出土遺物状況

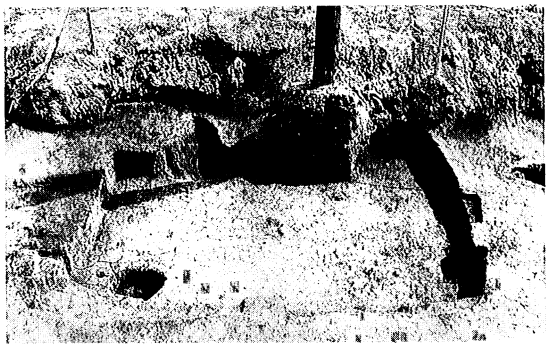
5号住居跡竈

5号住居跡竈出土遺物状況

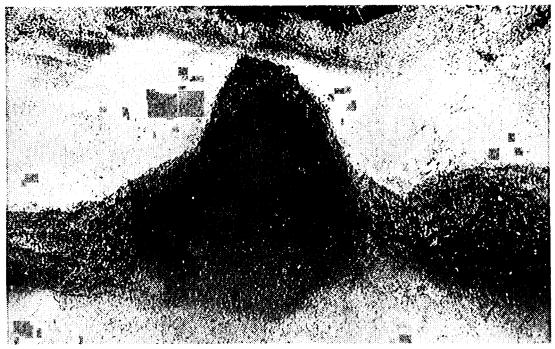
6号住居跡

6号住居跡竈

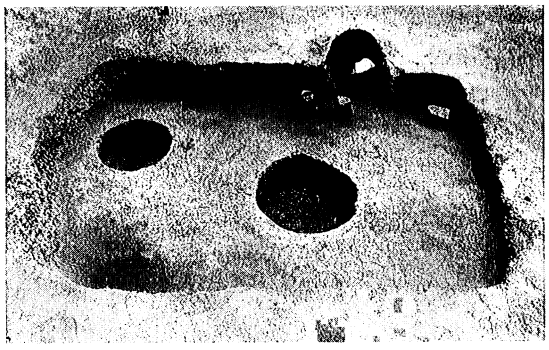
図版　8



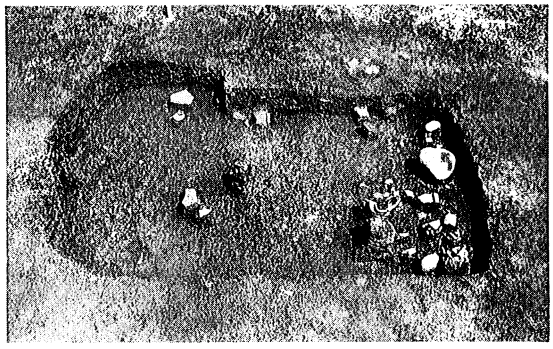
7号住居跡



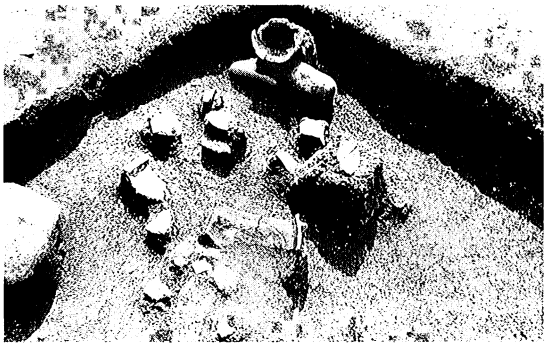
7号住居跡竈



8号住居跡

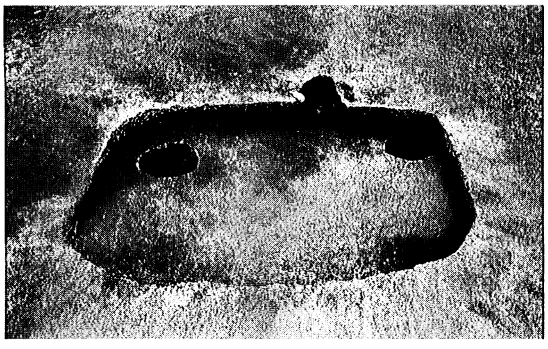


8号住居跡出土遺物状況

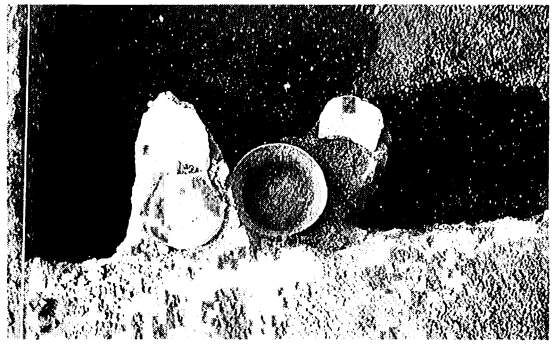


8号住居跡出土遺物状況

8号住居跡竈

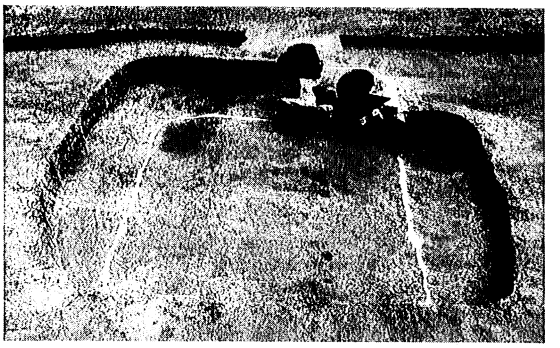


9号住居跡

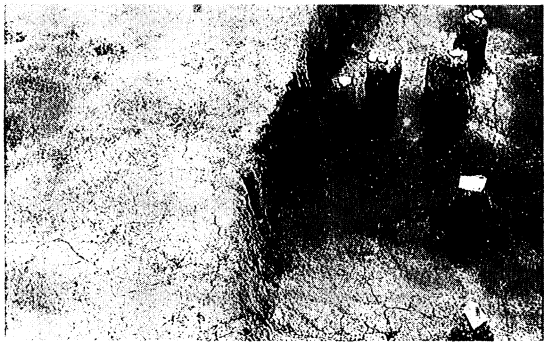


9号住居跡出土遺物状況

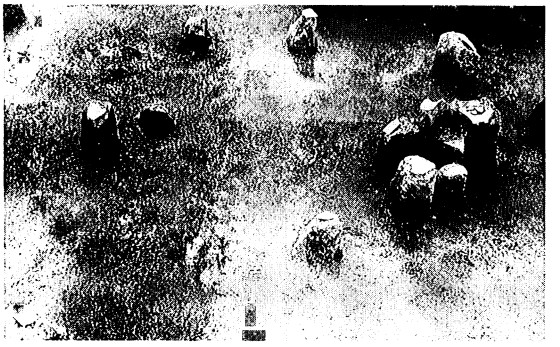
9号住居跡竈



10・11号住居跡



10号住居跡出土遺物状況



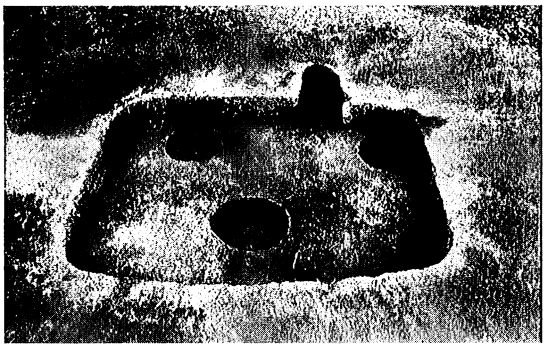
11号住居跡出土遺物状況

10・11号住居跡竈

12号住居跡

12号住居跡出土遺物状況

12号住居跡竈出土遺物状況



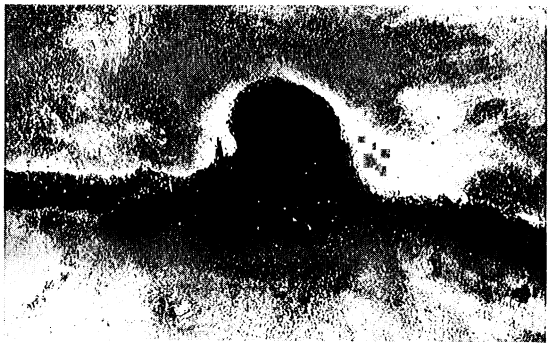
13 号住居跡

13 号住居跡出土遺物状況

13 号住居跡竈

14 号住居跡

14 号住居跡出土遺物状況



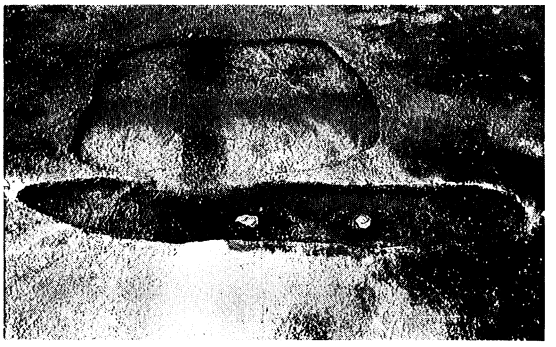
14 号住居跡竈

15 号住居跡

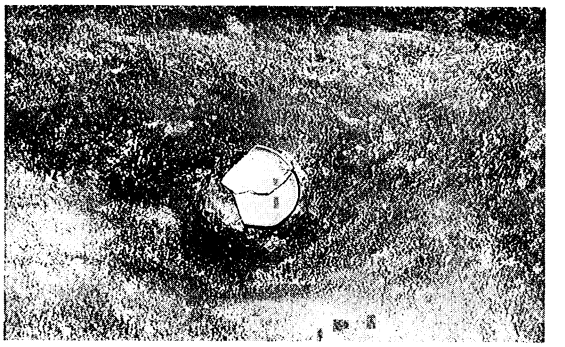
15 号住居跡出土遺物状況

16号住居跡推定範囲

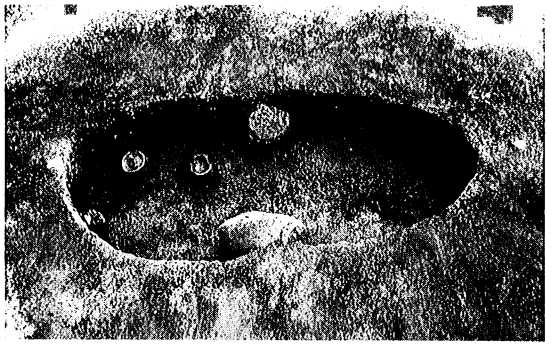
16号住居跡貯蔵穴状況



2号住居跡 1号土坑出土遺物状況



1号土坑出土遺物状況

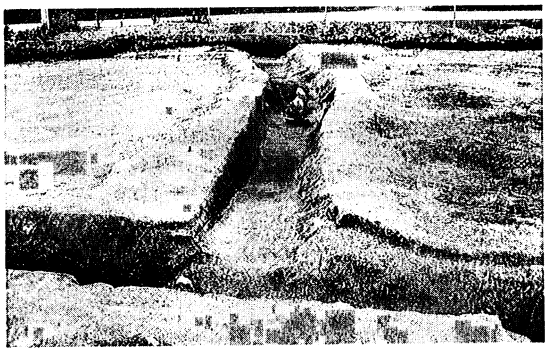


2号土坑出土遺物状況

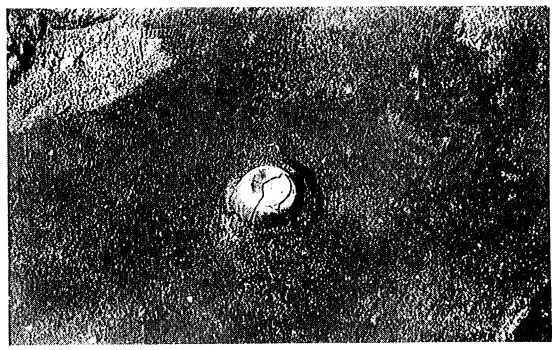
1号溝全景（南から望む）

1号溝全景（北から望む）

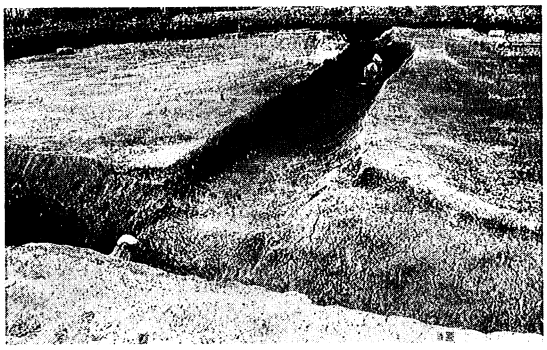
1号溝出土遺物状況



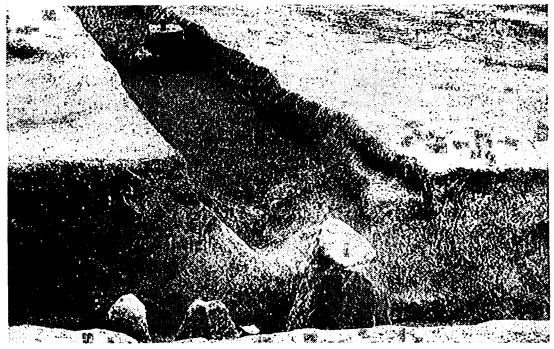
2号溝全景（東から望む）



2号溝遺物出土状況

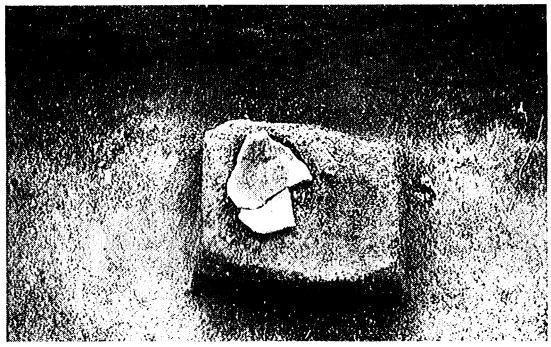


1・2号溝（東から望む）

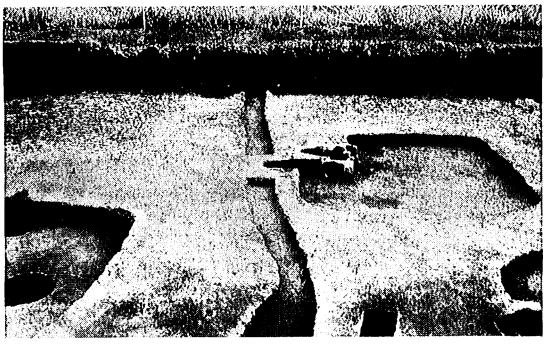


1・3号溝（西から望む）

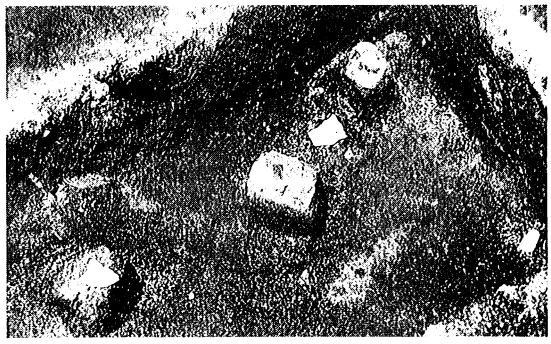
3号溝全景（西から望む）



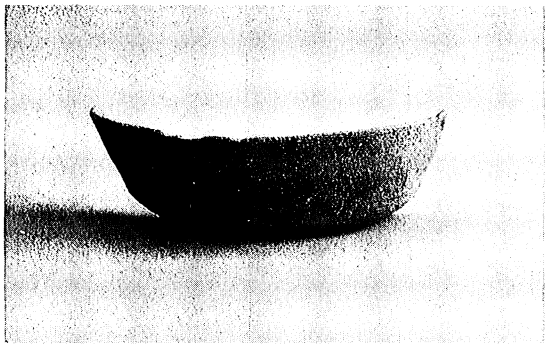
3号溝遺物出土状況



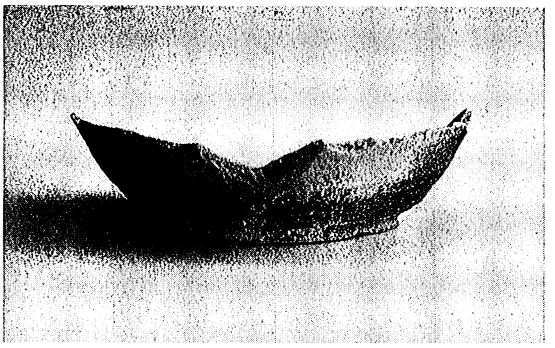
4号溝全景（北から望む）



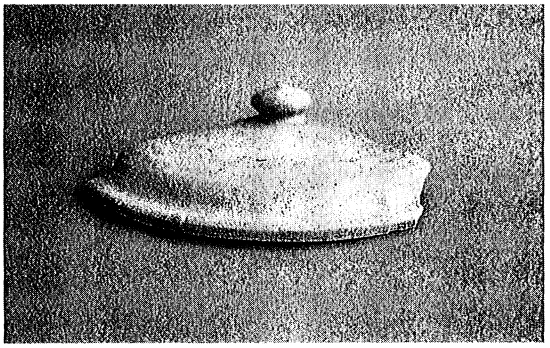
4号溝遺物出土状況



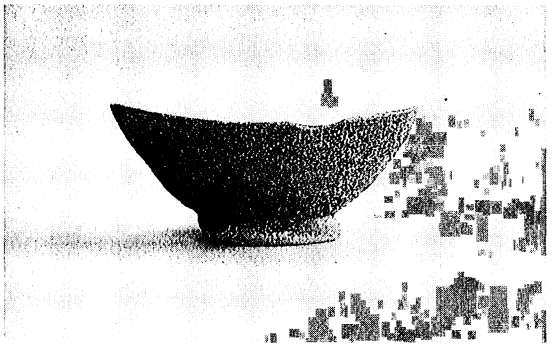
H－1－1



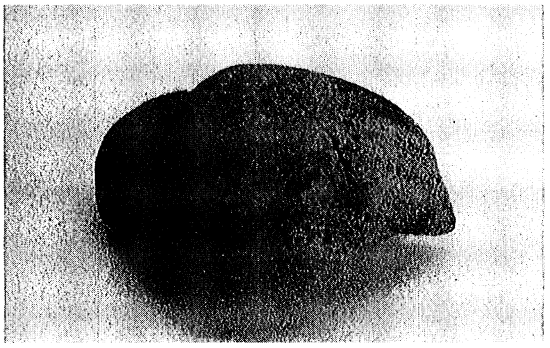
H－1－2



H－3－1

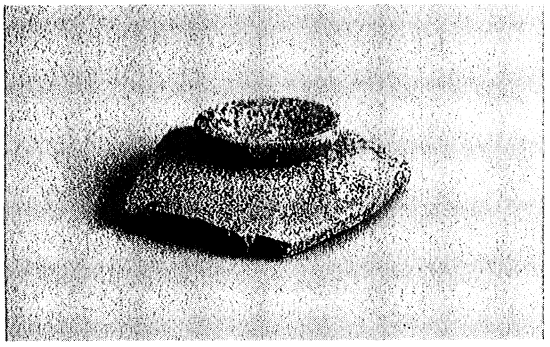


H－3－2

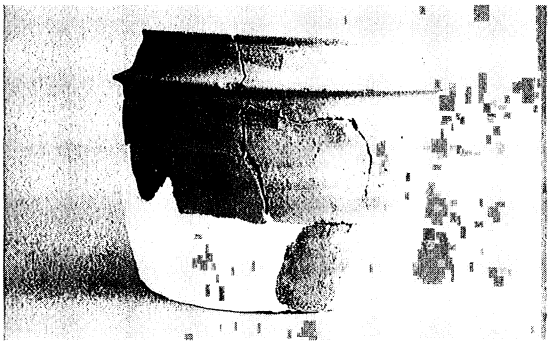


H－3－3

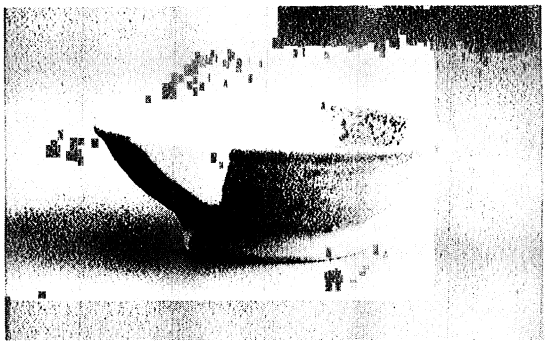
H－3－4



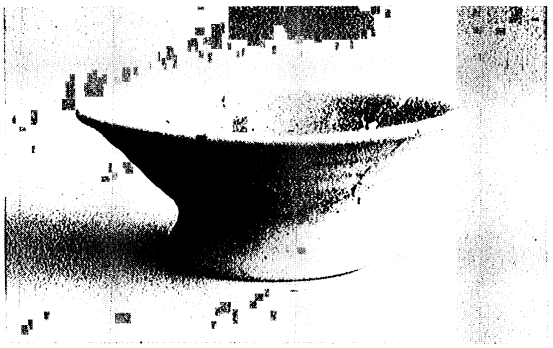
H－4－1



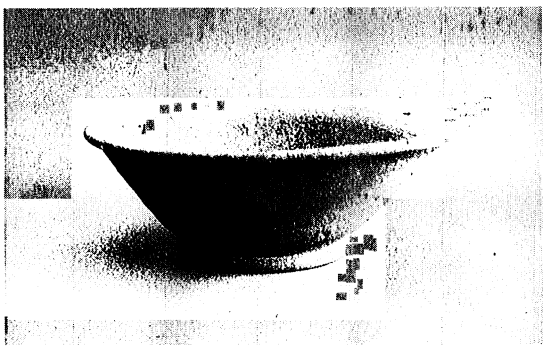
H－5－1



H－5－2

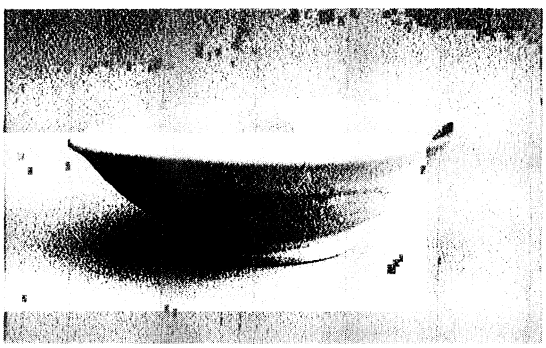


H－5－3



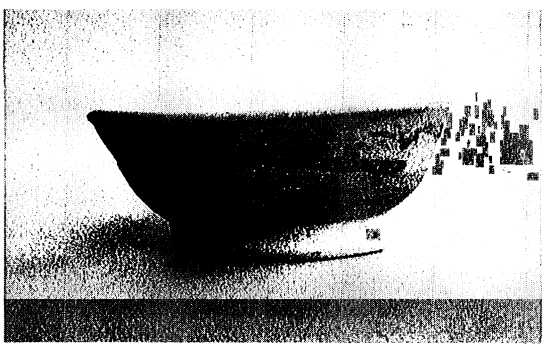
H－5－4

H－5－5

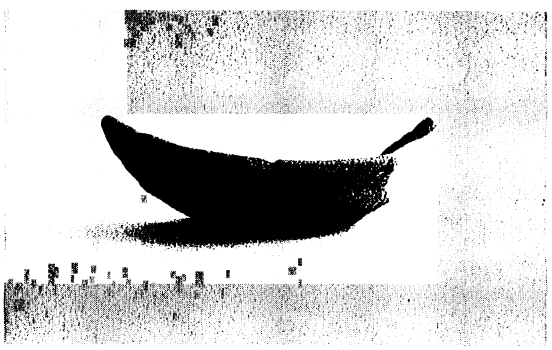


H－5竈1

H－5－6

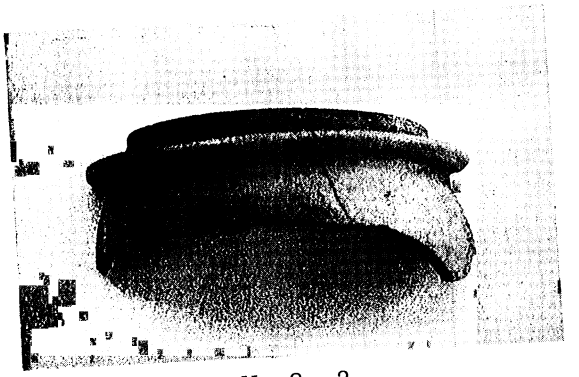


H－6－1

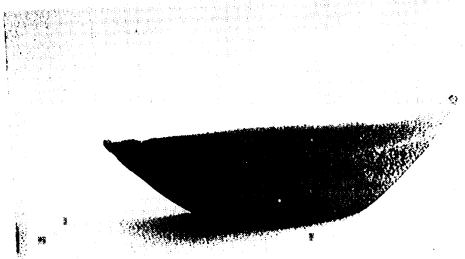


H－7－1

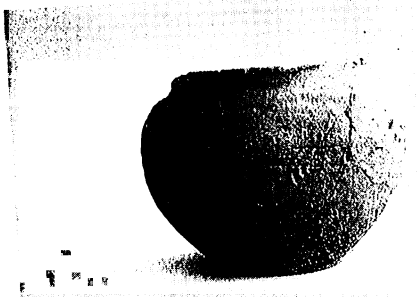
H－8－1



H－8－2

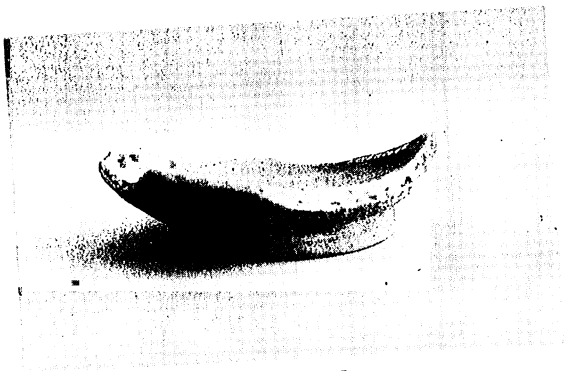


H－8－3

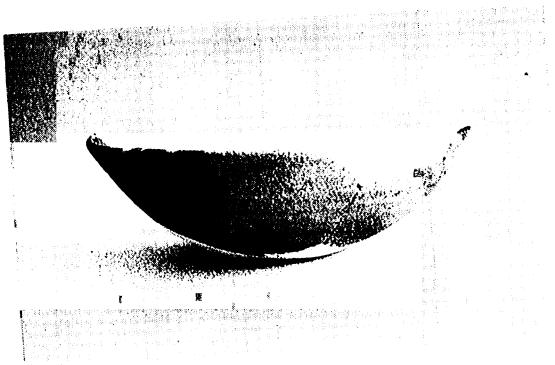


H－8－4

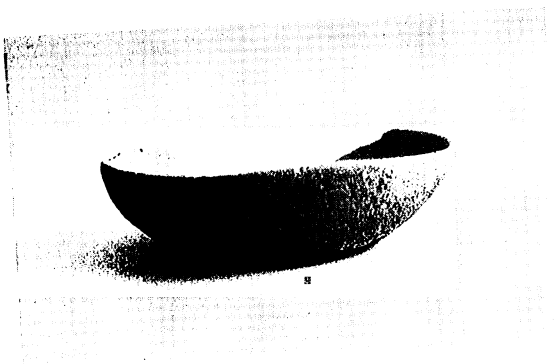
H－9－1



H－9－2

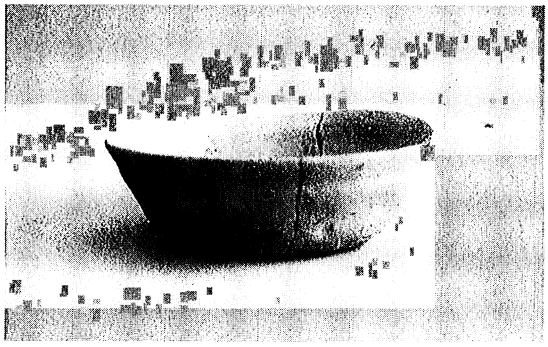


H－9－3

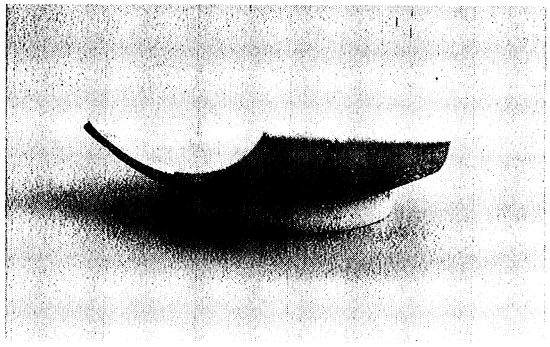


H－9－4

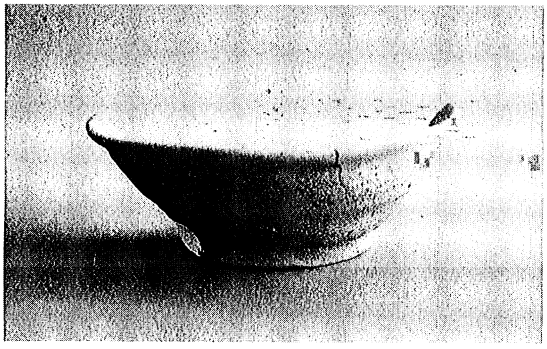
図版　16



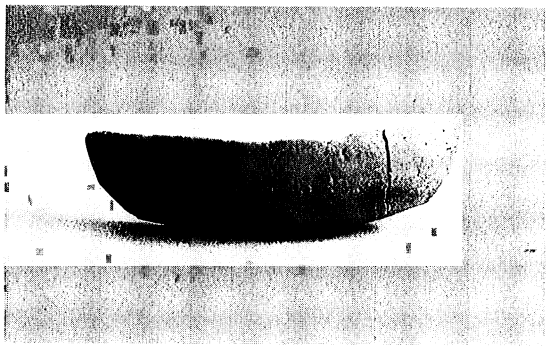
H－１１－１



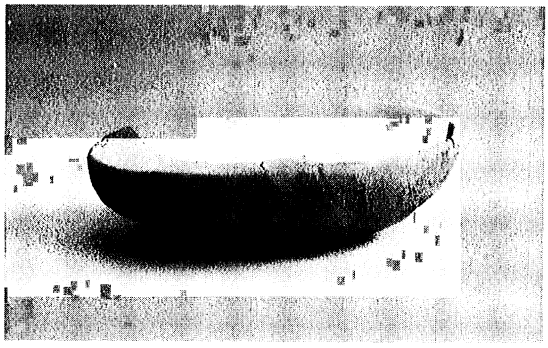
H－１２－１



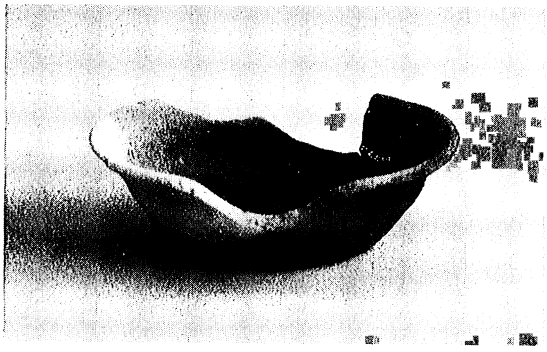
H－１２－２



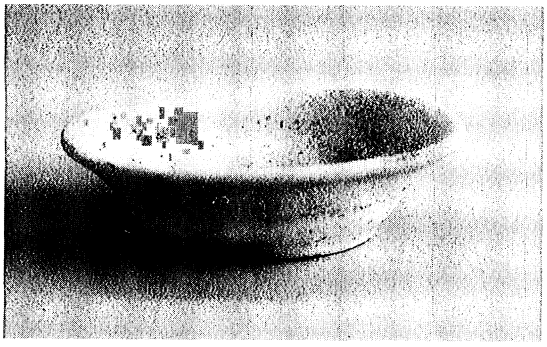
H－１４－１



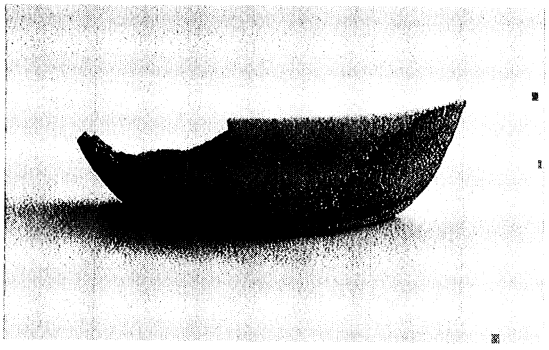
D－１－１



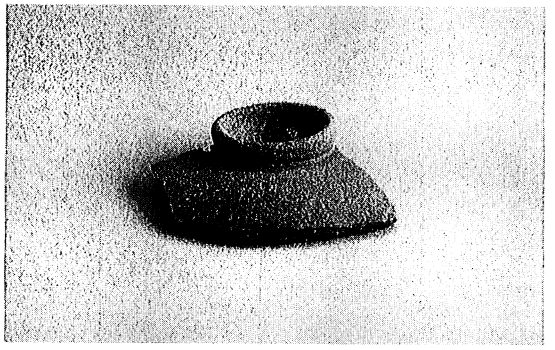
D－２－１



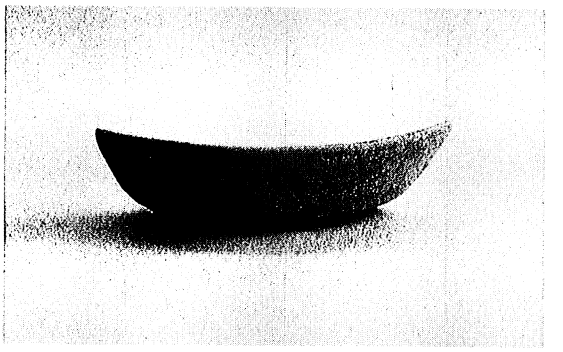
D－２－２



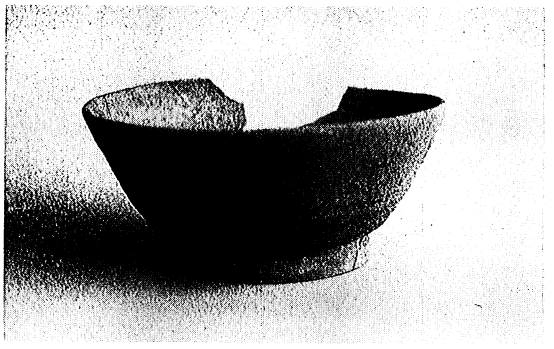
W－１－１



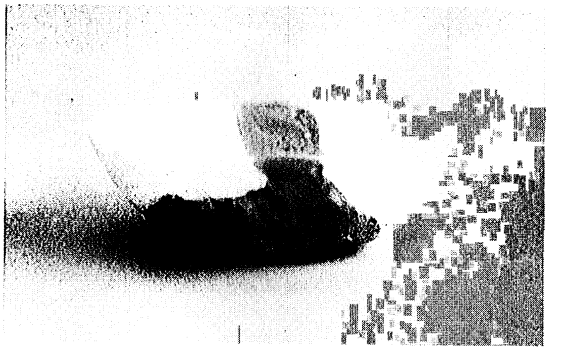
W－1－2



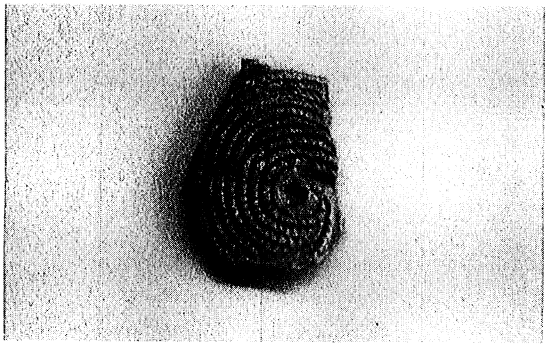
W－1 一括



W－2－1

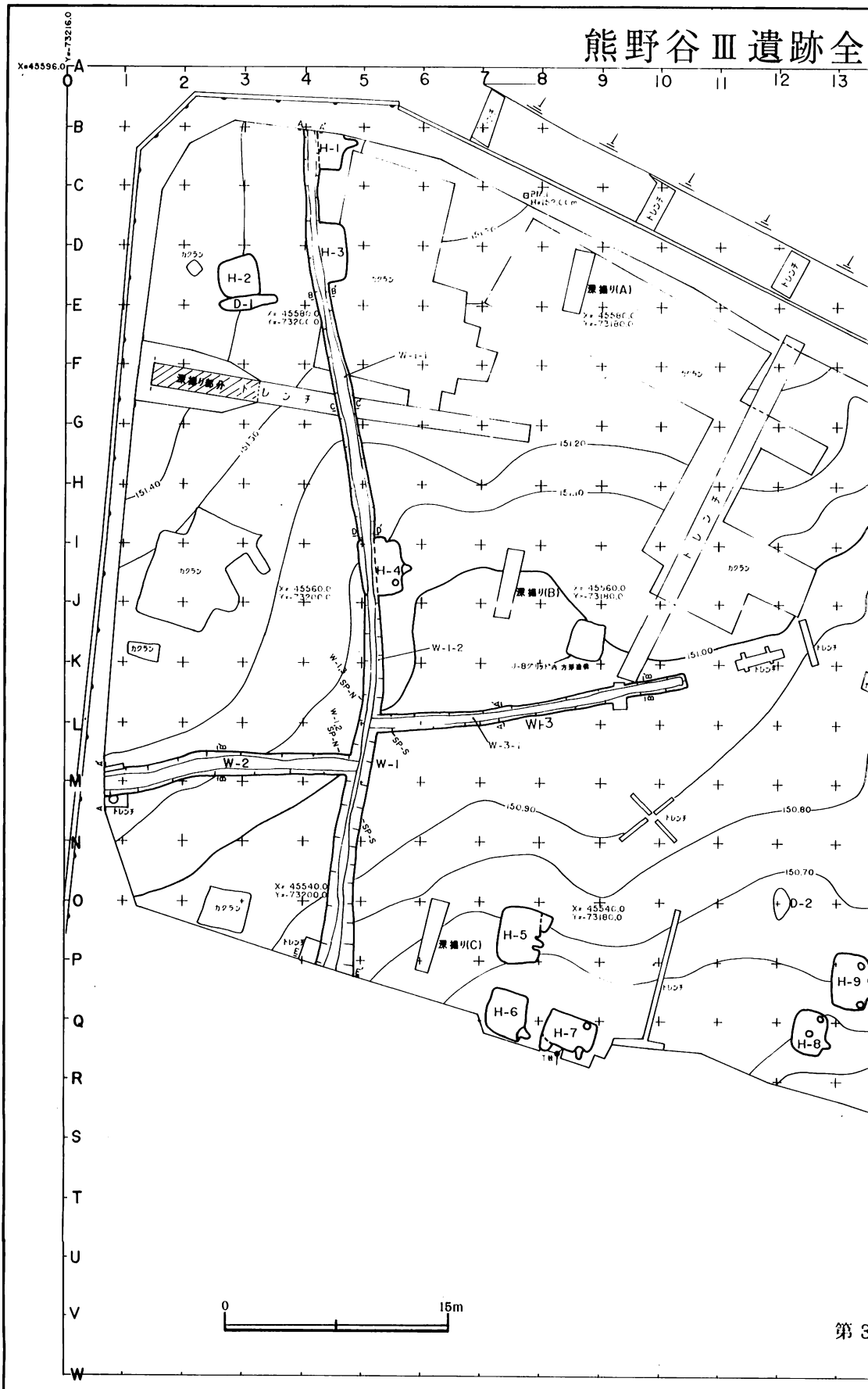


W－3－1



W－4 一括

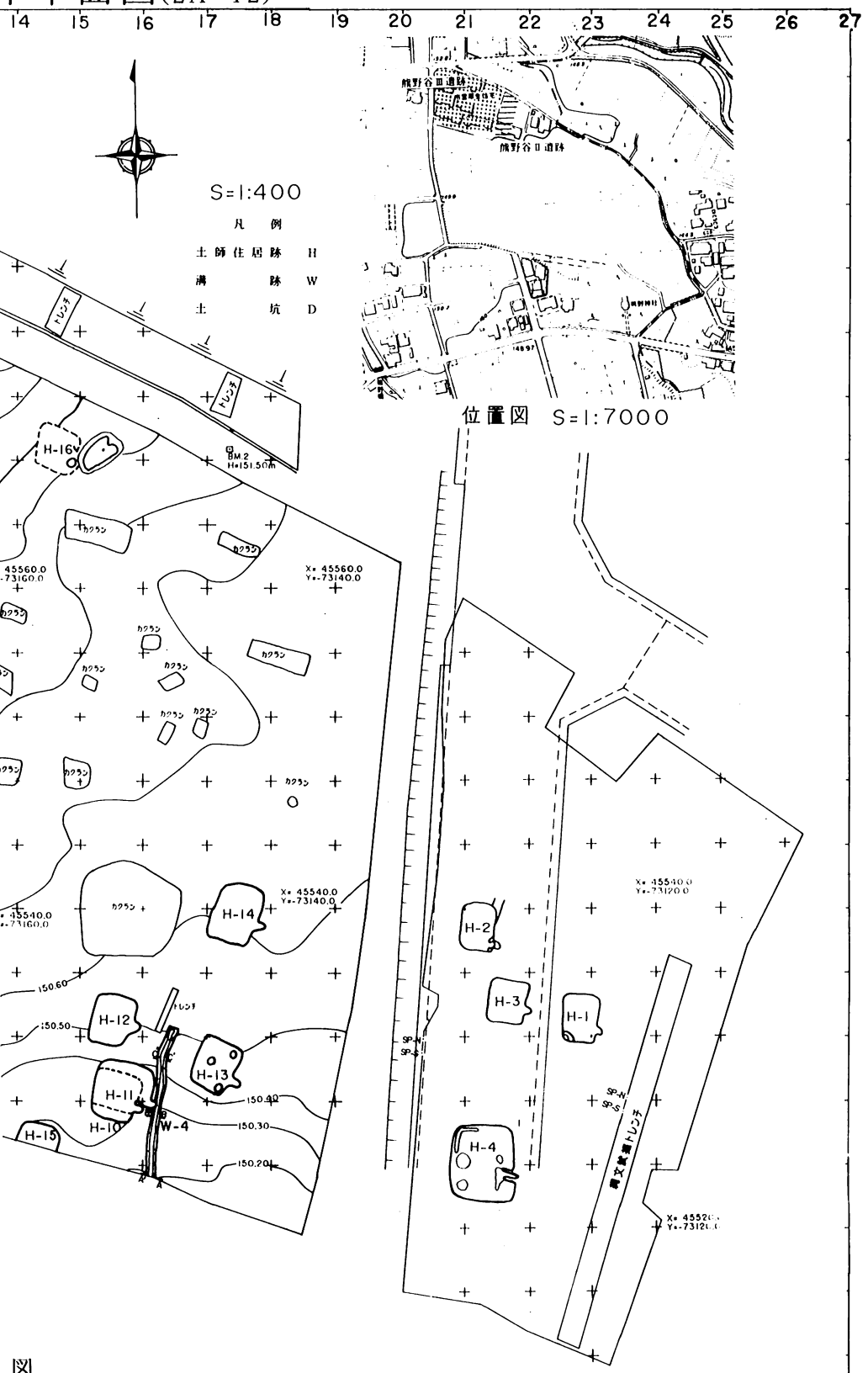
熊野谷Ⅲ遺跡全



X=45596.0
Y=-73216.0
H-1
H-2
H-3
H-4
H-5
H-6
H-7
H-8
H-9
D-1
D-2
W-1
W-1-1
W-1-2
W-1-3
W-2
W-3-1
W-3
SP-N
SP-S
カクラン
トレンチ
深掘り(A)
深掘り(B)
深掘り(C)
151.20
151.40
151.00
150.90
150.80
150.70
0
15m

第3

本平面図(2A−42)



図

熊野谷Ⅱ遺跡全体平面図(1A−42)

清里前原住宅団地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡

平成3年3月25日　印刷
平成3年3月31日　発行

発行者　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664番地の4

編集　スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1

印刷　有限会社サクラヤ印刷所
前橋市石倉町一丁目5番7号